

滋賀県立琵琶湖博物館 25周年記念資料集

滋賀県立琵琶湖博物館 [編]

2022年(令和4年)3月



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

目 次

これまでの歩み	1
参照資料	5

年表

2007年度	24
2008年度	28
2009年度	32
2010年度	36
2011年度	40
2012年度	44
2013年度	48
2014年度	52
2015年度	56
2016年度	60
2017年度	64
2018年度	68
2019年度	72
2020年度	76

数値でみる25年間

グラフ	80
数値表	96

これまでの歩み

1. はじめに

滋賀県立琵琶湖博物館（以下、びわ博）は、“湖と人間”をテーマに、琵琶湖と人間のより良い共存関係を地域の人々とともに考え、行動する県立の総合博物館として、1996（平成8）年10月20日に開館した。開館に至るまでの準備室時代のあゆみについては、『琵琶湖博物館開館までのあゆみ』（1997年）にまとめられている。また2006年（平成18）、開館して10年間の活動については、10周年記念として発行した『滋賀県立琵琶湖博物館研究部10年の歩み』および『企画展示でふりかえる琵琶湖博物館の10年』に記述されている。

その後15周年となった2011年（平成23）には、それまでの琵琶湖地域の研究成果として『生命の湖琵琶湖をさぐる』（文一総合出版）を出版した。さらに20周年となった2016年（平成28）には、20年間の研究成果の基づいた展示交流空間のリニューアルにおいて、第一期C展示室・水族展示室のオープンを迎えることができた。同時に、20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖」を開催し、研究を根幹とする博物館として、古代湖である琵琶湖の魅力を国内外の研究者とともに発信した。このように、2007年以降、節目の年には博物館から発信する事業を行ってきたが、博物館活動の包括した記録的な出版物は作成していなかった。但し、2014年（平成26）新琵琶湖博物館創造基本計画の資料編として、18年間活動記録を表にまとめたものがある。

今回、25周年にあたる2021年（令和3）は、2007年以降の博物館全体の主な活動記録と琵琶湖での出来事を年表にまとめた。また、開館した1996年以降の活動記録データを表やグラフで示し、今後の博物館運営に活かす資料集を作成することとし

た。なお、ここでまとめた年表の出来事および数値は、各年度の年報に基づいており、個々の博物館活動の詳細な内容等については、年報を参照していただきたい。

2. 琵琶湖博物館の「設置理念と基本理念」

琵琶湖博物館の設置理念として、「琵琶湖の多面的な価値を改めて解明し、それと人間の生活との関わり方を歴史的に考え、これからの私たちの湖とのつきあい方、すなわち新しい時代に相応しい湖と人との共存関係を探り、新しい文化の創造を模索していく」必要性をもつ（滋賀県立琵琶湖博物館1996）。びわ博は、「湖と人との関係を過去に遡って研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え、今後の望ましいあり方を考える組織」として位置付けられる（滋賀県立琵琶湖博物館1996）。それを受けて、(1)「湖と人間」というテーマを持つ博物館、(2) フィールドへの誘いとなる博物館、(3) 交流の場としての博物館、という3つの基本理念に沿って、様々な博物館活動を行ない、常に成長し続ける博物館を目指している。

3. 2007年以降の博物館の動き

2007年（平成19）以降、博物館の動きとして、前半は当館だけの活動に留まらず、他館や関係機関と連携をもちながら博物館事業を展開し、後半は最大イベントである展示交流空間のリニューアルが挙げられる。その背景には、琵琶湖博物館が目指す「湖と人間」のより良い関係を築いていくために、博物館は年々変化する人の動きや環境の情報を反映し、内容を更新し活動を広げる必要が

あった。中長期的に博物館はどうあるべきかを示す構想や計画のもと、地域の人々とともに日々の博物館活動を展開してきた成果とも言える。

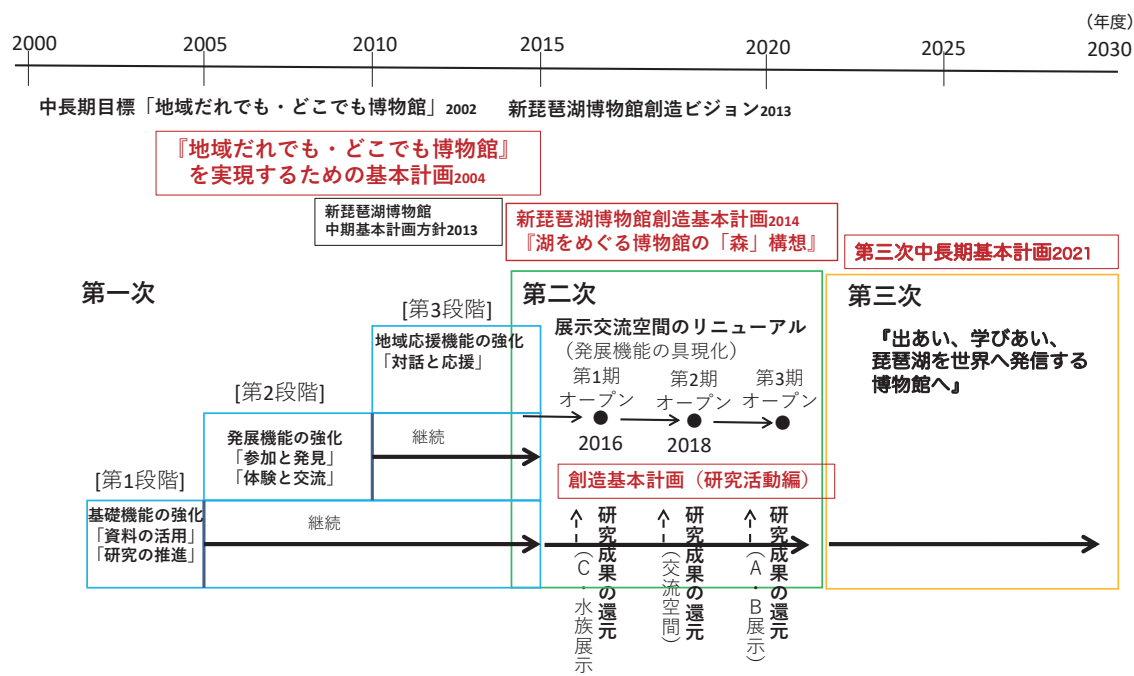
(1)博物館構想と中長期計画の変遷

1996年(平成8)10月に開館して以降、びわ博では2002年(平成14)12月に中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』を掲げ、2005(平成16)年3月に「琵琶湖博物館中長期基本計画『地域だれでも・どこでも博物館』を実現するために」が策定された。この第一次中長期計画は、2015年(平成27)までの間で第1～3段階の目標に向かって、成長する博物館を目指した。この中長期基本計画と同時に「琵琶湖博物館展示交流空間の更新整備に関する計画」も策定された(滋賀県立琵琶湖博物館2004)が、当時の財政的事情もあり、すぐに常設展示室全体の更新までには至らなかった。

第一次中長期計画の第3段階にあたる2013年(平成25)3月に「新琵琶湖博物館創造ビジョン」が策定され、7月に「新琵琶湖博物館中期基本計

画方針」がまとめられた(参照資料1)。それを受けた形で、2014年(平成26)に「新琵琶湖博物館創造基本計画―湖をめぐる博物館の“森”構想」が立案された(参照資料2)。この第二次中長期計画では、2020年(令和2)までの6年間で、従来の3つの基本理念を踏襲しながら、(1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、(2)次代を担う人が育つ拠点となる博物館、(3)地域活性化の核となる博物館、の3つの役割を担うとした。この計画は、主に展示交流空間のリニューアルがメインであったため、2017年(平成29)「新琵琶湖博物館創造基本計画(研究活動編)」(参照資料3)を追加し、展示更新を支えながら、世界を視野に入れた博物館での研究方針を示した。

第二次基本計画の成果として、2020年(令和2)10月にグランドオープンを迎えた。その新展示交流空間を活かしながら、10年後の社会に貢献できる新たな琵琶湖博物館の構想として、「第三次中長期基本計画」が2021年3月に策定された(参照資料4)。



琵琶湖博物館中長期計画の変遷

(2)各博物館活動の動向

2007年以降、第一次中長期計画(2006年～第二段階・第三段階)、第二次中長期計画(2014年～2018年)の計画に基づいて、様々な博物館活動が展開された。その中で、2008年の滋賀県の財政改革により大幅な予算削減があり、活動自体に制限や縮小されることとなった。そのため、他館や関係機関との連携を広げながら、外部助成金を活用して事業を行う傾向が増加した。また2016年以降、研究不正や研究倫理などコンプライアンスの徹底、外部審査による研究審査、薬品の棚卸しや管理体制等の見直しが進められた。

〈研究・資料〉

琵琶湖博物館で行う研究には、総合研究、共同研究、(申請)専門研究があり、2件の総合研究を中心に推進していたが、2011年度以降は主に1件となっている。外部資金である科学研究費への応募を強化し、研究部で採択率を上げるため、申請書チェック体制を設けた。2009年には全国都道府県立博物館で採択トップクラスにもなったが、2016年以降数年間は新規採択が0という時期もあった。現在では、新規申請件数の3割前後の採択をもつ。研究成果をわかりやすく伝えるために、2008年12月の閑散期から、一般向けの講座を実施してきた。「新琵琶湖学」の入門編、専門編、創造編を経て充実を図り、テーマを設定し、外部研究者にも協力を得ながら現在も継続化させている。2014年以降、第二次中長期計画に基づき展示リニューアルでは、20年間におよぶ研究成果を還元した。その一方で、湖南省博物館(2013年)、バイカル博物館(2014年)、国立洛東江生物資源館とオフリド水生生物研究所(2017年)など、海外の博物館や研究機関と包括的協力協定を締結し、研究調査や展示等の交流を推進してきた。

資料整備では、主に研究や調査あるいは寄贈による標本・資料が収集され、2018年に収蔵概数が約100万点に達した。年間登録数は5～3万点で、未整理資料が概数の半分以上ある状態が20年以上

続いている。その中で、年数をかけて整理した大口寄贈標本を活用した展示会も実施され、好評を得た。2011年3月東日本大震災が発生し、資料レスキューという新たな博物館の役割を担うため、陸前高田市立博物館所蔵の昆虫標本レスキューを行なった。また、国の雇用促進に伴う助成により、一時的に整理作業を進める機会もあったが、登録件数に反映されるまでには至らない状況であった。一方、収蔵庫環境の維持管理として、定期的な清掃や生物調査による予防と監視や、データロガーを用いた個々の収蔵庫の温湿度管理体制を補強するなど、IPMを推進してきた。しかしながら、空調設備や燻蒸庫、搬入口設備等の永年劣化により、機能低下に陥っている状況である。

〈交流・展示〉

館独自の交流事業であるフィールドレポーター(地域学芸員)は、1997年から現在まで100～200名の参加者となっている。年に2つ程度のテーマを設定し、県内の地域情報をまとめ、その変化を報告している。また、2000年に発足した「はしかけ制度」は、25グループ参加者約400名にまで達している。各グループは、博物館を拠点に地域活動を行なう方向で、博物館と地域をつなぐ役割が担えることを目指している。また、フィールドへの誘いとなる観察会や見学会を初め、里山や田んぼ体験、わくわく探検など体験を重視したプログラムから、指導者向けや夏休み自由研究など利用者ニーズに合わせた講座を行ってきた。2009、2010年度には、外部研究者を招いた特別講演会をホールで毎月1回、2011年には文化庁ミュージアム活性化事業で、連続講座「琵琶湖・自然と文化」を館外で行った。学校連携では、体験学習、ミュージアムスクール、自然調査ゼミナール、サテライト博物館(2007～2014年)を実施してきた。2003年以降学芸員に対して多様な地域・団体からの講演等の依頼が増加し、地域連携として位置付け館内外で対応している。またリニューアルを機に2014年以降、企業連携の事業も増加した。その中で、2011～2013年「あさ・ひる・ばん博物館を楽

しもう」を開催し、もっと博物館を利用してもらう機会を提供した。

展示活動では、博物館が行う常設展示、企画展示、ギャラリー展示、トピック展示以外で、2006～2017年に「使う・創る・集う 新空間」を設置し、地域で活動する人々が利用できる場と機会を提供した。約1ヶ月単位で、自らの活動を展示や交流を通じて紹介してもらうことを目的に、年間8～16件を受け入れた。この事業はリニューアルによって、常設展示室内で展開する方向となった。企画展示は、研究調査に基づくオリジナル企画で年1回(7～11月)、水族企画展示1回(～2019年)を開催し、8～4万の入館者数となっている。その中で、2008年第16回は『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画『ファールにまなぶ』として、国立科学博物館など5館連携で巡回展を実施した。2016年第24回は20周年記念『びわ博カルタ』で、博物館だけでなく地域、団体等の成果も含め、琵琶湖地域の研究調査結果を紹介した。そして2021年第29回は、25周年記念として、滋賀食事文化研究会と共催で『湖国の食事(くいじ)』を開催することで、より地域の方々とともに研究調査の結果を公表していく場を提供していく方向性を示した。ギャラリー展示は、県予算ゼロの中、博物館資料の利用や、他館や学会、外部団体との連携、助成金等で実施してきた経緯がある。常設展示のリニューアル時期には、展示評価を行う展示会も実施した。また、常設展示でのトピック展示やディスカバリールームでの展示替えやイベントなど、季節性や話題性を捉えて実施してきている。

〈組織：環境学習センター・創造室・広報営業〉

2010年に滋賀県環境学習センターが博物館内に設置された。2011年には琵琶湖基金を活用して、地域発見・参加型移動博物館を制作し、館外での琵琶湖や当館のPR活動を積極的に行った。その後、展示交流空間のリニューアルに伴い、2012年に新琵琶湖博物館創造準備室、2014年に広報営業課が設置された。2020年グランドオープンを迎え、新琵琶湖博物館創造準備室は閉室したが、広報営

業課は引き続き、博物館サポーター制度による外部資金等の協力推進を担っている。また、2016年4月に研究サイドの副館長のポストが初めて設けられ、2019年4月に内部学芸職員から初の館長職への就任があった。

(3)展示・交流空間のリニューアル (後半2014～2020)

琵琶湖博物館は2010年に展示交流空間のリニューアル宣言を行い、開館20年を機に、2016(平成26)年から2020(令和2)年の6年間をかけて、展示交流空間をリニューアルした。その工程は第1期(2014～2016年)C展示室・水族展示室、第2期(2017～2018年)ディスカバリー・ルーム、交流空間、第3期(2019～2020年)A展示室・B展示室の3期に分けて実施した。今回のリニューアルでは総額約29億円の費用を要し、その財源の確保として、寄付や展示サポーター制度を設け、企業や団体に足を運び協賛を募る活動を展開した。このリニューアル期間中、博物館は開館しながら、順次展示室を閉室して工事を行なった。その中で常設展示室だけでなく、第2期にミュージアムショップやレストランをリニューアルした。そして、図書閲覧室と創る・使う・集う「第三の空間」を展示室「おとなのディスカバリー」に替え、屋外展示空間に樹幹トレイルを新設した。エントランスでは、入館ゲートを兼ねたチケット販売ブースを設置し、1階の展示交流空間全てを有料空間に変更した。なお、今回の展示交流空間リニューアルの必要性や経緯については、亀田・里口(2018)で詳細に述べており、新展示の方針や内容については、亀田・里口(2018)および山川(2021)で紹介している。

参照資料1:「新琵琶湖博物館中期基本計画方針」2013

参照資料2:「新琵琶湖博物館創造基本計画―湖をめぐる博物館の“森”構想」概要版 2014

参照資料3:「新琵琶湖博物館創造基本計画(研究活動編)」2017

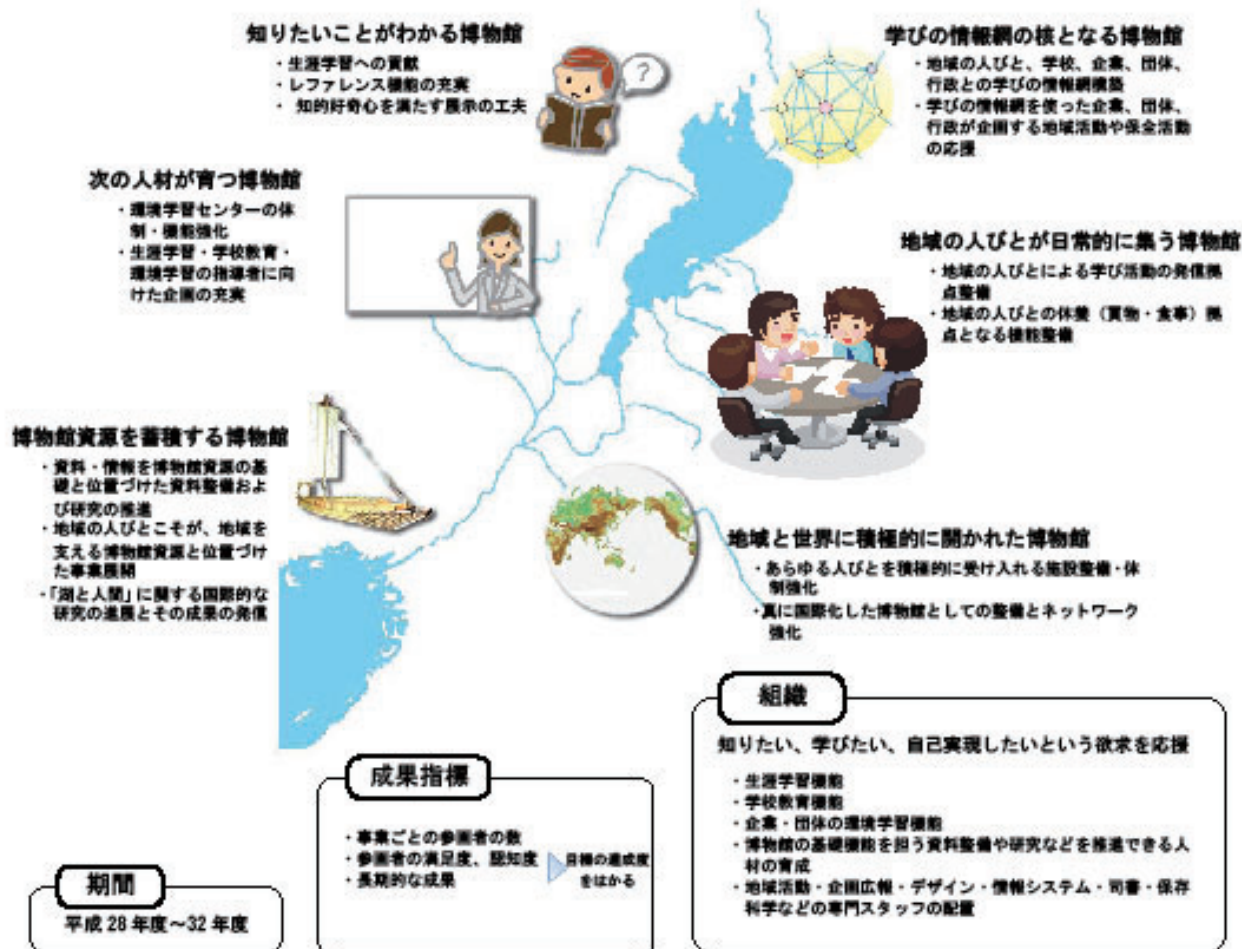
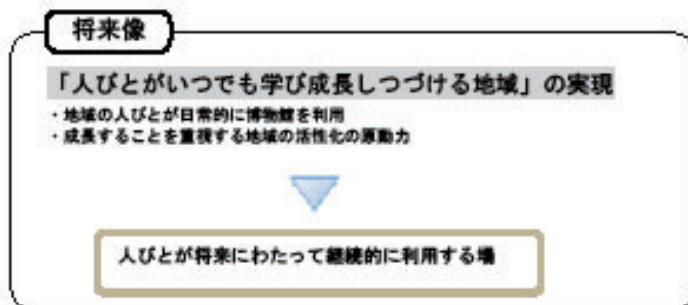
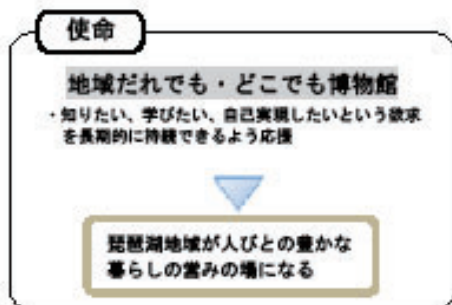
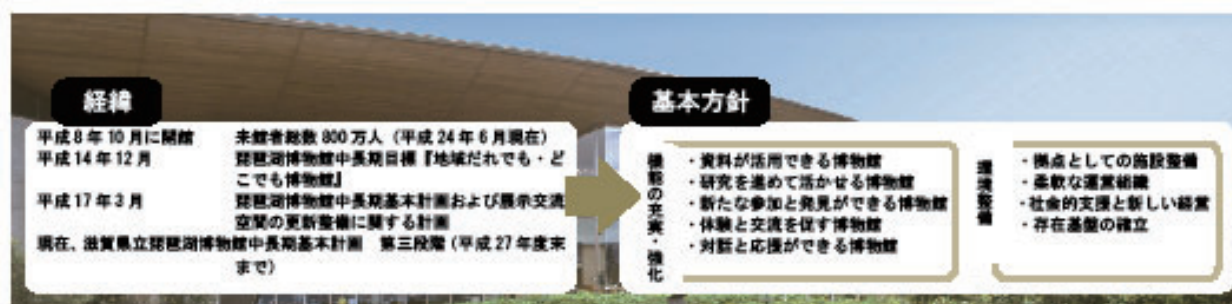
参照資料4:「第三次中長期基本計画」概要版 2021

参 照 資 料

新琵琶湖博物館中期基本計画方針

参照資料 1

—「人びとがいつでも学び成長しつづける地域」を実現するために—



平成 25 年 7 月
滋賀県立琵琶湖博物館

1 はじめに

滋賀県立琵琶湖博物館は、平成8年10月に開館し、平成24年6月23日に来館者は800万人に達した。この間、平成14年12月に琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』を定め、これを実現するために、平成17年3月「琵琶湖博物館中長期基本計画」および「展示交流空間の更新整備に関する計画」を策定した。現在、「滋賀県立琵琶湖博物館中長期基本計画」第三段階の諸課題に取り組んでおり、平成27年度末を終期としている。

これまで、「琵琶湖博物館中長期基本計画」では、目標像を実現するために「資料が活用できる博物館」「研究を進めて活かせる博物館」「新たな参加と発見ができる博物館」「体験と交流を促す博物館」「対話と応援ができる博物館」という5つの機能の充実・強化と、計画を推進する上で必要な「拠点としての施設整備」「柔軟な運営組織」「社会的支援と新しい経営」「存在基盤の確立」という4つの環境整備を基本方針として段階的に取り組んできた。これにより、目標像に近づくための発展、展開がなされてきた。しかし、目標を達成するには、より一層の発展や成長が必要である。

ここでは、琵琶湖博物館のさらに新しい展開を目指して、「新琵琶湖博物館中期基本計画方針」(仮称)を定めるものとし、その計画期間は5年間(平成28年度～32年度)とする。

2 使命

琵琶湖博物館は、ひきつづき現行の中長期目標である「地域だれでも・どこでも博物館」を目標像としながら、地域の人びとが知りたい、学びたい、あるいは自己実現したいという欲求に対し、それらが長期的に持続できるよう応援する。そうすることで琵琶湖地域が、人びとの豊かな暮らしが営まれる場となることを目指す。

3 将来像

博物館は、非日常的なことあるいは希少なものを展示することで満足するのではなく、地域に暮らす人びとが日常的に利用し、将来にわたって継続的に利用する場となることを目指していく。

また、人びとの暮らす地域が知識や情報を資源として成長することを重視する社会となり、博物館がそうした地域の活性化の原動力となることを目指す。人びとが変わり、地域が変わり、さらには琵琶湖地域が豊かな暮らしの営みの場になることを、将来に向かって求めていく。

4 機能と行動

新しい将来像の達成のため、地域の人びとの生涯にわたっての持続的な学びや成長を応援する活動を行う。

(1) 知りたいことがわかる博物館

①生涯学習への貢献

- ②レファレンス機能の充実
- ③知的好奇心を満たす展示の工夫
(本物標本を見せる展示、最新の研究成果を取り入れた展示)
- (2) 次の人材が育つ博物館
 - ①環境学習センターの体制・機能強化
 - ②生涯学習・学校教育・環境学習の指導者に向けた企画の充実
- (3) 博物館資源の整理と蓄積およびその研究と発信ができる博物館
 - ①資料・情報を博物館資源の基礎と位置づけた資料整備および研究の推進
 - ②地域の人びとこそが、地域を支える博物館資源と位置づけた事業展開
 - ③「湖と人間」に関する国際的な研究の進展とその成果の発信
- (4) 地域の人びとが日常的に集う博物館
 - ①地域の人びとによる学びの活動の発信拠点となるための整備
 - ②地域の人びとの休養(買物・食事なども含む)の拠点となる機能整備
- (5) 学びの情報網の核となる博物館
 - ①地域の人びと、学校、企業、団体、行政との学びの情報網の構築
 - ②学びの情報網を使った企業、団体、行政が企画する地域活動や保全活動の応援
- (6) 地域と世界に積極的に開かれた博物館
 - ①あらゆる人びとを積極的に受け入れる施設整備・体制強化
 - ②真に国際化した博物館としての整備とネットワーク強化

5 成果指標

展示観覧者数のみならず、博物館のあらゆる機能の事業を利用する参画者の数とそれぞれの満足度、認知度などを指標とする。長期的な成果も含めて指標を総合的に評価しながら、目標の達成度をはかる。

6 組織

使命を達成するため、生涯学習機能、学校教育機能、企業・団体の環境学習機能について貢献し、強化できる組織改編を行う。

また、博物館の基礎機能を担う資料整備や研究などを推進できる人材の育成に努めるとともに、目標実現のために必要な地域活動・企画広報・デザイン・情報システム・司書・保存科学などの専門スタッフを配置する。

琵琶湖博物館中長期基本計画達成度

(2013 年 3 月末現在の状況)

◎十分に達成 ○だいたい達成 △普通/一部達成 ×未だ達成できず

	評価基準	達成度	データ
博物館機能の強化			
(1) 資料が活用できる博物館			
第 1 段階	1) 資料はどのくらい収集し、データベース化や公開できたのか	△ 収蔵数に対しての登録数が少ない	収蔵概数 855,931 登録数 466,810 公開データベース 5 分野 19 項目 資料目録 16 冊 (魚類 4, 昆虫 2, 植物 5, 民俗 4, 図書 1)
第 2 段階	2) 琵琶湖博物館の資料や情報が地域の博物館や関連施設で相互に利用できるようになったのか	△ 積極的に相互利用できるしくみ作りがなされていない	
第 3 段階	3) 資料を保存し、利用しながら未来に伝えるという理念と体制が地域で育ったか	△ 活動を通じて徐々に広まりつつある	地学分野においては、「もぐらの会」を中心に意識的に地域の個人によって収集された資料を博物館で展示したり、博物館に収蔵する活動が行われている。生物分野では「滋賀むしの会」などが同様な活動を行っている。
(2) 研究を進めて活かせる博物館			
第 1 段階	4) 学術論文で成果をどれくらい発表したか	△ 学芸員数や分野数を考えると必ずしも多くはない	原著論文数 (年報より) 2012 年度 25 編 2011 年度 28 編 2010 年度 17 編 2009 年度 20 編 2008 年度 34 編
	5) 国内、国外の研究者と共同研究をどれくらい行ったか	△ 館内の総合、共同研究、科研費研究や館外のプロジェクトなどで出来ている人とそうでない人がいる。	2012 年度 共著論文・専門の著述 75 共同発表 60 研究プロジェクト 37 調査・学会渡航 10
	6) 地域の人々とどれくらいいっしょに研究できたか	△ フィールドレポーター、はしかけ活動を中心として、その他にもいくつかの調査研究成果がある	研究はしかけ：うおの会、たんさいぼうの会、田んぼの生きもの調査グループ フィールドレポーター調査 (毎年 2 回のテーマで実施 通産 40 回) 共同研究成果：滋賀県のトンボ、滋賀県のオサムシ分布、滋賀県のチョウ類の分布、足跡化石調査など 地学研究発表会を年 2 回開催。
第 2 段階	7) 琵琶湖博物館のテーマを活かした学際的あるいは地域的な研究はどれくらいできたか	△ 総合・共同・専門研究を中心に科研費研究などで行っているが、目標を定めて計画的に行っているとはいえない	(年報参照)
第 3 段階	8) 「湖と人間」というテーマでは、国際的な研究を先導し、地域の人々もその成果を	× 琵琶湖地域を題材とした国際発信は少ない。共同研究などで海外の	(琵琶湖関連の国際誌への投稿一覧、和文誌への英語論文の投稿数) 2012 年度 3 件 2011 年度 3 件

	利用しながら研究する方法を確立できたか	研究員を受け入れるなどしているが、地域の人びともその成果を利用しながら研究する方法は確立できていない。	2010 年度 1 件 2009 年度 1 件 2008 年度 5 件 2012 年度『Lake Biwa: Interactions between Nature and People』(Springer)出版, 15 名の学芸職員が 33 編の著述
(3) 新たな参加と発見ができる博物館			
第 1 段階	9) 展示交流空間の再検討に地域の人びとと協働し、提案を受け入れたか	△ 展示交流空間の再検討は展示リニューアルの検討事項であり、県民ワークショップを通して 3 つの立場から意見を聞いた、	
第 2 段階	10) 「地域だれでも・どこでも博物館」に沿った展示更新整備を行ってきたか	× 展示空間の整備は進んでいない。展示リニューアルの検討事項	
	11) 地域の人びとの参加による展示、地域の人との活動成果の発表の場となってきたか	○ 「集う・使う・創る新空間」の創設を行った。常設展示においてフィールドレポーターの成果を展示した。 企画展示においても“はしかけ”の活動を一部取り入れたり、もぐらの会の展示などを行ってきた。 A 展示では不定期でもぐらの会の人による交流事業を開催 はしかけグループ「ほねほねくらぶ」では、資料の作成および保存、展示、交流への活用がなされている。	●新空間の展示回数 2012 年 14 件 2011 年 8 件 2010 年 11 件 2009 年 14 件 2008 年 11 件 ●フィールドレポーターの展示一覧 C 展示「スクミリングガイおよびタニシ類の分布調査」「いっしょに調べた水辺の植物」「イチョウウキゴケを探そう」「夏のセミ調査」「ミノムシ調査」「滋賀の天然水と水の神さま」「テントウムシ調査」「近江ことば調査」「ボタンウキクサ分布調査」「みちしるべ今昔調査」「年末年始の食調査」「ツバメ調査」「オオヨシキリ調査」「エドヒガン調査」「竹の利用法調査」 「生物の予知能調査」 ●はしかけの活躍した展示一覧 【企画展示】 骨の記憶 (2009 年度), 琵琶湖のコイ・フナ物語 (2007 年度) 【ギャラリー展示】 食事博 (2011 年度), 近江の糸と織り (2011 年度), ミクロの世界を探検しよう (2004 年度), 糸を紡いで布を織る (2004 年度), ●地域の人が活躍した展示 近江のふるさと絵屏風と未来予想図 (2010 年度), 鉱物化石展 2010 (2010 年度), うるわしの琵琶湖よ永遠に (2008 年度), 滋賀の植物標本・写真展 (2004 年度), 鉱物・化石展 (2001 年度) C 展示「滋賀県のおサムシ展示」, 歩く宝石おサムシ (2005 年度), 近江はトンボの宝庫 (1998 年度)

	12) 琵琶湖地域における博物館との関係を密にしながら、国内外の博物館との共同展示を行ってきたか	△ フランス自然史博物館および国内 4 館とは企画展を共同開催 県博協 30 周年記念事業を通じた滋賀県内の各館との合同ワークショップと巡回パネル展を開催 日本動物園水族館協会主催事業運営と共同開催。琵琶湖淀川水系に位置する水族館と共催による企画展示を開催	・企画展示「フェアブルにまなぶ」(2008 年度) ・水族企画展示 「びわ湖・淀川・大阪湾 水の旅 ーびわ湖で少なくなった魚と貝ー」(2003 年度) 「いま、日本の淡水魚があぶない」(206 ～2007 年度) 「守ろう！琵琶湖・淀川水系の魚たち」(2010 年度) 鳴く虫の巡回展(2011 年度) ・水族トピック展示 「明日へつなぐ日本の自然ーよみがえれ、日本の希少淡水魚」(2011～2012 年度)
	13) 展示交流員のあり方を検討してきたか	△ 展示交流員の職場環境は改善されていない。 H23 年には委託業者が変更となった 展示交流員などによるこれまでの展示交流の評価・検証が必要である	
第 3 段階	14) 国内外の博物館との連携した活動の強化、相互に地域拠点となるような協働プロジェクトを行ってきたか	△ 連携した活動はあまりできていない。西日本自然史博物館ネットワークのなかでも消極的だが、東日本大震災で被災した昆虫標本の修復とデータベース化を進めることができた。 JICA を通じての海外博物館等の職員研修実施 博物館や企業と連携して、第 6 回生物多様性協働フォーラムを開催 滋賀県ミュージアム活性化推進事業へ参加し、安土城考古博物館との講座開催。水生植物公園みずの森との外国人向けのリーフレット作成	●国際関係 フランス自然史博物館「相互交流に関する覚書」(1998～) バイカル湖博物館 中国科学院水生生物研究所 JICA 集団研修「博物館学コース」 ●国内博物館 日本博物館協会 全国科学博物館協議会 日本動物園水族館協会 西日本自然史博物館ネットワーク ●県内 滋賀県博物館協議会 安土城考古博物館 水生植物公園みずの森 長浜城歴史博物館
(4) 体験と交流を促す博物館			
第 1 段階	15) 体験学習プログラムの充実はなされたか	△ 体験プログラムはあまり増加していない。	●団体・学校向け ・琵琶湖のプランクトンを見てみよう ・化石のレプリカをつくろう ・ヨシ笛をつくろう ・昔のくらしを体験しよう ・わら細工をつくろう ●子供向け ・春の草花でしおりをつくろう ・プラばら～プランクトンのばらばらまんが ・琵琶湖の模型をつくろう ・光とかげで写真をとろう～水の中の植物片 ・秋の色をさがしてみよう

第2段階	16) 学校教員, 指導層を対象とした研修やモデル事業を通して, 学校と地域, 博物館をつなぐ活動を行ってきたか	○ 指導者や教員養成の講座, 研修会を開催している	・指導者のための博物館活用講座 ・教員研修
	17) 地域の人びととの連携による体験学習と交流活動を行い, 地域での人びとの活動を応援してきたか	△ 夏休み自由研究講座, 観察会などの講師に地域の人をお願いした地域での観察会は徐々に地域に渡していくことを意識して実行する必要がある	・観察会 ・わくわく探検隊 ・体験教室など
第3段階	18) 地域と学校が琵琶湖博物館と一体となって, 地域の価値を発見するために, 地域の自然, 歴史, 暮らしを考える仕組みを確立してきたか	○ 伯母川探検隊, ミュージアムスクール事業, サテライト博物館などの活動を行っている。具体的事例を一般化し, 仕組みを確立する必要がある	・地域科学館連携支援事業「伯母川探検隊」(2003年度), ・「びわ湖・ミュージアムスクール」 ・立命館守山中学との連携事業 ・サテライト博物館
第1段階	19) 「はしかけ」やフィールドレポーターをはじめとする地域での自主的な活動や計画を提案し, 進めてきたか	○ はしかけやフィールドレポーターの活動を総括して, 再検討する必要がある	・はしかけ 15 グループ約 356 名 (2012年度) ・フィールドレポーター約 93 名 (2011年度) ・2 回調査, 26 回定例会 (2012 年度)
第2段階	20) 「はしかけ」や「フィールドレポーター」とそこから展開する地域のグループ活動の応援を行ってきたか	× これらの活動は, 博物館内の活動に終わっていることが多く, さらなる展開を考える必要がある	・フィールドレポーターアキアカネマーカーキング調査を伊丹市昆虫館と共同で実施 ・はしかけ田んぼの生き物調査グループ
	21) 地域で活動する人づくりにつながる観察会や講座などを実施してきたか	△ 一部はあるが, 十分にはできていない	・指導者向け講座 ・琵琶湖博物館創造セミナー ・琵琶湖博物館特別講演会 など
第3段階	22) 地域における自主的なグループの活動を博物館で発表し, 博物館の展示更新などの活動につなげたり, 地域の人びとが中心になって行う観察会や講座などを博物館が応援してきたか	△ はしかけ発表会やその他の一部の活動の発表は行ってきたが十分ではない。個別に行った応援を, 館全体で集約, 整理する仕組みができていない	・高島市での発表会 ・旧蒲生町(蒲生野考現倶楽部)での足跡調査 ・地域連携事業における講師の派遣 ・地域団体等との共催の観察会(希望が丘文化公園、朽ち木生きものふれあいの里)
	23) 琵琶湖地域で活動する個人や団体が, 地域の価値を発見し, 地域の社会を見直す組織となるよう博物館が応援してきたか	△ 環境学習センターを通じて, 環境学習に関して実施団体や個人の紹介は行ってきた。また学芸職員が個別に対応していることが集約, 整理されておらず, 組織としての対応は不十分	

	24) 琵琶湖博物館が地域からの認知と支援を受けられるよう、地域において博物館が応援する活動の成果を積極的に公表し、琵琶湖地域の中での存在基盤を確立してきたか	× 博物館が応援する活動はまだ十分とは言えない	・ こどもエコクラブの発表会
2 環境の整備			
(1) 拠点としての施設整備			
第1段階	25) 来館者アンケートや博物館利用者との対話により、利用者のニーズを的確に把握しながら、人びとに利用しやすい博物館づくりを進めてきたか	△ 来館者アンケート(年3回)、企画展、観察会などでアンケートを実施。来館者アンケートは、意見に対して回答と可能な範囲で改善を行ってきた。観察会、講座については、アンケートをもとに可能な限り改善を行い次年度の計画に活かしてきた。企画展についてはアンケートの活用方法を検討する必要がある。	
	26) 来館者や利用者との対話を取りまとめて公開してきたか。また、利用者の満足度向上に向け、職員、関係者が一丸となって取り組んできたか	△ 職員が一丸となってやる気風に欠ける	
第2段階	27) 収蔵・保管施設の増築と設備の拡充を計画的に図り、収集、整備された資料や情報は、展示交流空間においても活用できるようにしてきたか	△ 資料整備環境は予算の削減に伴って後退。資料の情報は順次公開し、ホームページ上では活用できるようになっているが、展示交流空間で利用できるようにはなっていない	
(2) 柔軟な運営組織			
第1段階	28) 事業と研究の兼務体制を基本にしながら、効率的な計画実現に向けた組織の再編と事務事業の見直しを行ってきたか	× 組織の再編および事務事業の見直しは、できていない	
第2段階	29) 地域活動、企画広報、デザイン、情報システム、司書、保存科学などの専門スタッフを順次配置してきたか	× 専門職は配置できていない	
(3) 社会的支援と新しい経営			
第1段階	30) マーケティング	△	

	グ・マネージメント機能の強化、経営的視点を取り入れた経営・広報戦略を策定して、効果的・効率的な博物館運営を行い、博物館利用者を積極的に確保したか	広報戦略会議を立ち上げ、広報機能強化を図ったが、経費面、専門性に限界あり	
第2段階	31) 幅広い財源の確保に努めたか	△ 展示コーナーの一部や研究費の一部において外部資金を導入している。ホームページ上にも広告の掲載をおこなっているが、事業面での大きな外部財源は確保できていない	・「WWF・ブリヂストン びわ湖生命（いのち）の水プロジェクト」における「お魚ネットワークの成果展示」 ・ブリヂストンの「お魚ネットワークの成果展示」
	32) 「地域だれでも・どこでも博物館」の目標に沿った活動を重点的に行うことにより、事業の効率化と質の向上を図ってきたか	△ 活動を重点的には行っていない。効率化や質の向上は図られていない。地域での観察会事業については、主体を地域団体に移行していく意識が低い	
第3段階	33) 地域の中で独自の役割を果たし、予算や管理運営の簡素化の流れの中で、その博物館機能を十分に果たしているか	○ 予算が削減された中でも、地域の中で一定の役割を果たしている	
(4) 存在基盤の確立			
第1段階	34) 博物館としての詳細な活動結果および研究成果について、印刷物およびインターネットページにおいて、自己評価を付記して公開する	△ 事業および研究における業績はホームページ上で公開	
	35) 活動結果、研究成果などは、博物館協議会に報告して評価を得るなど、既存の活動の見直しや新たな活動を効果的に進めるために役立てたか	○ 年2回、博物館協議会を開催している。行動計画を作成し、目標を絶えず意識している	
第2段階	36) 博物館協議会は、従来の役割に加えて博物館活動の成果を評価する機能や博物館運営の応援のための機能を拡充したか	△ 各委員には応援する意志があるが、日常的に応援を受けることは実質的に不可能	
第3段階	37) 琵琶湖博物館の活動を通じて、琵琶湖博物館の使命と目標への理解を得て、琵琶湖地域での琵琶湖博物館の存在基盤を確固	△ 途上である	

	たるものにしたか		
--	----------	--	--

【「出来たこと」と「出来ていないこと」】

「資料が活用できる博物館」：資料の収集はできているが、登録作業は遅れている。それらを他の博物館で相互に使える仕組みはできていないが、これが本当に必要なのかどうかは検討しなくてはならない。

「研究を進めて活かせる博物館」：研究成果は出ているが、琵琶湖博物館のやるべき研究が計画的にできていない。現在はできるものを行っているだけなので、具体的な方針が必要である。

「新たな参加と発見ができる博物館」：施設や組織に関することについての改善は簡単ではなく、展示リニューアルに合わせた改善が望まれる。そのための、改善点を洗い出す必要がある。地域の人たちとの協働は、まだ十分ではなく、学芸職員一人ひとりが意識して活動しなくてはならない。また、個人の活動で終わってしまう傾向が強いため、館内で情報を共有し、館としての活動へ発展させる意識を持つ必要がある。

「体験と交流を促す博物館」：一般の博物館の活動以上のことが継続的にできていない。地域の活力ある人、博物館経験のある教員などとの活動を継続的に行うしくみやプログラムが必要である。

「対話と応援ができる博物館」：はしかけやフィールドレポーターについてのこれまでの総括と今後のあり方について検討が必要。それ以上の地域への応援は、ほとんどできていない。

「拠点としての施設整備」：オープン当初に改善できることはかなりやってきた。現在残っていることは、施設や人事に関することが多く、簡単には改善しにくい。展示リニューアルに向けて、改善すべき点を検討することが必要。施設については、老朽化への対応と低コストで環境負荷の少ない設備への転換が必要。

「柔軟な運営組織」：組織（専門）に関する改善は職員採用時に少しずつ変更することが可能なので、今後の体制について事前に十分な検討をしておく。

「社会的支援と新しい経営」：マーケティングや効率の良さは、公立博物館の最も苦手とすることのひとつであるため、積極的に推進する意識を持つ必要がある。しかし、このことに固執すると博物館本来の使命を忘れる可能性もあるので注意を要する。いずれにしても、博物館とその活動を広く知ってもらうための広報の工夫は大いに必要である。

「存在基盤の確立」：それぞれの分野あるいは博物館の世界において琵琶湖博物館の存在は知られている。しかし、琵琶湖地域の住民にとっての琵琶湖博物館の必要性は十分に認識されてはいない。様々な活動において住民に使える博物館を模索し、琵琶湖博物館の認知度をあげなくてはならない。また、琵琶湖博物館のみならず、日本の博物館全体がその存在意義を社会的に認知されるような活動も、考慮に入れておく必要がある。

新琵琶湖博物館創造ビジョン 概要版（平成25年(2013年)3月）

湖をめぐる博物館の「森」構想

～博物館の「木」から地域の「森」へ～

使命と基本理念、めざすもの

■使命（平成8年度～）

琵琶湖博物館は、研究・調査に基礎をおきながら交流・サービス、情報の収集・発信、資料整備、展示を総合的に行うことによって、琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然、歴史、暮らしについての理解を深め、地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いていく。

■中長期目標（平成14年度～）

「地域だれでも・どこでも博物館」の実現

■基本理念（平成8年度～）

テーマをもった博物館

「湖と人間」というテーマにそって、未知の世界を研究し、成長・発展する博物館

フィールドへの誘いとなる博物館

魅力ある地域への入り口として、フィールドへの誘いの場となる博物館

交流の場としての博物館

多くの人びとによる幅広い利活用と交流を大切にする博物館



使命、基本理念、中長期目標を継承し、これまでの評価や課題、社会や地域の要請をふまえ、「湖と人間」の新しい共存のあり方を提示するため、展示交流空間を再構築する



琵琶湖・淀川流域から「湖と人間」を考える
地域の人びとの誇りとなる博物館！

環境先進地域「関西」をリードする環境学習と情報の収集・発信の拠点
地域に根ざしながら広く世界を視野に入れた研究・交流のネットワーク施設



滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM

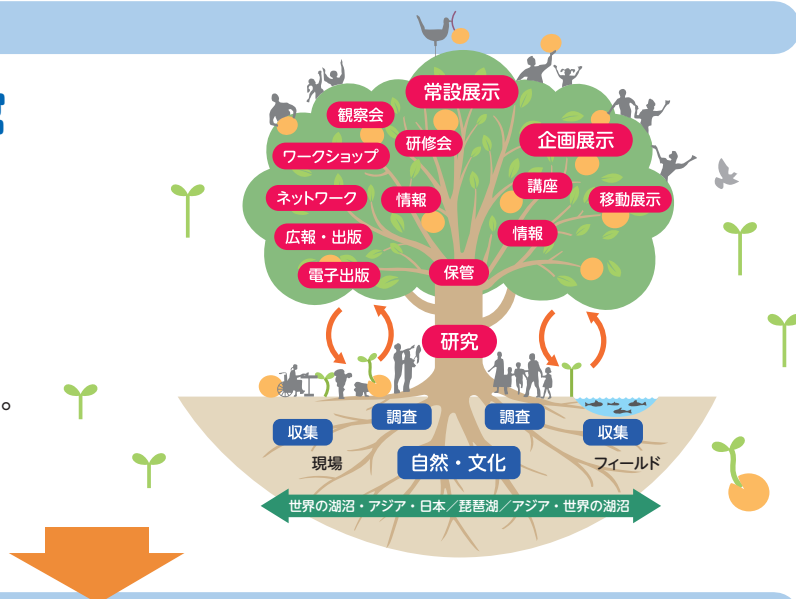
～博物館の「木」から地域の「森」へ～

今の琵琶湖博物館

成木になった琵琶湖博物館

研究・調査や交流活動などにより、多くの成果を生み出してきた一方で、展示構造が固定的なため、それらの成果を生かしきれていない課題に直面している。

より魅力的なプログラムなどの開発も含め、時代に即した情報受発信力の強化を求められている。



リニューアルでめざす新琵琶湖博物館

親木となる琵琶湖博物館

展示交流空間の再構築を通じて、タイムリーでわかりやすい情報受発信の機能を高め、より多くの人びとに琵琶湖博物館を利用してもらう。

地域の人びと一人ひとりの心に「種子、挿し木、幼木」を渡していく博物館をめざす。



将来的な地域の姿

湖をめぐる博物館の「森」の誕生

琵琶湖とその集水域および淀川流域の自然、歴史、暮らしへの理解が深まり、地域の人びととともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いた社会の実現。



1 琵琶湖博物館の実績と現状

(1) 経緯と評価・来館者数

- ・「湖と人間」をテーマに平成8年に開館
- ・来館者数800万人を達成（平成24年6月）
- ・観察会・体験教室・講座を年間200回以上開催
- ・博物館の事業・研究に地域の人びとがかかわる「はしかけ」（現登録者数356名）や「フィールドレポーター」（現登録者数90名）制度を全国に先駆けて構築
- ・資料を累計85万点収集、45万点を整理登録。資料データベース17分野、電子図鑑8分野を公開
- ・活動の深まりと広がり、対外的な評価を得る一方、平成12年に50万人だった年間来館者数が、平成23年には37万人に減少
- ・未就学児～小学生の来館者数はほとんど変わらないが、大人の来館者数が減少

(2) 社会情勢の変化

- ・少子高齢化の進展、高度成長から生活の質を重視する成熟の時代へ
- ・環境に対する考え方や価値観の多様化、生物多様性や持続可能社会などの新たな環境観が社会的に広まる
- ・外来生物の移入、鳥獣害、琵琶湖深層部の低酸素化など新たな環境課題の顕在化
- ・地球温暖化対策としての低炭素社会の実現などの新たな社会的な動きが活発化
- ・府県域にとどまらない自然共生型社会づくりなど広域的な環境保全の要請

3 リニューアルのあらまし

(1) 「湖と人間」の展示交流空間の再構築～新たなコンセプト

高度化・複雑化した情報をわかりやすく、タイムリーに伝える博物館

大人も日常的に楽しめる、活用できる博物館

(2) 常設展示の再構築

常設展示再構築の方向性：現在の展示の良さを生かしつつ、常設展示の発信力を強化する。

- ・実物資料（本物）を活かした感動をよぶ展示
- ・展示更新が随時行われ、来るたびに新鮮で新しい発見のある展示
- ・子どもたちにとってもわかりやすく楽しい、参加型の展示
- ・自分たちの日常とのかかわりが意識できる展示
- ・暮らしと自然にかかわる価値観の変化や新たな環境課題に対して、最新の研究成果や考え方を提示する学びの展示
- ・地域の人びとが調査研究成果や収集資料を紹介する市民とつくる展示

[A展示室：琵琶湖と生き物のおいたち]

現在までの数百万～数万年という長い時間スケールによって理解できる環境の変化とそれに関連した生き物の進化と絶滅など、現在の琵琶湖やその環境、生き物があるバックグラウンドを知る空間。

[B展示室：身近な自然と人びとの暮らしの歴史]

人が定住をするようになってから現在までの1万数千年の時間スケールによって理解できる自然のリズムや変遷の中での、人びとの暮らしや自然観、生き物観を紹介する。

[C展示室：近年の環境と人の活動]

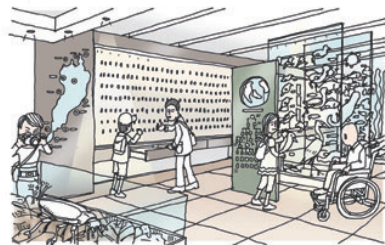
近年に起きた自然環境や人の暮らしの変化といった数十年の時間スケールによって理解できる事象や現在の琵琶湖地域の事柄について、分野を横断して多様な視点で紹介する。学芸職員による最新の研究成果を定期的に更新しながら紹介する展示により、常に新しい話題を提供。

[水族展示]

近年の環境について生き物を中心に示す展示。琵琶湖とその周辺の淡水水域を中心とした生き物を主役とし、その生態、生物間や人の暮らし、特に漁業などとの関係性を紹介する。

〔展示室イメージ〕

蓄積された
実物資料を
活用しや
すい可変性
の高い展示
システム



2 リニューアルに向けた考え方

(1) 対応が求められるターゲット層と利用者数の向上に向けた取り組み

- ① **大人の潜在利用者層**： 魅力を伝える情報発信力の強化、大人が一人でも利用したいと感じ、楽しめる展示・レファレンス機能
- ② **親子利用者層**： 親子で楽しめる展示やイベント、大人になっても利用したいと思わせる展示・体験空間の提供
- ③ **観光客**： 観光客が興味を抱く展示・イベント、季節ごとに楽しめる屋外体験の充実、周辺観光スポットとの連携

(2) リニューアルに向けた考え方

- ・ 研究・調査の成果を常設展示で発信
- ・ より魅力あるプログラムの開発と提供
- ・ 多くの人が博物館と多様な形で関わり能力を発揮する場に
- ・ アミューズメント機能の強化、交流施設の充実
- ・ ICT(情報通信技術) 活用やレファレンス機能の充実
- ・ 情報発信機能、刊行物の強化
- ・ 収蔵されている膨大な資料・標本を展示に活用
- ・ 随時更新可能な可変性の高い展示空間へ

(3) 交流空間の再構築

交流空間再構築の方向性：参加と発見、対話と交流を促す交流空間を構築する。

- ・ 博物館の楽しさが伝わり、知的好奇心を育み、新たな活動の場となる交流空間
- ・ 博物館周辺の琵琶湖やヨシ帯とつながる自然を体感する屋外交流空間
- ・ 博物館の魅力を増すアミューズメント機能の強化

【大人のディスカバリールーム（仮称）の新設】

資料・標本や複製、図鑑を備え、来館者が自由に触れ、調べ、観察できる大人の興味や探究心に応えるコレクションルーム。博物館スタッフや地域の人びとの活動を見学し、交流もできる学習交流空間。

【ICT（情報通信技術）を活用した交流空間】

快適でスピーディな学びや情報受発信・交流の推進。

【体験型交流空間】

昔の道具の使用体験、サイエンスカフェやミニ講座など、過去を理解し、新しいことを発見する学びの場の充実や交流を育む空間。



参考：オーストラリア博物館

【屋外交流空間】

周辺の琵琶湖やヨシ帯とつながる自然を体感し、過去の里山や農村の暮らしなどが体験できる屋外交流空間。

【レストラン等アミューズメント機能】

地元の食材や特産品を楽しめるレストラン、楽しいミュージアムショップなど、魅力的で博物館の価値を高めるアミューズメント機能の充実。

(4) 交流機能の強化

だれにとっても居心地が良く、開かれたわかりやすい交流活動の推進と情報受発信の強化により、多様なつながりを広げていく。

【博物館活動の交流基盤機能の強化】

博物館活動の窓口機能の統合、情報受発信力の強化、さまざまな主体との連携構築。

【学校等との連携】

自主的な問題発見と学びを応援、博物館と学校をつなぐ人材の育成、高校・大学等との連携強化、学校と地域で活動している人をつないでいく。

【利用者参加制度】

はしかけグループやフィールドレポーター等利用者制度のさらなる充実、新たな協力者制度。

【国際協力機能】

国際湖沼環境委員会（ILEC）との連携強化、資料・情報収集、研究、交流、展示の国際化、地域と海外の人的交流の促進。

(5) 利用者の立場に立った施設整備・運営の確保

【情報をよりわかりやすく、より多くの人びとに発信】

【ユニバーサルデザインの推進】

【安全で効率的な施設・設備の整備】

【サービス向上に向けた付帯設備・空間等の整備・拡充】

【互いに有益となる外部資金導入、企業連携等】

琵琶湖博物館創造基本計画

湖をめぐる博物館の「森」構想 ～博物館の「木」から地域の「森」へ～

研究活動編

1. はじめに

平成26年3月、新琵琶湖博物館創造基本計画が策定されました。ここでは、これまでの博物館の研究・調査や事業の実績に基づき、また社会状況の変化にも対応して『博物館の「木」から地域の「森」へ』という構想がまとめられ、その理念の基に展示や交流のリニューアル計画（第1期から第3期）が開始されました。この研究活動編では、新琵琶湖博物館創造基本計画の一環として、平成28～平成32年度における研究活動方針について策定します。

2. これまでの実績

平成8年10月にオープンした琵琶湖博物館は研究・調査を博物館活動の基盤と位置づけ、総合研究11件、共同研究94件、専門研究を行ってきました。これらの研究・調査は学芸員、特別研究員だけでなく、はしかけ、フィールドレポーター、地域の人びとと共に行ったものもあります。これらの研究成果は、原著論文572件や学会発表1676件、研究調査報告書25件として公表されたほか、企画展示23件、水族企画展示28件、講座369件などの博物館事業にも活かしてきました。

3. 研究成果のリニューアル事業への展開

開館以来蓄積されてきた研究成果や収集した資料は、平成28年～平成32年度に3期に渡って行われる展示・交流空間のリニューアル事業に活用します。

まず第1期では、開館以来行われてきた生態系研究領域の研究を中心にして、C展示室および水族展示のリニューアルを行います。同様に第2期では、博物館学研究領域の研究を中心にして、交流空間のリニューアルを行います。そして、第3期では、環境史研究領域の研究を中心にして、A展示およびB展示のリニューアルを行い、琵琶湖やその周辺地域の自然や文化の魅力を発信します。

4. 継続的な研究推進

琵琶湖博物館は、これまで研究・調査活動こそが博物館活動の根幹であると位置づけて、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に見つけてきました。この理念や活動はこれからも継続していきます。そのための、今後5年間の研究方針は以下のとおりです。

(1) 琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせで行う。

(総合研究の課題)

- ・琵琶湖地域の自然および自然観の通時的変遷に関する研究
- ・過去から現在における琵琶湖淀川水系の自然と人の暮らしの変遷研究

(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

(課題)

- ・湖の形成とその環境変化、固有種の成立、種分化や進化、湖辺での暮らしや歴史的な人と湖との関わり捉える研究
：主にバイカル博物館、オフリド水生生物研究所、フランス国立自然史博物館との連携
- ・琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程ならびに環境の変化などを東アジアの中で位置づけをする研究
：主に中国科学院水生生物研究所、湖南省博物館、韓国洛東江水生生物資源館との連携

(3)「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰でもが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

(課題)

- ・研究調査で得られた最新の情報や資料を誰でもが活用し、地域の人々とともに自ら地域を探り、新たな知見が得られる方法の開発
- ・次代に継承する地域の生物や人間の活動に関する資料・標本を保存記録し、将来を考える情報を蓄積するための有効な方法の開発

5. 研究における博物館の「木」から「森」へ

新琵琶湖博物館創造基本計画の3つの理念である「湖と人間」のあり方を県民とともに考えともに行動する博物館、次代を担う人が育つ拠点となる博物館、地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化していきます。

- ・琵琶湖地域の博物館との連携を行うなかで、県民が地域の自然や文化に興味を持ち、自ら調べることのできる調査や研究を行う。
：滋賀県博物館協議会の活用
- ・琵琶湖・淀川水系における博物館との連携を強化し、資料や研究などの情報を共有し共同研究を行いながら、それぞれの博物館利用者が他の博物館の研究活動に興味がいける仕組みをつくる。
：西日本自然史博物館ネットワークの活用



琵琶湖博物館の使命

存在意義／果たすべき役割

琵琶湖博物館は、人々が湖とともに生きることについて考えるための情報や機会を提供します。琵琶湖博物館はみなさんとともに、琵琶湖とその周囲の自然や湖とともにある暮らしの多様性や成り立ちについて探求し、発見したことを広く共有し、ともに学びあう場を創ります。また、貴重な資料を将来にわたって保管・継承し、多くの人々に使えるようにすることで、みなさんの活動を世代を越えて応援・継承します。

基本理念

活動の指針／どんな博物館を目指すか

- テーマをもった博物館
「湖と人間」というテーマにそって未知の世界を研究し、成長・発展する博物館
- フィールドへの誘いとなる博物館
魅力ある地域への入口として、フィールドへの誘いの場となる博物館
- 交流の場としての博物館
多くの人びとによる幅広い利活用と交流を大切にする博物館

琵琶湖博物館の使命から想定される10年後の社会の姿

- ①多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく社会。
- ②誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求・実践でき、その成果を多くの人と共有する機会を持っています。
- ③また、さまざまな人々が出会い、学びあうことで新たな発見や活動の持続が可能になっています。

使命を果たすための計画的な発展（これまでの経緯）

琵琶湖博物館中長期基本計画（平成17年度～平成26年度） 「地域だれでも・どこでも博物館」

地域の人々とともに研究や資料収集・交流活動を行い、地域で活動する人々を応援できる博物館となる



新琵琶湖博物館創造基本計画（平成27年度～令和2年度） （第二次中長期基本計画） 「博物館の『木』から地域の『森』へ」

展示交流空間のリニューアルにより、より多くの人々が使いやすい博物館を目指すとともに、さまざまな主体との連携を広げ、より多くの人と共に「湖と人間」について考える博物館となる



琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

期間：令和3年度～令和12年度

「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ」

国内外の多くの人々に琵琶湖やその周囲の暮らしの価値・魅力を発信するとともに、持続的な共存を目指す人々の活動を日常的に支える博物館となります。

計画の構造：10年後の社会に貢献するために6つの事業目標を設定し、各事業目標の達成に必要な事業を重点事業として設定しました。

計画の運営：重点事業の進捗と事業目標の達成度で評価を行いながら事業を進め、5年目の中間段階で見直しを行います。

事業目標

重点事業

事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地元の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。

- ・世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
- ・研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える
- ・研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。

- ・標本・資料の管理体制の強化
- ・標本・資料の整理の推進と公開による利用促進
- ・ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の「出会い」が新たな活動につながる環境を創ります

- ・幅広いニーズに応える交流事業の充実
- ・出会いの場の創出
- ・「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。

- ・誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長
- ・「観る」展示から、「観る+使う」展示への成長
- ・社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

事業目標5 より多くの人々が利用する博物館へ

ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人々の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。

- ・ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての琵琶湖博物館の紹介
- ・双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映
- ・来館しやすい環境の整備

事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。

- ・老朽化した施設の改修と災害への備え
- ・安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

年 表
(2007年度～ 2020年度)

2007年度(平成19)

博 物 館 全 体

- ・館長：川那部浩哉 副館長：寺田治雄
- ・上席総括学芸員 3
- ・総務課 6 ・企画調整 8 (内兼 7)
- ・研究部 31 ・事業部 (兼) 21、嘱託 14、計 57
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第二段階 (2006 ～ 2010年度) 2 年目
- ・入館者数 443,931

研 究 ・ 資 料

- ・総合研究『琵琶湖およびその集水域の生物学的探査』2006～2010年度
- ・『湖に隣接する水田地帯の特性の解明』2007 ～ 2011年度
- ・共同研究 9 件、専門研究 32 件
- ・研究業績 45 論文、専門著者 46 件、一般向け・新聞 147 件
- ・年間資料登録数 41,884 (総数 415,164)、収蔵数 約 74 万
- ・資料利用 106 件、目録 2 件、DB 公開 2 件、電子図鑑 3 件

日	出来事
4月	
17	JICA 博物館研修：カンントリーレポート
5月	
8	JICA 博物館集中コース (～ 5/12)
9	琵琶湖博物館来館 600 万人達成
6月	
26	JICA 博物館個別研修 (～ 6/30)
7月	
28	「東アジアにおける生き物と人—これからの関係を探る」企画展示関連シンポジウム開催：秋篠宮殿下が出席発表
8月	
2	博物館実習 (～ 8/9) 大学生 20 名
3	琵琶湖博物館ガイドマップ 文化庁「タウン」事業
24	2007 年度第 1 回アンケート調査実施 (～ 26)

日	出来事
3	連載『湖と人と 琵琶湖博物館の10年』1 ～ 43 (～ 3/25：毎日新聞) 連載『@ミュージアム』全 3 回 (～ 7/17：読売新聞しが県民情報)
4	連載『湖国の昆虫』全 20 回 (～ 8/29：朝日新聞あいあい AI 滋賀)
7	琵琶湖のナマズの生態調査が海外学術誌に掲載：前畑政善上席総括学芸員
5	第 47 回特別研究セミナー「展示を楽しむということ」アメリカ・アレナス氏 (NW 近代美術館)
11	『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群』刊行：用田政晴総括学芸員
24	掲載『朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚』1 ～ 10 (～ 9/29：朝日小学生新聞)

展 示 ・ 交 流

- ・企画展示1回、水族企画展示2回、ギャラリー展示3回、新空間16件、トピック展示14件
- ・観察・見学会14件、講座18件、体験研修件228件、視察109件、地域支援87件、学校サテライト事業2件、ワークショップ10件、企画展示関連イベント13件
- ・はしかけグループ15(347名)、フィールドレポーター122名
- ・ギャラリー展示「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」湖国もぐらの会(3/30～5/6)

日	出 来 事
9	「ホテルダス」のアンケート実施結果を常設展示で紹介
15	水族トピック展示「スイゲンゼニタナゴの稚魚」(～5/27)
18	新空間「弥生時代の村と水環境」共同研究成果を披露(～6/3)
25	琵琶湖博物館屋外でコンニャク7株開花
29	「琵琶湖博物館うおの会」が在来魚分布産卵調査
29	水族トピック展示「ホンモロコの稚魚」(～6/17)
2	観察会「活断層っていったい何？」(協働：産業技術総合研究所)
9	新空間「近江のトンボ」の写真展開催(～7/8)
10	観察会「ホテルを観察しよう」(協働：ホテルの学校)
17	観察会「自然農法の田んぼで生き物検」(協働：朽木生きものふれあいの里)
19	水族トピック展示「ムサシトミヨの稚魚」(～7/8)
30	JICA 博物館個別研修「こどもエコクラブ・伯母 Q 五郎」と国際交流(6/30)
7	企画展示関連イベント「魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう」(はしかけ・びわたん)：7/28・8/21
14	第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話—東アジアの中の琵琶湖—」開催(～11/25) 
	第19回水族企画展示「東アジアのタナゴたち」開催(～11/25)
22	夏休み自由研究講座開催
24	指導者向け講座「地層の見方」みなくち子どもの森
26	指導者向け講座「博物館利用講座：博物館の展示活用法」
28	企画展示関連イベント「魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう」(はしかけ・びわたん)
29	企画展示ワークショップ「生き物とかかわるおもしろさ」：琵琶湖お魚ネットワーク(うおの会)
30	観察会「漁船にのってビワマス魚を見てみよう」(協働：朝日漁業組合)
	水族トピック展示「イタセンバラの未成年」(～9/2)
	新空間「俺たち魚部！ギョブリまくった十年間 出会った生き物そして人びと」：福岡の高校生による水辺の調査活動紹介(～8/26)
	指導者向け講座「指導者のための川の生き物調査」
2	指導者向け講座「生き物飼育講座：外来生物・ザリガニ・昆虫」(～8/3)
7	入門講座「回転実験室で水槽実験を！」
21	指導者向け講座「博物館利用講座：魚の歯の標本づくり」
27	指導者向け講座「湖沼学基礎講座：琵琶湖模型・世界の湖沼」
28	指導者向け講座「湖沼学基礎講座：プランクトン観察、水質検査実習」

琵琶湖・滋賀県関係

- ・南湖の水草繁茂、外来魚問題

日	出 来 事
4	『琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議』開催：琵琶湖南湖の水草異常繁茂
29	特定外来生物「チャネルキャットフィッシュ」琵琶湖で捕獲
27	市民グループ「びわ湖の水と環境を守る会主催 連続講座「びわ湖の現在を考える」開催
30	「湖岸生態系保全・修復研究会」開催：水草問題の現状と課題を報告
1	びわ湖の日「拡大で水質悪化」県は今夏から琵琶湖群生ハスの一部刈り取り方針へ
	
9	(米) ミシガン湖と琵琶湖の比較研究・派遣：膳所高生琵琶湖博物館で琵琶湖のプランクトンの採集・観察
10	琵琶湖岸の高層建築物の高さ13m以下に規制(県)
12	こども環境特派員事業 ・環境保護呼びかけたい こどもたちが琵琶湖博物館で体験学習(8/12：毎日新聞) ・こども環境特派員 琵琶湖は不思議の宝庫 最終日は琵琶湖博物館で外来魚の解剖や化石のレプリカ作り(8/30：毎日新聞)
21	県環境政策課が「琵琶湖ハンドブック」を作成

9月	1	環境社会・民俗学の新規学芸員2名採用	4	掲載『湖国 魚と水生動物たち』全26回(～3/26:朝日新聞あいあいAI 滋賀)
			12	電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」HP公開
10月	1	南びわこ観光パスポート発行:草津、守山、堅田をめぐる旅、琵琶湖博物館などの入館料割引(～2008/3/31)		
	14	「いのちの科学フォーラム市民公開講座:[山・川・海をつなぐ水といのちの物語]」開催	10	第48回特別研究セミナー「ハリガネムシの生活史」アンドレアス・シュミットレーザー氏(ハンブルグ大学動物学博物館)
	26	琵琶湖博物館協議会開催(第6期委員)		
11月	8	琵琶湖の魚介類カルタ 琵琶湖博物館で販売		
	11	全国豊かな海づくり大会による両陛下ご来館		
	24	「ゆりかご水田」拡大を 琵琶湖博物館でシンポジウム 140人参加		
	26	「自然史」講演会 生態学者10人の講演		
12月	2	淡海こどもエコクラブシンポジウム開催:「CO ₂ のダイエットコンテスト in おうみと淡海エコクラブ表彰式」		
	14	2007年度第2回アンケート調査実施(～16)		
1月			10	共同研究成果:1970年発掘のナウマン象骨格の一部にマンモスの化石 高橋啓一研究部長 学会報告・忠類マンモス化石 年代は約4万年前(3/19)
			19	淡水魚類学専門講座開催全6回(～2/23毎週土曜)
2月	6	県博物館協議会 スタンプラリー県内87館で実施		
3月			9	第49回特別研究セミナー「博物館ボランティアはなぜ必要なのか」
			11	津田江伝承「鮒ずし切り」漁師の北脇氏からオオナマズの寄贈
			19	「鳥類標本データベース」「哺乳類標本データベース」HP公開
	21	2007年度第3回アンケート調査実施(～23)	24	電子図鑑「日本&滋賀県のおサムシ」・電子図鑑「滋賀のさかな」増補改訂HP公開
	27	琵琶博「うみんど」休刊 県の財政難が波及		資料目録17号「民俗資料3 衣食住」刊行 資料目録18号「民俗資料4 生産生業」刊行

	企画展示関連イベント「人形劇た・な・か・み・さ・ま」(人形劇にんたま)：10/28	9	琵琶湖の生態系知り、守る『琵琶湖お魚ネットワーク』が始めた取り組み 調査票の整理と分析を「琵琶湖博物館うおの会」が担当
19	わくわく探検隊「光と影で写真をうつそう」開催：植物の美しい形を青写真に		
23	観察会「アユの産卵用人工河川を見てみませんか」(協働：県水産課ほか)	30	船上で琵琶湖の環境学ぶ 13大学から約500名の学生が参加 烏丸半島に寄港して琵琶湖博物館などを来館
25	野洲北中学校に学校サテライト博物館オープン(～10/5)		指定外来種の「オヤニラミ」が勢力拡大 在来魚へ影響懸念
2	水族トピック展示「産卵期を迎えたカネヒラ」(～10/21) フィールドレポーター「チッチゼミ」観察会		
4	指導者向け講座「博物館利用講座：外来魚」		
7	新空間「淡海こどもエコクラブ活動活動交流会」(～10/18)：県環境学習支援センター企画展示関連イベント「紙芝居コイのゴーイ君とフナのプーナちゃん」(ランデブーカセット)		
10	フィールドレポーター調査「ボタンウキクサ分布」(10～12月)		
21	観察会「化石の観察会」(協働：多賀町立博物館)		
22	湖北・朝日小に学校サテライト博物館がオープン(～2008/2/15) 2		
28	観察会「ビワマスの採卵現場を見学してみませんか」(協働：百瀬漁協)		
6	職場体験実習(新堂中学3名)(～11/9) 指導者向け講座「博物館利用講座：昔のくらしにふれる」		
24	観察会「秋の里山を歩こう」(協働：カワセミの会)	11	大津市で全国豊かな海づくり大会開催、両陛下が稚魚放流
		27	市民団体が琵琶湖で絶滅危機のイチモンジタナゴ人工増殖に成功：琵琶湖博物館から親魚を譲り受け
		30	ボタンウキクサの増殖を確認・外来水草除去作業 守山・赤野井湾に大発生試験研究機関連絡会議 南湖の水質報告 琵琶湖博物館など共同研究で成果発表
		2	「県民環境学習のつどい」開幕：竹炭や水質調査など多様に紹介
11	ギャラリー展示「漁業・環境ミュージアム『注文の多い湖魚の料理店』」(～2008/2/17) 3 第20回水族企画展示『湖魚の今…そして未来!』(～2/17)		
16	観察会「下物の水鳥を観察してみよう」(協働：日本野鳥の会)		
18	トピック干支展示「ネズミ」(～2/3)		
		3	琵琶湖博物館の南湖・水草分布調査：コカナダモ増殖5年前の10倍超 外来種の比率上昇 勢力争い続く
24	フィールドレポーター調査：ミノムシに外来ハエ寄生 県内で確認	28	琵琶湖の侵略的外来生物でシンポジウム開催：外来魚琵琶湖の減少、放置で大繁殖 生態系圧迫 駆除遅延は致命傷に
29	新空間「野山の花の写真展」開催(～2/29)		
		4	「ひがしおうみお魚フォーラム」で絶滅危惧種のハリヨ確認：東近江市お魚調査隊
		10	草津でこども環境会議で外来魚問題など意見交換
17	国交省に「琵琶湖博物館うおの会」協力：在来魚の産卵調査で最適水位を		
26	水族トピック展示「ヒナモロコ」(～3/23)	23	新名神高速道路草津田上IC～亀山JCT 開通
1	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」(～4/13) ・県博物館協25周年記念展：県内87館の「宝」一堂に		
		13	日野町出身の博物学者橋本忠太郎氏が明治時代に採集したさく葉標本約600点発見
30	観察会「川虫探検」		



2008年度(平成20)

博物館全体

- ・館長：川那部浩哉 副館長：阪口 榮
- ・上席総括学芸員 3
- ・総務課 6・企画調整 8 (内兼 7)
- ・研究部 31・事業部 (兼) 23、嘱託 14、計 57
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第二段階 (2006～2010年度) 3 年目
- ・入館者数 408,682

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖およびその集水域の生物学的探査』2006～2010年度
- ・『湖に隣接する水田地帯の特性の解明』2007～2011年度
- ・共同研究 8 件、専門研究 34 件
- ・研究業績 44 論文、専門著者 36 件、一般向け・新聞 147 件、新琵琶湖学セミナー 12 回
- ・年間資料登録数 29,333 (総数 416,106)、収蔵数 約 75 万
- ・資料利用 104 件、目録 1 件、DB 公開 1 件

	日	出来事
4月	1	開館10周年
	10	来日した中国の報道関係者が視察：日本新聞協会主催日中記者交流で
	15	JICA 研修：カントリーレポート、南米や中東の博物館学芸員が館事情の発表や意見交換 9
5月	29	第16回企画展示オープニングセレモニー
	8	JICA 研修 (～ 5/13) 9 名
6月	7	琵琶湖の魅力を首都圏で発信：琵琶湖コーナーを開設、ニゴロブナなど固有種を展示 (県東京事務所)
	18	小中学生の入場料や常設展観覧料を無料に
	23	JICA 個別研修：(～ 6/27) 5 名
7月	17	自民党の特命委メンバー来館
	20	日仏友好百五十年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ＝ファール」開催 滋賀会場 (～ 7/21) 2
	26	日仏友好百五十年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ＝ファール」開催 東京会場：東京大学安田講堂
8月	1	博物館実習：28名 (15大学) (～ 8/8)
	15	駐車場から入口までにクイズパネル設置

日	出来事
1	連載『[湖と人と] 琵琶湖博物館からの発信』44～64 (4/1～9/30:毎日新聞) 丸子船の研究本出版：牧野久実 元琵琶湖博物館専門学芸員
2	連載『湖国 魚と水生動物たち』(4/2～10/1:朝日新聞あいいい AI 滋賀)
16	共同研究：安心院町森の深見川川岸 (350 万年前の地層) から発見されたミエゾウの化石を宇佐市教委と共同調査
18	琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ『鯰』出版：前畑政善上席総括学芸員、秋篠宮さまら 15 人の研究者が執筆
	
28	謎のプランクトン「Y 幼生」の人工的脱皮成功、「イブシゴン」と命名：琵琶湖博物館 (M. グライガー総括学芸員)・琉球大・コペンハーゲン大の研究チーム
31	化石研究会第 26 回学術大会シンポジウム「足跡化石の最前線」開催 (～ 6/1)：野洲川足跡化石発見 20 周年
19	昭和初期の桶風呂製造工程 DVD 化：老文字学芸員による論文「桶風呂の形態と使用域～滋賀県を中心とした事例研究」をもとに NPO が作成
9	全日本博物館学会奨励賞受賞 北村美香特別研究員：琵琶湖博物館の広報活動とその成果を分析した論文
	
11	多賀町立博物館で企画展「琵琶湖の生き物大集合!! ～琵琶湖博物館もやってきた～」を開催：琵琶湖の生物 65 種を紹介、琵琶湖博物館所蔵資料を活用 忠類記念館開館 20 年記念見学会：ナウマン象足跡化石 6 個発見 (高橋啓一総括学芸員)
	

展 示 ・ 交 流

- ・第16回企画展示『「昆虫記」刊行100年記念日仏共同企画『ファープルにまなぶ』』、第21回水族企画展示「ぼくらのファープル昆虫記」、ギャラリー展示2回、新空間11件、トピック展示15件
- ・観察・見学会21件、講座5件、体験研修件210件、視察ガイダンス77件、地域支援105件、学校サテライト事業2件、ワークショップ3回、企画展示関連イベント11件、国際シンポジウム2回
- ・はしかけグループ15(374名)、フィールドレポーター157名
- ・ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」(3/1～4/13)：滋賀の博物館・美術館 87ヵ所案内パネル展示
- ・新空間「生きる葦」(3/28～4/13)

琵琶湖・滋賀県関係

- ・琵琶湖文化館休館
- ・「びわ湖会議」解散
- ・南湖水草分布拡大：過去10年間1.8倍
- ・西の湖地域がラムサール条約湿地に追加
- ・第1回びわ湖検定実施：立命館大学草津キャンパス

日	出来事
9	観察会「川虫探検」で約30種類発見
12	企画展示「ファープルにまなぶ」開催に向けて：個人の自然観察資料の出版募る、身近な発見の展示場提供 30テーマ
15	新空間「はしかけ温故写新 紹介展」開催(～5/18) はしかけ温故写新
23	連載『日仏共同企画展 ファープルに学ぶ』上・中・下(～5/14：朝日新聞 あいあいAI 滋賀)
24	フィールドレポーター調査：熱帯アフリカ原産の水草 ボタンウキクサ分布実態を発表、ボタンウキクサが越冬出来ることが明らかに
29	第16回企画展示『「昆虫記」刊行100年記念日仏共同企画『ファープルにまなぶ』』オープン(～8/31) ① ：昆虫標本や研究資料など6000点 日仏6博物館共同企画
4	企画展関連イベント：ヨシ笛コンサート「親しみのある曲とファープルの曲を」日本よし笛協会(8/2)
7	水族トピック展示「絶滅危惧種のムサシトミヨの稚魚」(～5/25)
11	企画展関連イベント：人形劇「ふしぎな庭」昆虫学者ファープルを紹介、人形劇おまけのおまけ(6/15, 7/13)
13	B展示室トピック展示「むしとこもんじょー資料保存と防虫対策」(～8/31)：古文書食う害虫を紹介
25	企画展関連イベント：紙芝居「ボンジュール・ファープル先生」開催：紙芝居ユニットランデブー・カセット(6/29)
29	新空間「ILEC 世界湖沼環境デー関連パネル展」開催(～6/29) 財国際湖沼環境委員会
4	水田で生きるエビ類(アメリカカブトエビ ホウネンエビ)を展示
10	水族トピック展示「絶滅危惧」指定の「カゼトゲタナゴ」の幼魚(～6/29)
17	新任教諭研修：環境学習の研修会、ブルーギル解剖
22	企画展関連イベント ワークショップ「ゆめみる昆虫ーむしたちのファッションショー」開催、県近代美術館協力
28	企画展関連イベント 観察会「からすま半島でトンボを観察」
1	常設 A 展示室「地域の人々による展示コーナー」設置・試験運用：「裏山の化石たち」開催(湖国もぐらの会代表 飯村強氏) フィールドレポーター：古い道標文化財保存、県内259基調査
16	連載『「ファープルにまなぶ」展に寄せて』①～⑤(～8/6：産経)
18	新空間「最近変な水草を見ませんか 特定外来生物に指定された水草3種の駆除報告」開催(～7/28) 近江ウェットランド研究会
19	水族企画展示第21回「ぼくらのファープル昆虫記」(～8/31) ③ 「ふれあい体験室」期間限定再開
20	企画展示関連国際シンポジウム開催：ファープル「昆虫記」刊行100年(～7/21)
27	夏休み自由研究講座開催：3分野(昆虫・植物・地学化石)
30	新空間「魚拓でみる琵琶湖・日本の淡水魚」開催(～8/31) 松永正津さん
5	ファープル展に合わせレポーター8人が挑戦 産卵へ試行錯誤重ね、ガのペアづくりで自然の面白さ紹介
6	指導者向け生き物飼育方講座開催
11	白鳥川で魚の調査：東近江市平田地区まちづくり協議会「ひらた夢回議」はしかけうおの会協力
19	指導者向け植物図鑑の読み方講座開催

日	出来事
1	琵琶湖文化館休館
24	特定外来生物ボタンウキクサ調査：局地的分布は守山・草津のみ、川や池で越冬可能
18	国土交通省とはしかけ「うおの会」が最適水位調査：将来は洗堰操作に反映湖岸の施設整備わずか17%、琵琶湖リゾート構想見直し、数少ない成功例の琵琶湖博物館
27	せっけん運動など琵琶湖の環境保全に取り組んできた「びわ湖会議」解散
11	米原の山室温泉でハッチョウトンボ確認
18	滋賀県は施設使用料を最大5%値上げへ
17	琵琶湖の水質保全調査：自民党の特命委メンバーが湖南地域を視察
18	大雨による長浜市米川が氾濫、床上浸水11棟、床下浸水203棟
8	琵琶湖在来魚が育つビオトープが草津市新浜町の湖岸に完成
9	野洲川の支流、櫛野ダムに特定外来生物のコクチバス17匹が見つかった
13	ふるさと納税へ新条例素案まとまる：「うみのこ」新造や琵琶湖博物館の展示事業に活用
14	琵琶湖・南湖の水草、中央部まで繁殖拡大 10年間で1.8倍「異常な状態」、南湖の6割占める
16	ピンク色のドジョウ 木之本で見つかる
19	県内4例目、瀬田川で特定外来ナマズの一種チャネルキャットフィッシュの捕獲

8月	26	琵琶湖博物館協議会第1回開催(第6期委員)	25	琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「化石は語る—ゾウ化石でたどる日本の動物相」を出版:高橋啓一総括学芸員
			27	財ハン六文化振興財団学術賞 用田政晴総括学芸員受賞:県内遺跡の調査と保存に功績
			30	第50回特別研究セミナー:「外来魚駆除対策としての池干し慣行再開の論理と実現可能性」今田美穂氏(国立環境研究所)
9月				
			18	弥生時代からコイ養殖?愛知・朝日遺跡の最古の事例、英考古学誌に掲載:琵琶湖博物館(中島経夫上席総括学芸員)ら研究グループ
			25	電子図鑑「オサムシ」(八尋克郎専門学芸員ら)が日本昆虫学会の「あきつ賞」受賞 WWF・プリヂストンびわ湖生命の水プロジェクトと固有種の生息調査
10月			5	研究発表会「琵琶湖畔の水田をニゴロブナを目線から見る」開催
			22	連載『湖国の化石を訪ねる』(10/22~2/25:朝日新聞あいあいAI 滋賀)
	30	イラク政府関係者や研究者が見学、琵琶湖の再生策学ぶ		
11月				
12月			6	新琵琶湖学入門セミナー第1回『湖と人間』開催
			13	新琵琶湖学入門セミナー第2回『琵琶湖の生い立ちをさぐる』開催
			17	琵琶湖で「カイミジンコ」の新種が11種類、ロビン・スミス主任学芸員が確認
			18	第51回特別研究セミナー「誰のために何をする?博物館の教育活動」キャロル・スタップ博士(ジョージ・ワシントン大学)
			20	新琵琶湖学入門セミナー第3回『集水域と琵琶湖(1)』開催
			30	琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ」を出版:八尋克郎専門学芸員
1月			3	連載『湖のこえ』暮らしと環境 第1部ビワマス編①~⑥第2部野鳥編①(~3/2)
			10	新琵琶湖学入門セミナー第4回『集水域と琵琶湖(2)』開催
			17	新琵琶湖学入門セミナー第5回『琵琶湖の生き物(1)』開催
			24	新琵琶湖学入門セミナー第6回『琵琶湖の生き物(2)』開催
			29	県研究機関の合同調査結果:琵琶湖底の砂利採取穴から窒素・リン溶け出しが明らかに
			31	新琵琶湖学入門セミナー第7回『湖と人間(1)ヨシ帯』開催
2月			2	第52回特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」開催(~2/3)
			6	琵琶湖でツリガネムシ科の新種発見:琵琶湖博物館(楠岡泰主任学芸員)と中国烟台大海洋学院の共同研究グループ
			7	新琵琶湖学入門セミナー第8回『湖と人間(2)琵琶湖の漁業』開催
			14	新琵琶湖学入門セミナー第9回『湖と人間(3)諸問題』開催
			21	新琵琶湖学入門セミナー第10回『湖と人間(4)諸問題』開催
			28	新琵琶湖学入門セミナー第11回『湖と人間(5)歴史』開催
3月	8	琵琶湖博物館協議会第2回開催(第7期委員)	7	新琵琶湖学入門セミナー第12回『湖と人間(6)水辺利用』開催
			10	民俗資料データベース公開
			20	琵琶湖博物館保管の東寺文書などを重要文化財に指定を文化審議会が答申
	23	シンポジウム「びわ湖の森の生き物」開催	27	第52回特別研究セミナー「資源が循環するこれからの住まいと暮らし」
				目録19号「民俗資料5」刊行

27	見学会「古い民家のおけ風呂を見にいこう」：鹿島邸(彦根)のおけ風呂		
		6	南米原産の肉食性淡水魚「レッドテールキャットフィッシュ」が捕獲
20	ギャラリー展示写真展「うるわしき琵琶湖よ永遠に 父子の見た湖国」開催(～11/16)		
4	フィールドレポーター調査：アキアカネ追跡調査開始 アジア環境対話(大津)：琵琶湖博物館で取り組む環境教育プログラムなどを紹介		
7	指導者のための博物館活用講座(10/9, 11/18, 11/20)		
20	韓国ラムサール会議小中学生特派員が琵琶湖博物館で発表新聞づくり	19	おおつ市民環境塾が開講
		27	ホテイアオイ大発生：腐敗、水質悪化の懸念
		30	西の湖と長命寺川がラムサール条約湿地に追加登録
2	学校サテライト博物館事業：化石についての学習会とレプリカ作り開催(湖北町朝日小)		
6	「滋賀教育の日」フォーラム：琵琶湖博物館と連携教育をした湖北町朝日小学校が教育実践表彰を受賞		
13	職場体験実習：県立ろう話学校4名参加	11	滋賀・京都・大阪3府県知事ら、大戸川ダム「建設中止」共同会見
14	展示関連イベント「おちゃめなカボチャ」開催：カボチャの顔ユーモラス		
15	新空間「学校エコ活動巡回展」開催(～11/30) 滋賀県環境学習センター		
18	学校サテライト博物館：甲賀市立佐山小学校で開館		
21	イオンモール草津エコステーションに琵琶湖博物館が協力したニゴロブナやメダカの展示など環境対策を紹介		
30	「びわ湖・まるエコ・DAY」開催：県内の環境活動発表	30	第1回びわ湖検定試験実施：立命館大学びわ湖・くさつキャンパスにて
13	ギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち―鳥の羽根に思いをこめて―」今森洋輔さん(～2/15)		
22	水鳥の観察会を開催：日本野鳥の会滋賀支部と共同開催		
3	トピック干支展「うし ～ウシいっぱい モーいっぱい!?(～1/25)	3	草津の会社が南湖岸の8地点を対象に水質チェック
11	フィールドレポーター調査：年末年始の食調査	17	県が「ビオトープネットワーク長期構想」琵琶湖博物館などの調査研究と連携し、河川や河畔林が生態回廊として機能するように対策を検討
20	新空間「今森洋輔絵画教室作品展」開催(～2/15) ギャラリー展示連携企画		
27	大津のボーイスカウトが環境保全へヨシ刈り、「うおの会」による魚の話などを聞きヨシへの理解を深める	29	琵琶湖底の砂利採取穴から窒素・リン溶出
2	学校サテライト博物館事業：カワウとの共生名案は？学芸員授業(湖北町朝日小)		
12	はしかけ「たんさいぼうの会」大津・小女郎ヶ池で行った「珪藻」41種を確認 日本珪藻学会の会誌に掲載	14	コウノトリ1羽の飛来確認、県内28年振り
19	新空間「烏丸半島に集う！弥生時代の人・物・情報」開催(～3/16) 財滋賀県文化財保護協会	20	高島市貫川内湖で北米産アリゲーターガー初確認
25	学校サテライト博物館事業：化石のレプリカ作り体験(甲賀市の佐山小)、地域のお年寄りや火鉢を囲んで「昔の暮らし学習」授業(湖北町朝日小)		
26	びわ湖毎日マラソン環境キャンペーン：「近畿『子どもの水辺』交流会」で水中音や水中生物が出す音を聞くイベントを開催	27	塩津港遺跡から船形木製品が出土
17	新空間「たんぽのこ壁新聞コンクール作品展示」開催(～3/31) 県農政水産課	11	銅鐸博物館所蔵の近江八景図屏風(1799年)が確認できる最古の写生画
22	財政難で昨年休刊の情報誌「うみっこ通信」HPで復活へ	18	環境省、地域のメディアと企業との連携による環境教育推進事業
		31	市民団体がぼてじゃこを復活させ、琵琶湖に放流計画 国交省が大戸川ダム建設を事実上「凍結」発表

2009年度(平成21)

博物館全体

- ・館長：川那部浩哉 副館長：阪口 栄
- ・上席総括学芸員 3
- ・総務課 6・企画調整 8(内兼 7)
- ・研究部 30・事業部(兼) 23、嘱託 14、計 56
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第二段階(2006～2010年度) 4年目
- ・入館者数 388,040

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖およびその集水域の生物学的探査』2006～2010年度
- ・『湖に隣接する水田地帯の特性の解明』2007～2011年度
- ・共同研究 5 件、専門研究 33 件
- ・研究業績 21 論文、専門著者 28 件、一般向け 57 件、研究調査報告書 1 件
- ・年間資料登録数 23,562 (総数 423,244)、収蔵数 約 769,000
- ・資料利用 106 件

日	出来事
4月	
18	特別講演会スタート 第1回「地震を知って震災に備える」尾池和夫京大総長
5月	
16	特別講演会第2回「信ずる宗教、感ずる宗教」山折哲雄さん
21	新型インフルエンザ流行 休館へ(～5/26)
27	博物館 再開
29	びわ湖放送「ときめき滋賀 びわ湖の不思議、魅力たっぷり紹介」生中継
6月	
1	平成21年度市町長防災危機管理ラボ in 滋賀
20	特別講演会第3回「琵琶湖生態系の原動力」中西正巳さん 
7月	
19	特別講演会第4回「古代近江の渡来文化」上田正昭さん
8月	
1	博物館実習(～8/8) 大学生15名
21	来館者アンケート調査第1回(～8/23)
22	特別講演会第5回「近江の森林を考える」只木良也さん



日	出来事
2	琵琶湖博物館で保管の「東寺文書」を重文指定
4	連載『湖岸より』1～51全51回(～3/28：中日新聞)
8	連載『湖国の化石を訪ねる』21～52全12回(～12/16：朝日新聞あいあい AI 滋賀)
24	ニゴロブナ水田で急成長：総合研究成果
22	連載『[湖のこえ]暮らしと環境 第3部植物編』①～③(～5/25：京都新聞)
18	共同研究：北海道幕別町忠類でナウマンの足跡と確定
19	懐かしい湖国の情景 故大橋宇三郎さんの昭和写真展 琵琶湖博物館収蔵資料出展
19	イタセンバラ復活・保全を考えるシンポジウム開催
24	連載『[湖のこえ]暮らしと環境 第4部フナ編』①～⑤(～7/28：京都新聞)

展 示 ・ 交 流

- ・ 第17回企画展示『骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時—』、第22回水族企画展示「バックボーンができるまで」、ギャラリー展示2回(巡回展3回)、新空間14件、トピック展示13件
- ・ 観察・見学会15件、講座5件27回、体験研修169件、視察59件、地域支援119件、学校サテライト事業2校、ミュージアムスクール2校、企画展示関連イベント7件
- ・ はしかけグループ16(371名)、フィールドレポーター137名

日	出 来 事
4	ディスカバリールームイベント「ぼくの・わたしのどこでも博物館」小学生対象のワークショップ(～6/28)
25	ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え」(～6/7)
29	ディスカバリールームイベント:「ふしぎ、ズボンぽってなかに」を開催(～5/6)
29	ギャラリー展示関連イベント:起震車による地震の揺れ体験(～5/6)、消防車両展示、県防災ヘリ「淡海」による模擬訓練
6	ギャラリー展示関連イベント:紙芝居・人形劇(高島災害ボランティアネットワークなまず)
10	ギャラリー展示関連イベント:小松原琢さん(産業技術総合研究所)による展示解説
17	ギャラリー展示関連イベント:講演会「琵琶湖に地震がやってくる?」寒川旭さん(産業技術総合研究所)
31	ギャラリー展示関連イベント:彦根気象台の真砂さん、有本さんによる展示解説
2	新空間「気候変動との闘いと世界の湖沼保全」開催(～6/19) ILEC
6	フィールドレポーター:テントウムシ模様調査 分布状況他県と比較
20	観察会「不耕起の田んぼで生き物観察」実施 ミュージアムスクール:立命館守山中学校(13回:7/11, 9/5, 26, 10/24, 11/14, 21, 12/12, 19, 1/9, 30, 2/6, 13) 2
21	近江の織り文化のワークショップ 「魚のゆりかご水田交流会」野洲の水田で生き物観察会
23	トピック展示B展示室「移ろう大地を把握する」:「東寺文書」で紹介(～7/12) トピック水族展示「イチモンジタナゴの稚魚」(～7/12)
8	学校サテライト博物館:琵琶博がやってきた 青柳小学校サテライト博物館オープン
12	新設「ふれあい体験室」 魚の分布パネルで紹介
14	企画展示関連B展示室「骨の記憶I」(～10/18)
18	第17回企画展示『骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時—』(～11/23) 3 第22回水族企画展示「バックボーンができるまで」(～9/6) ディスカバリールームイベント「ボーンおどり」(～9/27)
21	ミュージアムスクール:県立石部高等学校(7/22, 23, 27, 28)
23	「ちびツブリのちっちゃな大冒険2」1000人招いて琵琶湖博物館で記念の上映会
25	企画展示関連ワークショップ:ほね骨しかけ絵本づくり・骨ほね調査隊(8/11) 新空間「木から生まれた渓魚たち フィッシュクラフト展II」福永和明さん(～8/30)
26	夏休み自由研究講座:昆虫・植物・地学化石の開催
31	彦根で「環境と科学のフェスティバル」開催:体験ブースを出展
4	水族トピック展示「スジシマドジョウ小型種琵琶湖型の幼魚」(～9/6)
6	指導者向け講座開催(11/12, 19)
11	琵琶湖周航外輪船「ミシガン」で「ピワコオオナマズ」展示
13	ギャラリー展示「鉱物・化石展(仮)」開催に向けて、「湖国もぐらの会」が子どもたちに展示参加を呼びかけ
17	ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え」移動展示:西友長浜楽市店(～8/30)

琵琶湖・滋賀県関係

- ・ 新型インフルエンザ流行
- ・ 市町村合併
- ・ 大戸川ダム建設の凍結

日	出 来 事
14	110cmのピワコオオナマズが見つかる
2	
10	大阪府下の団地で「エスカルゴ」大量発生 琵琶湖博物館等の調査確認
3	
29	「水と生命」テーマにユースフォーラム in 琵琶湖2009開催:国際ソロプチミスト

9月	1	来館者700万人突破	2	第54回特別研究セミナー（中止）
	4	中国科学院武漢水生生物研究所との協力協定延長の調印		
	15	JICA 博物館学集中コース：6カ国10名によるカントリーレポート	16	第55回特別研究セミナー「琵琶湖と中国の故障の対話へ向けて」朱偉さん（中国河南大学）辻村茂男さん（琵琶湖環境科学研究センター） 「湖と山をめぐる考古学」出版：用田政晴琵琶湖博物館 学芸員
	22	特別講演会第6回「日本語はどのような言語か」川端善明さん	27	連載『[湖のこえ] 暮らしと環境 第5部人物編』③のみ（京都新聞）
10月	8	JICA 博物館学集中コース研修（～10/14）		
	17	特別講演会第7回「戦後日本の公害・環境政策を見直す」宮本憲一さん		
	19	情報誌「うみっこ通信」復活		
			21	第56回特別研究セミナー「オーストラリアにおける地下水性カイアシ類の動物地理学」Dr.Tomislav Karanovic（ドイツハンブルグ大学） 31 日中の共同研究「中国・太湖の水質悪化」を調査：琵琶湖博物館（大塚泰介主任学芸員ら）が参加
11月	6	県博物館協議会研修会を開催	2	第13回世界湖沼会議：琵琶湖博物館の牧野厚史専門学芸員と楊平学芸技師が発表
	8	JICA 博物館学集中コース個別研修8名（～10/12）	19	琵琶湖底からカイミジンコ新種4種発見：琵琶湖博物館（ロビン・ジェームス・スミス主任学芸員）
	12	天皇在位20周年式典に合わせ無料開放・記帳所提供		
	20	来館者アンケート調査第2回（～11/22）		
12月	21	特別講演会第8回「花鳥画と生態系」上村淳之さん		
	6	地域再生フォーラム開催	5	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第1回琵琶湖のおいたち
	19	何でもランキング 親子で楽しめる科学館第4位 特別講演会第9回「琵琶湖をめぐる文化的景観」西川幸治さん	12	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第2回琵琶湖流域の生き物(1)
1月			4	琵琶湖博物館 最新研究紹介連続講座開く（京都）
			9	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第3回琵琶湖流域の生き物(2)
	16	特別講演会第10回「文学のなかの湖」池田浩士さん	12	いきもの地球会議 中部の絶滅危惧種と保護活動 滋賀県はニッポンバラタナゴ、中国産交雑し純系絶つ（中日）
			23	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第4回琵琶湖流域の生き物(3)
2月	7	博物館や美術館の在り方を提言 平川南国立歴史博物館長が講演 中国の「太湖」アオコ異常発生 湖沼環境保全で琵琶湖博物館と協働	26	日本古生物学会例会の一部無料公開
			31	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第5回琵琶湖流域の生き物(4)
	20	特別講演会第11回「高齢社会における心と体の健康」井村裕夫さん	6	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第6回琵琶湖の遺跡
			11	総合研究：水田の生態系調査でニゴロブナ稚魚放流しプランクトンの種類2倍に増加
3月			13	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第7回琵琶湖流域の生き物(5)
	15	琵琶湖と周辺森林の保全などをテーマにしたシンポジウム	25	「びわ湖の森の生き物研究会」シンポジウム 草津市の県立琵琶湖博物館で開催案内（朝日）
	19	来館者アンケート調査第3回（～3/21）	27	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第8回琵琶湖の水や利用
	20	特別講演会第12回「琵琶湖の魚は古来どうたべられてきたのか」川那部浩哉館長		
			6	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第9回琵琶湖地域の歴史
			13	新琵琶湖学専門セミナー「湖と人間」第10回琵琶湖地域の考古学
	30	琵琶湖研究 県立研究3機関で連携	31	絵本「水草の森 プランクトンの絵本」（今森洋輔作、楠岡泰学芸員解説）出版 研究調査報告25号「日本中世魚介類消費の研究」出版

9	ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え」移動展示：イオンモール草津店（～9/23）	6 10	世界古代湖会議（マケドニア国 オーフリド） リゾート頓挫、烏丸半島を公的利用で検討開始 琵琶湖・淀川水系一周エコ列車参加者募る：嘉田滋賀県知事や川那部琵琶湖博物館館長らがパネル討論
		13 17 19	JTB 西日本企画のエコツアーで外来魚の駆除に協力 琵琶湖一周「ピワイチマップ」完成 烏丸半島で野外音楽イベント「イナズマロックフェス」第1回開催（～9/20）
6	トピック水族展示「オヤニラミ幼魚」（～11/1）	1 8	琵琶湖の環境をカヌーで学ぶ：湖魚や水源について博物館で事前学習 台風18号による影響：彦根城の石垣崩れと、大津市の琵琶湖岸に打ち寄せた大量の水草から悪臭被害
20	企画展示関連 B 展示室「骨の記憶Ⅱ」（～11/16）	19 20	びわっ子大使世界湖沼会議へ：博物館で最後の事前学習 草津の見どころ切手セット：琵琶湖博物館とビワコオオナマズも紹介
27	新空間「神秘の鍾乳洞 河内風穴」映像集団 VINZ（～11/1）		
9	職場体験実習：新堂中学3名（～11/13）	2 3	中国で第13回世界湖沼会議開幕 地場産品の魅力発信のための設立準備委員会発足
21	ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え」移動展示：高島市役所（～12/6）		
28	新空間 びわ湖・まるエコ・DAY 2009開催（～12/6）	28	滋賀県の博物館87館 財政難で休館や統合
8	新空間「竹との戦い！ふるさとの川をみんなで守ろう！」県河港課（～2010/1/11）		
19	琵琶湖で「スッポンモドキ」初確認		
3	トピック干支展「トラ・虎・タイガー」展（～2/7）	1	長浜市と高月町、木之本町、余呉町、西浅井町、虎姫町、湖北町が合併
	ギャラリー展示「古生物の復元」（～1/31）		
6	琵琶博「はしかけ」制度10年 研究で地域の魅力発掘		
15	新春よし笛コンサート		
21	はしかけ「たんさいぼうの会」山門湿原で130種の珪藻発見		
23	フィールドレポーター：「近江ことば」の方言調査		
13	ディスカバリールーム特別プログラム：ブンブンごま作り（2/14, 27, 28）	12 14	ブラックバスの駆除作戦 琵琶湖でハイイロガンを確認
		23	県「希少種」の2保護区指定：「瀧樹神社」と「布施溜・新溜」
		3	名古屋 COP10合わせて県が湖国生態系の紹介 長浜沖琵琶湖で最大級タテボシガイ発見
20	新空間「水石飾り」湖国もぐらの会（～5/9）		
25	ギャラリー展示「鉱物化石展2010 湖国と大地に夢を掘る」湖国もぐらの会（～5/9）	21 30	近江八幡市と安土町が合併し、近江八幡市誕生 琵琶湖総合保全学術委員会（川那部浩哉委員長）が環境保全主体的取組みを知事に提言

2010年度(平成22)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：阪口 栄
- ・上席総括学芸員 4
- ・総務課 6・企画調整 8 (内兼 7)、環境学習センター設置 1
- ・研究部 30 (内兼 2)・事業部 (兼) 22、嘱託 16、計 58
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第二段階 (2006～2010年度) 5 年目
- ・入館者数 360,736

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖およびその集水域の生物学的探査』2006～2010年度
- ・『湖に隣接する水田地帯の特性の解明』2007～2010年度
- ・共同研究 4 件、専門研究 32 件
- ・研究業績 19 論文、専門著者 44 件、一般向け 38 件
- ・年間資料登録数 34,216 (総数 431,167)、収蔵数 約 782,000
- ・資料利用 92 件

日	出来事
4月	2 篠原博物館長が就任会見「先進的役割果たす」 4 鳩山由紀夫首相来館
	15 JICA 博物館学集中コース：カントリーレポート 6 カ国 10 名 17 特別講演会「私たちの日常生活と人権のたて糸・よこ糸」安井仁介さん 19 琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」のブラックバス天井
	25 「いきもの地球会議」第 3 回地域座談会：生物多様性条約第 10 回締約国会議にむけて
5月	5 こどもの日入館無料に 15 特別講演会「シェイクスピア劇とシェイクスピア映画」貴志哲雄さん 22 国際生物多様性の日 記念シンポジウム：琵琶湖と淀川水系環境保全を考える
6月	3 琵琶湖博物館協議会 2010 年度第 1 回 (第 7 期) 9 JICA 博物館学集中コース：研修 10 名 (～ 6/15) 19 特別講演会「太陽黒点の活動と宇宙・地球環境への影響」黒河宏企さん 28 JICA 博物館学集中コース：個別研修 7 名 (7/2)
7月	3 「博物館による環境と科学のフェスティバル」県内博物館 10 館とボランティアグループが参加 17 特別講演会「近江の俳画」石丸正運さん 18 COP10 親善大使 Mori Zoro とキッコロ来館
8月	1 博物館実習 (～ 8/8) 大学生 19 名 7 中国政府の視察団来館 20 2010 年度第 1 回アンケート調査実施 (～ 22) 21 特別講演会「水と共生する文化とは」鳥越皓之さん 28 企画展示関連シンポジウム「湖底遺跡の探検 湖に沈んだ村を科学する」 
9月	18 特別講演会「世間は狭いのか？」木下富雄さん
10月	16 特別講演会「暮らしと歯」岩坪玲子さん 18 COP10 国連生物多様性条約第 10 回締結国会議で琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」が「ブラックバスパーガー」を提供 19 川那部浩哉前館長が仏国家勲章受章 22 山梨県立博物館の検証 琵琶湖博物館の「県民参加型」を参考に 24 COP10 地球生きものの会議 12 カ国の参加者来館

日	出来事
2	連載『湖岸より』52～102 (全 56 回) (～ 3/27：中日新聞)
28	陸産逆巻き右巻きキセルガイ (ナミコギセルガイ) が京都で発見 (中井克樹主任学芸員)
	
20	第 57 回特別研究セミナー「何が外来種の拡大分散を容易にするのか」フランチェスク・メスキータジョーンズさん (スペインヴァレンシア大学)
31	第 3 回国際メタセコイアシンポジウムエクスカージョン
7	ネコギギ分散保全で碧南海浜水族館へ譲与
10	白黒まだらウナギを博物館で引取
	
14	連載「ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～」1～11 全 11 回 (～ 3/24：毎日新聞)
20	月下美人が白い大輪を開花
28	ピンク色キリギリスを博物館が引取る
28	「河内の風穴」に新種微小甲殻類：マーク・グライガー 上席総括学芸員

展 示 ・ 交 流

- ・第18回企画展示「湖底探検—びわ湖の底はどんな世界?—」、第23回水族企画展示「魚はなぜ田んぼにやってくるのか」、ギャラリー展示6回、新空間11件、トピック展示14件
- ・観察・見学会13件、講座5件24回、体験研修件185件、視察47件、地域支援193件、学校サテライト事業2校、ミュージアムスクール3校、企画展示関連イベント2件
- ・はしかけグループ16(300名)、フィールドレポーター95名
- ・ギャラリー展示「鉱物・化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る(3/10～5/9)

日	出 来 事
14	県内のタンポポ分布調査参加者募集：19府県で調査、分布地図作り(布谷知夫環境学習センター長)
17	ミュージアムスクール：立命館守山高校(4/24, 5/15, 22, 6/19, 26, 7/10)
24	国際生物多様性年 流域連携企画「守ろう！琵琶湖・淀川水系の魚たち」水族企画(～5/30) ディスカバリールームイベント「びわこいのぼり」(～5/5)
8	わくわく探検隊「光とかげで写真を撮ろう」開催(5/22)
11	フィールドレポーター：テントウムシの生息調査 希少種など12種確認、ナミテントウ「二紋型」が6割 親子で水晶の形を再現 琵琶湖博物館で鉱物のレプリカ作り(しが県民情報)
15	フィールドレポーター交流会：研究成果発表
23	ギャラリー展示「神秘的鍾乳洞 河内の風穴」写真展(～6/20)
5	ミュージアムスクール：立命館守山中学校(6/19, 7/10, 9/4, 25, 10/23, 11/13, 20, 12/11, 18, 2011/1/29, 2/5, 2/12)
10	琵琶博・環境月間でパネル展 湖沼の生き物紹介(京都)
20	ギャラリー展示関連イベント 上映会
29	田んぼの生き物説明 ニゴロブナ水路に放流 大塚泰介専門学芸員
3	新空間「石田」行森の写真展 行きずりの瞬間(とき)(～8/29)
4	はしかけ登録講座(11/7, 2011/2/27)
17	第18回企画展示「湖底探検—びわ湖の底はどんな世界?—」(～11/23) ① 第23回水族企画展示「魚はなぜ田んぼにやってくるのか」(～8/31) ②
21	ミュージアムスクール：県立石部高校(～7/22, 23, 27, 28)
25	「博物館による環境と科学のフェスティバル」ビバシティ彦根
31	企画展示関連体験プログラム「琵琶湖の模型をつくろう」(8/21)
5	指導者向け講座「生き物飼育講座：外来生物・ザリガニ・昆虫」
7	フィールドレポーター：赤とんぼ移動調査
20	フィールドレポーター：準絶滅危惧種イチョウウキゴケ調査
14	水族トピック展示天然記念物「アユモドキ」の幼魚(～10/3)
1	新空間「ほっとけん！淡海の生きもののにぎわい～ COP10国際生物多様性年記念巡回展：県自然環境保全課(～10/24) トキの剥製公開
13	学校サテライト博物館：長浜市の永原小学校で開館
24	観察会「ビワマスの採卵現場を見学してみませんか」実施
26	水族トピック展示天然記念物「ミヤコタナゴ」の幼魚(～11/14)

琵琶湖・滋賀県関係

- ・COP10国際生物多様性名古屋会議
- ・新型インフルエンザ流行
- ・市町村合併
- ・大戸川ダム建設の凍結

日	出 来 事
4	鳩山首相来県：県の環境対策、高評価、環境団体と意見交換
29	大津の環境保全市民団体が学芸員と協力で図鑑作成、小学校に寄贈
11	琵琶湖底に高濃度ヒ素 大量死のイサザから検出
19	琵琶湖底蓄積「重金属問題 広報必要」 知事が琵琶湖博物館などで啓発に努める意向を示す
21	高島市針江・霜降の水辺景観を重要文化的景観に選定答申
24	米原市醒井の地蔵川でハリヨが絶滅した可能性が高い
26	180万年前に生息したワニの歯化石発見 多賀町の親子化石教室で小2学生
29	東近江市相谷熊原遺跡から縄文草創期の国内最古級の土偶出土
11	高島市安曇川でアユ大量死
21	烏丸半島で熱気球搭乗体験が開始
25	潜水口ボ「淡探」県財政難で運用停止
7	中国政府の視察団来県、滋賀県の環境政策学ぶ
7	湖沼研究の成果を発信する拠点であった ILEC 事務所廃止へ
18	アサヒビール主催の環境保全活動に関する体験学習の一環として博物館を見学
25	野洲川ダム貯水池でコクチバス生息を確認 3か所目 伊吹山山頂の彦根地方気象台が取り壊し
9	近江八幡で西の湖シンポジウム開催：COP10関連、財団法人ハートランド推進財団
18	国交省近畿地方整備局が大戸川ダム事業で、県が提案している河川改修案に同意
24	COP10参加者来県：湖国のヨシ群落・博物館視察



11月	9	川那部浩哉前館長が県文化賞受賞		
	12	2010年度第2回アンケート調査実施(～14)	11	第58回特別研究セミナー「微小動物相のシンクロトン分析—(古)生物学」 Dr. Renate Matzke-Karasz
	20	特別講演会「共生共貧」槌田劭さん	12	ケイソウ模様に法則発見：「はしかけ・たんさいぼうの会」と大塚泰介、戸田孝両学芸員
	26	琵琶湖博物館「公共の色彩賞—環境色彩10選」に選定		
	27	公開シンポジウム「琵琶湖を未来につなぐ」：琵琶湖周囲の魚や食文化の研究報告、基調講演川那部浩哉名誉学芸員		
12月	5	「びわこ大縁日」開催：身近な環境に関心を(～12/12)		
			11	第59回特別研究セミナー「考古学資料を用いたアイヌ研究の方法論」瀬川拓郎さん
	18	特別講演会「環境問題と感染症の世界的流行」古澤巖さん	14	第60回特別研究セミナー「変革下における中国農業の新たな問題と課題」Dr. Qian Forrest Zhang
	25	過去1年間の県民訪問利用調査 琵琶湖博物館19.8%	19	湖のある田んぼ生きものの研究会開催 連載「あの日あの時 時代の証言」琵琶湖博物館開館①～⑤川那部浩哉
1月	4	フォーラム「住民参加型の生物調査とは何だったのか—その成果、意味と課題」住民による地域調査学ぶ 琵琶湖博物館で講演会「“生命(いのち)の脈(にぎ)わい”をみんなで調査する方法を考える」開催		
	15	特別講演会「山から海までつながりの中における琵琶湖」田中克さん		
			22	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第1回
2月			29	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第2回
	19	特別講演会「電子書籍のこれから」長尾真さん	5	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第3回
			12	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第4回
3月	1	保護増殖センターを秋篠宮殿下が視察	26	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第5回
	6	ギャラリー展示関連イベント記念シンポジウム「これからの滋賀の味・夢をかける」基調講演 堀越昌子さん		
	15	琵琶湖博物館協議会2010年度第2回(第8期)	8	世界最小の多細胞生物イタチムシ4新種?発見 鈴木隆仁特別研究員
	16	高額美術品10年以上展示なし 県監査で指摘	12	新琵琶湖学創造セミナー「湖と人間Ⅲ」第6回
	19	特別講演会「これからの川や湖との付き合いを考える」中川博次さん 2010年度第3回アンケート調査実施(～21)	15	「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」をまとめる

2	トピック水族展示「旬のさかな、アメノウオ(ピワマス)」：ピンク婚姻色鮮やかな産卵期のピワマス(～12/12)	8	湖沼流域行政や課題などを報告 琵琶湖博物館で国際シンポジウム
11	指導者向け講座「大地の成り立ちと変化」		
13	地球の尊さ感じて 琵琶湖博物館で天体イベント開催 公開審査：里山写真選手権		
18	指導者向け講座「簡易プランクトンネットの作製」		
5	淡海こどもエコクラブ活動交流会開催 ⁴	1	関西広域連合発足、滋賀県は環境保全担当
9	環境ほっとカフェ「ソーシャルビジネスの魅力と可能性」開催		
10	国内最大級ハラグロオオテントウ 守山で県内初小3虫博士発見 博物館で標本展示		
14	水族トピック展示「旬のさかなたち『ヒウオ』」(～1/30)		
19	観察会「下物の水鳥を観察してみよう」(協働：日本野鳥の会・びわたん)		
19	ギャラリー展示「近江のふるさと絵屏風と未来予想図」(～1/6)		
3	トピック展示「干支展『ウサギ』」(～2/6)		
6	フィールドレポーター：正月遊び調査、世代間の変遷探る		
23	ギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り」(～2/16)		
12	わくわく探検隊：水晶のレプリカをつくろう(2/26)	5	近江八幡市の八幡堀の修景と保全が土木学会デザイン賞受賞
27	はしかけ登録講座：学芸員と研究活動などを行うボランティアグループ「はしかけ」が活動発表会	7	湖岸7会場で水鳥観察会 200人がラムサール条約など学ぶ
1	ギャラリー展示「食事(くいじ)博—未来につなごう近江の食とくらし—」：滋賀の食事文化研究会20周年記念(～4/7)	25	滋賀県人口141万272人(2010年調査)
5	ギャラリー展示関連イベント：伝統食の再現展示(～3/6) レストラン「におのうみ」と共同企画した「伝統食弁当」を提供		
15	トピックA展示室：新燃岳の火山灰展示	11	東日本大震災
		31	県立水環境科学館が閉館



2011年度(平成23)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：兼房見喜男
- ・上席総括学芸員 3
- ・総務課 5・企画調整 8 (内兼 7)、
- ・研究部 30・事業部 (兼) 22、嘱託 15、計 56
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第三段階 (2011～2015年度): 対話と応援ができる博物館機能強化、新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間、地域発見参加型移動博物館、滋賀県ミュージアム活性化推進事業
- ・入館者数 371,505

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明』2011～2015年度
- ・共同研究 10件、専門研究 32件
- ・研究業績 28論文、専門著者 57件、一般向け 153件、研究調査報告 2件
- ・年間資料登録数 30,010 (総数 451,286)、収蔵数 約 846,000
- ・資料利用 115件

日	出来事
4月	1 開館15周年 新規学芸員 1 名 (淡水魚類学) 採用
	13 レストラン「にほのうみ」のブラックバス天丼注目
	15 ミュージアムショップ『おいでや』『ナマズグッズ』日本一充実
	29 通勤手当を過払い 琵琶湖博物館などの職員
5月	5 「こどもの日」親子を対象に無料開放
	14 三重県鈴木知事来館・視察 
6月	8 開館15周年リニューアル展示へ向けて：篠原館長発言
	16 JICA 博物館学集中コース：ミュージアムレポート、10名 6 カ国参加
7月	1 開館15周年記念「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」午後 9 時まで無料開館 (～ 7/3) 
	20 JICA 博物館学集中コース：研修 10 名 (～ 7/26)
	30 博物館実習 (～ 8/6) 大学生 14 名、9 大学
8月	11 琵琶湖体験クルーズ「歴史体験クルーズ」の開催：安土城考古博物館と共催
	21 JICA 博物館学集中コース：個別研修「博物館と地域コミュニティ」研修 8 名 (～ 8/25)
	23 財政難で常設展変わらぬ博物館：来場者数落ち込む 兼房見喜男副館長談
9月	1 夏休み無料開放 1 万 802 人利用：初利用 46.6%
	2 2011 年度琵琶湖博物館協議会第 1 回 (第 8 期)
	30 近江鉄道路線バス「烏丸下物線」など大幅減便

日	出来事
3	連載『湖岸より』103～153 (全 50 回) (～ 3/31：中日新聞)
5	『生命の湖 琵琶湖をさぐる』文一総合出版：学芸員 31 人が執筆 10 年がかり
7	連載『ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～』12～24 全 13 回 (～ 10/6：毎日新聞)
26	琵琶湖の化石 ミエゾウの歯など 8480 点寄贈 (故) 奥山茂美
7	琵琶湖の生物 1769 種、動物 2 倍に 90 年の論文と比較：日露研究グループ (マーク・グライガー 上席総括学芸員)
14	第 26 号研究調査報告「記録しておきたい滋賀県の地形・地質：地学版「レッドデータブック」刊行
17	伊吹山文化資料館で開催の大橋宇三郎、洋さん親子写真展「近江のくらしと子どもたち」へ資料貸出
24	総合・共同研究で寄生虫 2 新種発見『ゲナルコブシス・ヤリタナゴ』『フィロピンナ・カワムツ』琵琶湖周辺 日本初も 4 種：マーク・J・グライガー 上席総括学芸員ら
26	第 27 号研究調査報告「滋賀県のチョウ類の分布」発行：アマチュア研究者と共同研究成果 (八尋克郎 総括学芸員)
16	「温故知新・近江の糸と織り」で展示された野良着：農の営み伝える「記憶遺産」
24	第 61 回特別研究セミナー「琵琶湖にすむビワマスの生態に迫る！」光永靖さん、大竹二雄さん、天野洋典さん、桑原専門学芸員
30	日本民俗学会第 63 回例会・第 857 回談話会シンポジウム「文化的景観と原風景」開催
22	琵琶湖で新 2 種のコケムシ発見：『リュウコツカラクサコケムシの休芽』『アカリコケムシの群体』
29	陸前高田被災標本レスキュー開始：収蔵庫に津波、傷ついたチョウ修復 
	

展 示 ・ 交 流

- ・第19回企画展示「こまった！カワウ生きものとのつきあい方」、第24回水族企画展示「レッドリストの魚たち」、ギャラリー展示3回、新空間7件、トピック展示7件
- ・観察・見学会12件、講座5件12回、体験研修167件、視察28件、地域支援145件、サテライト博物館事業2校、ミュージアムスクール2校、企画展示関連イベント5件、自然調査ゼミナール、「あさひるばん博物館を楽しもう」
- ・はしかけグループ16(340名)、フィールドレポーター95名

日	出 来 事
1	はしかけ制度制定10周年
29	第24回水族企画展示「レッドリストの魚たち」(～9/4) 『滋賀県で大切にすべき野生生物』2010年度出版を基に ギャラリー展示「古琵琶湖の化石 奥山茂美コレクション寄贈記念『化石が語る350万年前の生きものたち』(～6/12)
10	新空間「びわ湖と人々の暮らしを支える森づくり、人づくり」森づくりの活動パネルで紹介福永和明さん(～7/31)
14	入門講座「魚の寄生虫を調べよう」開催
15	屋外展示コンニャク開花：4年に1度の花見ごろ
19	フィールドレポーター調査結果：準絶滅危惧種イチョウウキゴケ県内に広く分布
4	ミュージアムスクール事業：立命館守山中(6/18, 7/9, 10/1, 29, 11/12, 26, 12/3, 10, 2012/1/21, 28, 2/4, 18)
11	わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」開催(6/25)
30	サテライト博物館事業：高島市立青柳小出前授業
1	びわ湖の日30周年パネル展(～7/10)
16	第19回企画展示「こまった！カワウ生きものとのつきあい方」(～11/23)
21	ミュージアムスクール事業：県立石部高(7/25～28)
23	企画展示関連イベント「展示解説ツアー」(8/23, 9/29, 11/2)
29	「夏休みお天気ひろば2011」7/30：彦根地方気象台
30	観察会「漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう」企画展示関連行事
31	夏休み自由研究講座(地学・昆虫・植物)
2	企画展示関連事業：B展示室収蔵資料展示「深緑の竹生島」(～9/11) 自然調査ゼミナール開催：滋賀県中学校教育研究会理科部会 指導者向け講座「生き物飼いか講座」 内園冬馬さん標本『ハラグロオオテナントウ』を展示
21	「博物館による環境と科学のフェスティバル」開催：彦根、県内博物館13団体が参加
24	企画展示関連ワークショップ：びわたん「カワウのことを調べてみよう！」
26	地方自治記念貨幣展：地方自治法施行60周年記念貨幣 第17回滋賀県
13	企画展示関連事業：B展示室収蔵資料展示「鵜飼 鵜と人の歴史」(～10/16)
17	水族ギャラリー展示「湖国鳴く虫たち一庭の小さな音楽家」(～11/6)
23	企画展示関連イベント「篠原館長の鵜飼の話」(11/12)

琵琶湖・滋賀県関係

- ・「びわ湖の日」制定30周年
- ・絶滅危惧種リスク分散でビオトープ活用
- ・節電キャンペーン

日	出 来 事
19	びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会の活動
22	オムロン野洲事業所のビオトープに、絶滅危惧種イチモンジタナゴ放流
	
25	絵本『まんまる月夜の竹生島』魚個性豊かに
27	竜王小学校ビオトープ大賞受賞
4	青色のアマガエル発見(能登川博物館で展示)
7	県レッドデータ最新版2010：イサザ、ヤコビマイマイなど絶滅危惧46種追加
14	米原で白いオタマジャクシ発見
25	琵琶湖のスジエビ激減
1	「びわ湖の日」制定30周年
7	「湖国環境フェスタ」さかなクントークショー多目的広場 草津エコフォーラム2011：企業の環境活動講演や事例紹介
12	琵琶湖のウナギ枯渇危機：漁獲量ピーク時の1割強
13	県立5施設で節電生活楽しもう 無料開放
18	彦根の水路にメダカ復活：住民清掃「市街地では異例」
21	県内唯一アサザ自生地の東近江市の戸川地域で外来種に1割侵食
23	第4回水辺の匠交流会：ウォーターステーション琵琶(～7/24)
2	米原で観察会：親子が小魚など捕まえ環境学ぶ
4	夏の南湖は水草まみれ：固有種・ネジレモ復活が異常解消の鍵
18	カワウ激減し、竹生島に緑の兆し
26	琵琶湖ブランド世界へ発信：「価値を考える会」が初会合、篠原徹館長ら専門家による魅力分析
3	琵琶湖文化館の収蔵品：県立近代美術館へ移転を検討委決定
17	冷蔵庫カーテンで節電を 県文化施設で配布

10月	1	新規学芸員1名(博物館学)採用	10	セタシジミ貝塚に迫る 連続講演会の案内 琵琶湖博物館植田文雄特別研究員「縄文のまつりといのり」(京都)
			20	連載『ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～』1～10全10回(～3/22:毎日新聞)
	23	環境研究 成果を発表 質問や意見交換も「琵琶湖流域の環境を追う物質の流れに着目したアプローチ」琵琶湖博物館で開催(京都)		
	28	第5回シーボルトコレクション国際会議開催(～10/30) 琵琶湖博物館と大津市民会館		
11月	3	「琵琶湖森林づくりフォーラム」開催 琵琶湖博物館で開催(11/7;京都)	2	絶滅危惧種のナガレホトケドジョウ:高島の今津小4岡君ら発見、展示公開
			13	企画展示関連シンポジウム「こまった!カワウ わかった?!カワウ」基調講演「琵琶湖でのカワウの被害と対策」松田裕之・パネルディスカッション
12月			7	琵琶湖地域の水田生物研究会開催
	25	滋賀県ミュージアム活性化事業連続講座「琵琶湖 自然と文化」第1回「魚と人」安土城考古博物館3講座	24	滋賀県博物館協議会研修会「文化財は地域で守ろう」博物館関係者ら研修
1月				
	14	地域発見!参加型移動博物館スタート:琵琶湖の魅力を県内外で展示、第10回地球研地域連携セミナー(ピアザ淡海) 		
	21	滋賀県ミュージアム活性化事業連続講座「琵琶湖 自然と文化」第2回「太古の人と動物が来た道」3講座		
2月				
	12	地域発見!参加型移動博物館:第3回生物多様性協働フォーラム(兵庫県公館)	4	新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」第1回「エリとヤナの漁労史」植田文雄さん「縄文時代の琵琶湖における居住戦略」瀬口真司さん
	15	地域発見!参加型移動博物館:ミュージアム活性化事業(～2/19)イオンモール草津	11	新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」第2回「都市消費から見た中世の琵琶湖漁労」橋本専門学芸員「塩津港遺跡出土の木簡と中世古城交通」濱修さん
			12	ホンモロコの水田育成に成果発表会
			16	「水草の長期変遷と現状」報告:芳賀専門学芸員 県琵琶湖環境科学センター主催南湖の水草繁茂に関する研究発表会
			17	「田んぼの中をのぞいてみれば」講演:大塚専門学芸員 滋賀大学環境総合研究センターシンポジウム
			18	新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」第3回「佐和山城と信長の大船の意義」用田上席総括学芸員「安土城築城期における大中の湖沼環境変化」小関大樹さん
	22	学芸員の確保と育成を 県博物館協議会(会長 篠原館長)が緊急アピール	21	第62回特別研究セミナー「人は博物館でどう癒されるのか」鈴木康明さん、秋山専門学芸員
	28	地域発見!参加型移動博物館:県立図書館(～3/13)	25	新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」第4回「滋賀県的生活文化史」篠原館長「忘れられた琵琶湖の丸船」杉江進さん
3月			3	新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」第5回「農具から近江の地域性をさぐる」辻川智代さん「古写真からみた琵琶湖の変化」秋山専門学芸員
			4	水田の生態系保全を考える講演会
	14	地域発見!参加型移動博物館:ミュージアム活性化事業(～2/25)ピバシティ彦根		
	16	高額美術品眠ったまま 県監査委が琵琶博など調査 美術工芸品10年以上展示なし 県の監査で指摘「保管も役目」琵琶湖博物館のコメント		
	19	2011年度第3回アンケート調査実施(～21)		
	21	2011年度琵琶湖博物館協議会第2回(第8期)		
	26	地域発見!参加型移動博物館:甲賀合同庁舎(～4/6)		
	29	環境学習センター、琵琶博 HP 不正改ざん書き換え被害:個人情報の流出なし		



4	サテライト博物館事業：高島市立青柳小出前授業	1	湖国チョウ勢力図異変：ツマグロヒョウモン増加ギフチョウ減少
19	マミズクラゲ展示：草津の高校生が池で捕獲	17	高島市市民団体がピオトープ設置：ヒツジグサなどの水草とクロメダカを放流
25	水族ギャラリー展示関連展示「秋の鳴く虫」投句会入賞作品展（～12/25）	18	県環境白書発行：低炭素社会推進に重点、「びわ湖の日」30年事業紹介、琵琶湖博物館環境学習センターの役割
31	サテライト博物館：彦根市立若葉小で開幕、レプリカや化石標本80点を展示、出前授業	31	第14回世界湖沼会議 米で開催：嘉田知事が県の取組みの講演、研究者の外来魚対策の発表（～11/4）
6	『「魚つかみ」を楽しむ』出版：はしかけ「うおの会」の活動本	1	第14回世界湖沼会議で高島市針江生水の郷委員会がカバタの暮らしを紹介
10	指導者向け講座「簡易プランクトンネットの作製」	6	保険会社員と家族ら美化活動：琵琶湖沿岸清掃後、博物館の見学や野鳥・水草の説明
15	職場体験：草津市立新堂中学校4名（～11/18）		
17	指導者向け講座「琵琶湖の鳥たちを見てみよう」：企画展示関連事業		
4	こどもエコクラブ事業：淡海こどもエコクラブ活動交流会	9	琵琶湖保全法整備探る 「民主党琵琶湖（淀川水系）再生議員連盟」の設立総会、川那部浩哉前館長が講演
8	新空間「命の水を顕彰する 蝸牛（かぎゅう）会テント絵展（～1/8）	12	烏丸半島の風力発電施設「くさつ夢風車」事故で9月から発電停止
9	コンニャク季節はずれ開花	14	草津で「水のメディア芸術祭」：琵琶湖のカタチ表現 韓国人が作品発表
18	観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」：日本野鳥の会滋賀支部／はしかけグループ「びわたん」		
20	トピック水族展示：「ビワマスの卵」（～2012/2/18）		
30	フィールドレポーター調査「湖国のミノムシ調べよう」：寄生虫で減少		
3	お正月トピック展示「辰・龍・竜」（～1/22）	7	弥生時代の木偶 烏丸半島で発見
7	ギャラリー展示「民具を科学する」滋賀の民具120点などを大展示（～3/11）	11	野洲市琵琶湖岸が絶滅危惧植物タチスズシロソウの国内最大の群生地
14	わくわく探検隊「博物館でスゴロクをしよう～生活実験工房を中心に～（1/28）	14	第10回地球研地域連携セミナー「水辺の保全と琵琶湖の未来可能性」開催：ピアザ淡海
		28	第3回こなん水環境フォーラム：栗東市コミュニティセンター
3	新空間「日本の石橋展」森野秀三さん（～3/8）	2	県北部で記録的大雪：31年ぶりの雪害、自衛隊派遣要請
4	環境・ほっと・カフェ：酒づくり体験交流会		
6	絶滅危惧種 保存団体ら初交流会が琵琶湖博物館で開かれる イチモンジタナゴ報告や課題提示 松田征也総括学芸員の話		
11	わくわく探検隊「縄文コースターを作ろう」（2/25）		湖国の多くの文化施設は集客が低減
		21	原発再稼働拒否求め嘉田知事に要望書提出 川那部浩哉前館長ら
		24	琵琶湖統合研究（県立大、琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖博物館）：越境大気汚染考える発表
10	陸前高田被災標本レスキュー標本展示：修復完了350点（～3/25）		
13	トピック B 展示室「描かれた琵琶湖の姿を楽しむ 第2期」（～4/15）近江の名所屏風	17	滋賀県平和記念館開館
20	環境・ほっと・カフェ：越前大野に学ぶ環境まちづくり		

2012年度(平成24)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：兼房見喜男
- ・上席総括学芸員 4
- ・総務課 5・企画調整 8 (内兼 6)、創造準備室設置 (兼) 8
- ・研究部 29・事業部 23 (内兼 22)、嘱託 15、計 59
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第三段階 (2011～2015年度): 2 年目、「新琵琶湖博物館創造ビジョン」の策定、地域発見参加型移動博物館、滋賀県ミュージアム活性化推進事業
- ・入館者数 363,053

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明』2011～2015年度
- ・共同研究 11 件、専門研究 34 件
- ・研究業績 26 論文、専門著者 73 件、一般向け 42 件、『Lake Biwa』出版
- ・年間資料登録数 37,761 (総数 466,810)、収蔵数約 855,900
- ・資料利用 95 件、陸前高田の被災昆虫標本の修復 1,046 点

日	出来事
4月	1 新規学芸員 2 名 (微化石学・地域社会学) 採用 8 地域発見! 参加型移動博物館: ルシオールアート・キッズ・フェスティバル (立命館守山中)
5月	5 子どもの日: 県立の 5 施設無料開放
6月	6 入館 800 万人達成日予想クイズ 琵琶湖博物館協議会委員募集 23 入場者 800 万人達成: 15 年 8 カ月で達成 認定証と花束、博物館グッズ贈呈
7月	21 地域発見! 参加型移動博物館: 滋賀・琵琶湖ブランド展 (～ 7/22) イオンモール京都 22 夏休み期間「節電キャンペーン」無料開放 (～ 8/31) 23 皇太子ご来館 B 展示室「琵琶湖の湖上交通」視察 26 地域発見! 参加型移動博物館: 琵琶湖がやってくる! もっと知ろう日本一の湖 (～ 8/4) 東京丸の内 31 博物館実習 (～ 7/31) 大学生 17 名
8月	4 地域発見! 参加型移動博物館: 滋賀・琵琶湖ブランド展 (～ 8/5) イオン高槻 7 地域発見! 参加型移動博物館: しが学び発見 (ピアザ淡海) 22 滋賀県ミュージアム活性化推進事業 琵琶湖体験クルーズ「琵琶湖はおいしい面白い」の開催: 安土城考古博物館と協働 25 地域発見! 参加型移動博物館: 滋賀・琵琶湖ブランド展 (～ 8/26) イオンモール草津
9月	13 滋賀県博物館協議会第 1 回情報交換会「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」講演: 栗原裕司さん

日	出来事
5	連載『湖岸より』154～179 (全 50 回) (～ 3/30: 中日新聞)
14	連載「ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～」1～21 全 21 回 (～ 3/26: 毎日新聞)
5	連載「これ何だ?」1～8 全 8 回 (～ 5/27: 朝日小学生新聞)
13	いぶき歴史アカデミー「琵琶湖をとりまく古墳と城」: 講演用田上席総括学芸員、伊吹山文化資料館
8	読売教育賞受賞 中野正俊さん (野洲小教諭・元博物館職員)「自然を愛する心情と学ぶ意欲を育む博物館・学校・地域住民連携」学校サテライト事業
10	ASLO 日本大会: 「琵琶湖物語 過去、現在、未来」セッションで湖底の低酸素状態、水草の異常繁殖を報告
	
2	淡水マミズクラゲの増殖成功 (楠岡専門学芸員)

展 示 ・ 交 流

- ・第20回企画展示「ニゴローの大冒険」、第24回水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団」、ギャラリー展示2回、新空間14件、トピック展示6件
- ・観察・見学会14件、講座5件16回、体験研修件206件、視察42件、地域支援142件、サテライト博物館事業2校、ミュージアムスクール2校、企画展示関連イベント5件、自然調査ゼミナール、
- ・はしかけグループ15(356名)、フィールドレポーター90名
- ・新空間「ふるさとの川でいきいき活動する子どもたち」ホテルの学校、10年を迎えます：ホテルの学校(3/14～4/8)

日	出 来 事
1	ギャラリー展示「鉱物・化石展2012 湖国の大地に夢を掘るⅣ」(～6/3) 1
15	新空間：「鉱物・化石のおもちゃ箱」湖国もぐらの会(～6/3)
3	フィールドレポーター調査：スクミリングガイとタニシ類の分布調査
13	入門・専門講座「魚の寄生虫を調べよう」
19	フィールドレポーター交流会：ミノムシや湧き水調査を報告
21	鮒や蜆 漢字の由来は？琵琶湖の生き物などで学ぶ「草津漢字探検隊」が琵琶湖博物館で開催(京都)
22	水族トピック展示 旬の魚たち「ピワマス」：生きたピワマス初展示(～7/1)
26	企画展示関連わくわく探検隊「プランクトン模型をつくろう」(6/23)
27	体験教室「おうみ昔くらし探検塾」(7/14, 9/8, 10/28, 2013/1/20, 3/16)
2	ミュージアムスクール：立命館守山中(6/16, 30, 7/7, 10/13, 27, 11/10, 17, 12/8, 15, 2013/1/12, 26, 2/9)
5	新空間「琵琶湖に侵入する外来水生植物の現状」県自然環境保全課(～6/29)
9	企画展示関連わくわく探検隊「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう」
16	企画展示関連観察・見学会「自然豊かな田んぼで生き物観察」
19	サテライト博物館事業：長浜永原小学校で出前事業
1	新空間「骨にまつわる エトセトラ」：はしかけ「ほねほねくらぶ」活動紹介展 標本やスケッチ40点展示(～7/29)
7	入門・専門講座「保存食を科学する」(8/4, 9/1)
14	第20回企画展井「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」(～11/25) 2 第25回水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団―滋賀にすむカエルたち―」(～9/2)
22	第6回博物館による環境と科学のフェスティバル：県内9館 彦根で開催
23	ミュージアムスクール：県立石部高(7/25, 26, 30, 31)
29	「夏休み自由研究講座」：地学・昆虫・植物
31	企画展示フロアートーク(8/5, 9/11, 10/14, 21, 11/15)
1	新空間「2012 夏休みお天気広場」彦根地方気象台(～8/10)
2	トピック水族展示「マミズクラゲ」：ディスカバリールーム
	自然調査ゼミナール(～8/3)
4	企画展示関連講座「保存食を科学する ふなずし」
7	企画展示関連企画Ⅰ「古文書でたどる 田んぼの様子と農民のくらし」B展示室(～9/9)
8	入門・専門講座「回転実験室で水槽実験」
	指導者向け講座「生き物飼育講座：外来生物・ザリガニ・昆虫」
19	企画展示館長フロアートーク(9/16, 11/18)
22	サテライト博物館事業：長浜永原小学校で教員研修
2	西川貴教さんメッセージ展：故郷への思いパネルに(～9/17)
11	企画展示関連企画Ⅰ「古文書でたどる 琵琶湖名産フナズシができるまで」B展示室(～10/14)

琵琶湖・滋賀県関係

- ・琵琶湖アユ産卵激減
- ・節電キャンペーン
- ・ASLO開催
- ・第6回生物多様性共同フォーラム

日	出 来 事
3	県内低気圧の影響で強風：近江八幡で電柱11本倒壊
	
17	イシガメ激減
23	草津市が水鳥生息マップ制作
29	草津風力発電「くさつ夢風車」再稼働
9	「環境フォーラム湖東」カタツムリの生態観察会で種類と分布調査
27	滋賀で赤色クワガタ(ヒラズゲンセイ)確認：温暖化で北上か
1	「環境フォーラム湖東」カタツムリの生態観察会で種類と分布調査 『先進陸水海洋学会』ASLO 日本大会：滋賀県大津で開催(～7/13)
20	高島市朽木で県内最大級トチノキの巨木確認
22	県立5施設無料開放スタート
23	皇太子さま23、24日来県、大津で献血運動推進全国大会に出席
24	烏丸半島で気球で空中散歩：草津市商業観光課
26	琵琶湖の魅力東京で発信：「琵琶湖の生きものたちは、いま」開幕イベントに嘉田知事と篠原館長
14	豪雨で大津市関津などで58戸浸水被害 「水と環」講演会：米原市 米原の自然を紹介した冊子
22	淡水真珠復興目指し母貝イケチョウガイの養殖実験始まる：草津市柳平湖
24	高島市安曇川人工河川で産卵直後の琵琶湖産アユの放流

	25 JICA 博物館学集中コース：ミュージアムレポート10名 28 新琵琶湖博物館のビジョン策定：丹青社に決まる		
10月	1 県博物館協設立30周年記念「淡海の博物館・美術館スタンプラリー」 “完走者”に認定証（～2013/2/28） 11 JICA 博物館学集中コース：一般研修10名（～10/17） 19 あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！（～10/21）：入館無料 30 2012年度第1回琵琶湖博物館協議会（第9期）：開館20年に新琵琶湖博物館の創造（リニューアルについて）検討		
11月	1 県博物館協設立30周年記念巡回パネル展（～2013/2/28） 10 滋賀県ミュージアム活性化事業 連続講座「琵琶湖 自然と文化」 （全5回10講座） 第1回琵琶湖と俳諧・俳句「琵琶湖を詠む」篠原徹さん「淡水魚を詠んだ俳句」茨木和生さん 24 特別講演会「ローカリゼーションという希望」開催：ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ&嘉田知事 持続可能社会地産地消で 24 講演会「“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる」開催 25 リニューアルに向けた県民ワークショップ第1回開催：大学とよりよい関係をさぐる	3 企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた！」 基調講演「魚は陸地でふえる」斉藤憲治さん、事例報告「どうすれば魚は田んぼで繁殖できるのか」端憲二さん「魚はなぜ田んぼへやってくるのか」前畑政善さん「魚が繁殖した田んぼで何が起ころのか」大塚泰介さん「豊かな水田の生態系回復を目指して」堀彰男さん、パネルディスカッション	
12月	2 JICA 博物館学集中コース：個別研修5名（～12/7） 15 滋賀県ミュージアム活性化事業 連続講座「琵琶湖 自然と文化」 第2回琵琶湖の自然史「化石花粉が語る琵琶湖の森と人の歴史」林竜馬さん「昆虫とのつきあい方」養老孟司さん 20 滋賀県博物館協議会第2回情報交換会「美の滋賀と県内の美術館・博物館について」講演：小林啓志さん 26 湖国この1年に 6月23日来場者が800万人に達成が選ばれる	19 第12回琵琶湖地域の水田生物研究会開催	
1月	14 県博物館協設立30周年記念「しが県博協まつり」合同ワークショップ開催 19 滋賀県ミュージアム活性化事業 連続講座「琵琶湖 自然と文化」 第3回琵琶湖湖底の謎を探る「琵琶湖に沈んだ暮らしと事件」大沼芳幸さん「琵琶湖に残る環境変化の記録」井内美郎さん 27 県博物館協設立30周年記念講演会第1回：加盟館による3講演	9 県内の酒693銘柄「全瓶集合」展示関連シンポジウム「歴史は酒とともに流れ」：安土城考古博物館、篠原館長講演 26 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第1回にぎわう水田の生き物「滋賀県の水田に生息する中・小型甲殻類」Grygier, M.J. さん「ホンモロコと人との関わり及び水田でのホンモロコの増殖」亀甲武志さん	
2月	5 2012年度第2回琵琶湖博物館協議会（第9期） 7 リニューアルに向けた県民ワークショップ第2回企業とよりよい関係をさぐる 24 県博物館協設立30周年記念講演会第2回：加盟館による3講演	2 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第2回琵琶湖の流れと生き物「琵琶湖の大きな流れ」戸田孝さん「風が吹けばプランクトンが増える」伴修平さん 5 新琵琶湖学セミナーの開催案内（毎日新聞） 7 2013年、20年ぶりに多賀町立博物館と博物館が合同でゾウ化石発掘調査を予定 9 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第3回琵琶湖をとりまく新発見「新種イタチムシと織毛虫」鈴木隆仁さん「琵琶湖とそのまわりの昆虫相」八尋克郎さん 16 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第4回生物群集から見た生物多様性「生物多様性の考え方」中井克樹さん「琵琶湖のプランクトンの多様性を考える」一瀬諭さん 23 新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」第5回人と生き物の関わり「カワウと人の関わり」亀田佳代子さん「滋賀県におけるイノシシと人の関わり」高橋春成さん	
3月	2 滋賀県ミュージアム活性化事業 連続講座「琵琶湖 自然と文化」 第4回クニマスとピワマス「湖魚の食文化」菅原和宏さん「クニマスとサクラマス種群」中坊徹次さん 8 大津の郷土史を調べる松野孝一氏 研究成果をまとめた冊子を琵琶湖博物館などに寄贈 10 滋賀県博物館協議会第3回研修会「美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して」講演：清水眞澄さん 16 滋賀県ミュージアム活性化事業 連続講座「琵琶湖 自然と文化」 第5回琵琶湖の鉄「古代近江の製鉄遺跡」大道和人さん「琵琶湖周辺の金属鉱床と草津木原遺跡出土のエキゾチックな鉄鉱石」富田克敏さん 20 「琵琶湖統合研究」の中間報告会：県立大が琵琶湖環境科学研究センターや琵琶湖博物館と連携研究 22 2012年度第2回アンケート調査実施（～24）	1 特別研究セミナー「博物館教員経験者としての学校現場での経験」（2013/3/3） 〔遊覧選〕琵琶湖博物館特別研究セミナー「学校現場へ戻った博物館教員—博物館での経験は活かされたのか？」開催案内（中日新聞） 3 第63回特別研究セミナー「博物館教員経験者としての学校現場での経験」高橋政宏さん、中村公一さん、小川義和さん 8 滋賀県博物館協議会講演会「美術館・博物館が日本を支える」開催	

		26	「節電キャンペーン」県施設無料開放で利用1.9万人増 3倍前年比、初来訪6割
		2	水鳥観察数に異変：琵琶湖で激減・急増
19	「琵琶湖博物館とおき資料展」水族企画展示室：フロアートーク実施（～10/28）	12	琵琶湖アユ産卵激減：出荷に影響懸念
30	身近な生態を詳細に観察し新たな発見：はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」		
9	職場体験実習：新堂中2年4名	7	彦根市犬上川に自生するタブノキ林、県河川改修工事で伐採
15	指導者向け講座「簡易プランクトンネットの作製」	8	生物データ広域で共有を嘉田知事が提案：博物館の取り組み「うおの会」を紹介
22	指導者向け講座「大地の成り立ちと変化」	18	水資源機構の「目的外」烏丸半島37ha保有不要、会計検査院指摘 売却求める
26	サテライト博物館事業：能登川東小学校でオープン 博物館の資料79点展示	21	ミノムシが減少：外来種のアヒが寄生
2	淡海こどもエコクラブ活動交流会開催	27	県内11河川で産卵激減：消えたアユの謎 水温？食害？理由不明
22	ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」（～3/10）	20	琵琶湖の外来魚なぜ回収？「びわこの大問題」：大津小3年近藤聡君が「海とさかな」コンクールで連続入賞
3	お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」（～1/27）	23	「いきものみつけファーム滋賀推進協議会」を設立：甲賀の市民団体が県立大、博物館などと連携 米ぬか肥料で環境再生
13	入門・専門講座「はじめてのたんさいぼう」	11	自然と人との共存の場・琵琶湖を「国の名勝、世界遺産に」嘉田知事発言
18	新空間：まんぼ兄弟とその仲間：森野秀三さん（～2/13）	12	第6回生物多様性共同フォーラム：大津で開催 琵琶湖淀川水系の住民参加の生き物生態調査の成果や意義を説明 生物多様性協働フォーラム事務局
7	「化石発掘調査隊」募る 住民向け発掘者養成講座を開催 第1回動物の骨格標本を使って骨の見方講座：多賀町立博物館	1	地蔵川のハリヨ残そう 手作りすごろくで生態説明 児童が専門家と共同発表
9	トピックA展示「かわいい化石のモンスター ミクロの世界の大発見」（～3/17） トピック水族展示 ハート模様があるニホンウナギを展示（～3/17）	2	北米原産ヨコエビ、カワリヌマエビ族の一種 県独自、指定外来種追加へ
12	水族トピック展示「アナンデルヨコエビ」（琵琶湖固有種・初展示）（～3/3）	6	オオバナミズキンバイ琵琶湖拡大
17	琵琶湖博物館が陸前高田の1,046点修復、被災チョウ標本DB化完了 環境ほっとカフェ「未来（これから）のくらしの作り方」（3/10）		
21	環境ほっとカフェ「親子で自然で遊ぼう」（2/28）	28	ぼてじゃこトラストがイチモンジタナゴ野生復帰に向けた活動を展開
5	トピック水族展示「海と川を行き来するカニ モクズガニ」（～4/21）	5	環境DNAを使って湖沼の少量水で生息判定
10	被災昆虫標本修復展：陸前高田市立博物館収蔵品チョウなど348点	6	草津の琵琶湖岸で48cm金魚を確認
11	新空間「村の至宝 湧水と井戸」：湧き水利用や保全紹介（～3/17）		
16	フィールドレポーター調査「身の回りの生きもの」調査（2月～3月）：県の動植物 変遷を調査		
			烏丸半島外国版リーフレット 滋賀の文化遺産の紹介 PR ビデオ（外国版）

2013年度(平成25)

博物館全体	
・館長：篠原 徹 副館長：中鹿 哲 ・主席参事1、上席総括研究員1、上席総括学芸員3 ・総務課6・企画調整9(内兼8)、創造準備室設置10(内兼8) ・研究部29・事業部23(内兼22)、嘱託15、計61 ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第三段階(2011～2015年度)：3年目、新琵琶湖博物館創造基本計画の策定、MOU湖南省博物館、地域発見参加型移動博物館17件、滋賀県ミュージアム活性化推進3事業(ヨシ博物館コレクション整備、滋賀県無形文化財映像資料デジタル化、県博協英語版ガイドブック制作・情報交換会・展示会とワークショップ開催) ・入館者数368,210	

研究・資料	
・総合研究『琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明』2011～2015年度 ・共同研究11件、専門研究33件 ・研究業績21論文、専門著者57件、一般向け40件 ・年間資料登録数37,750(総数469,713)、収蔵数約900,900 ・資料利用77件、電子図鑑「水族企画展示」5回分公開 ・資料収蔵環境改善プロジェクト	

日	出来事
4月	3 琵琶湖博物館新ビジョン策定：タイムリーな展示で大人も楽しめる
	16 JICA博物館学コース：ミュージアムレポート10名
	5 「からすま半島スタンプラリー」水生植物公園みずの森と共催(～5/6)
5月	9 JICA博物館学コース：一般研修10名
	20 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議第1回開催：ビジョンと基本計画策定に向けて
	25 JICA博物館学コース：個別研修「博物館と地域コミュニティ」5名
6月	30 「びわ湖の森の生き物研究会」開催：湖国の自然と森考えよう
	5 あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！(～7/6)実施
	20 滋賀県ミュージアム活性化事業：琵琶湖八珍・湖魚料理人気投票(～9/16)安土城考古博物館
7月	26 環びわ湖大学・地域コンソーシアム」と県博物館協議会が連携協定で締結
	30 県文化施設平日無料開放：節電キャンペーン、7月入館者数前年より約1割増加／博物館実習(～8/6)大学生19名
	1 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議第2回開催(8/7,11)
8月	23 来館者アンケート調査第1回(～8/25)
	27 03年「琵琶湖守る1万人の誓い」琵琶湖博物館で展示してきたタイムカプセル初開封
	9 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議第3回開催：中間取りまとめ
9月	13 交流体験事業生かす ダイフク寄付琵琶湖博物館に32万円(9/26：中日新聞)
	26

日	出来事
	13 連載『湖岸より』180～206(全27回)(～3/29：中日新聞)
	20 琵琶湖博物館研究報告をネットで公開：過去20年分
	21 ギャラリー展示関連イベント：談話会「村田源先生と滋賀の植物について語り合う」
	27 多賀の古代ゾウ発掘調査開始：80人団結
	11 三重県の水産総合研究センター増殖研究所へ譲与した貴重な在来種のコイが須磨海浜水族園で展示
	6 収蔵資料船道具を出展：長浜城歴史博物館企画展「丸子船～江戸時代の琵琶湖舟運～」
	14 希少巨大ミミズ探せ「湖国ダービー」分布調査
	22 連載「大きな湖小さな生命～びわこからの報告～」(上中下)全3回(～6/24：産経新聞)
	20 所蔵漁具資料を出展：県立安土城考古博物館夏季特別展「華麗なる漁と美味なる食」・講座「琵琶湖固有魚の謎と魅力」講師：松田征也総括学芸員
	8 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」企画展示連動全3回：第1回「多様性に支えられた琵琶湖の魚たち」藤岡康弘・「琵琶湖周辺の植物の多様性」金子有子

展 示 ・ 交 流

- ・ 第21回企画展示「生きものがたり」、第26回水族企画展示「水中の忍者たち」、ギャラリー展示3回、新空間13件、トピック展示6件
- ・ 観察・見学会22件、講座4件13回、体験研修件235件、視察43件、地域支援88件、サテライト博物館事業3校、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント5件、自然調査ゼミナール、
- ・ はしかけグループ16(367名)、フィールドレポーター111名

琵琶湖・滋賀年表

- ・ 環境学習船「うみのこ」就航30周年
- ・ 滋賀県と中国湖南省との友好提携30周年
- ・ 台風18号豪雨
- ・ 近江大橋の通行料無料
- ・ 琵琶湖外来水生植物対策協議会設立

日	出 来 事
2	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎—植物研究にかけた情熱」(～6/9) 1
14	平和堂財団・環境保全活動支援贈呈式で、琵琶湖博物館はしかけ「田んぼの生きもの調査グループ」が活動を報告
16	B展示室トピック展示「天皇が記録した災害—花園天皇の日記から—」(～6/23)
11	企画展示関連イベント・わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」(6/8) JICA研修生も参加
19	ギャラリー展示関連イベント：春満開の綿向山登山
21	トピック水族展示「ビワオオウズムシ(オオウズムシ科)琵琶湖固有種」(～6/16)
26	ギャラリー展示関連イベント：日野で植物観察会
1	ミュージアムスクール：立命館守山中学校(6/15, 29, 9/14, 10/26, 11/2, 16, 12/7, 2014.1/25, 2/15, 22, 3/8, 15)
2	フィールドレポーター調査「カタツムリ」調査(5月～8月)
18	トピック水族展示「絶滅危惧種 イチモンジタナゴの稚魚」(～7/7)
1	「びわ湖の日」大津瀬田北中学校で琵琶湖博物館移動博物館開催：嘉田知事が琵琶湖の魅力を語る
9	トピック水族展示「絶滅危惧種 カゼトゲタナゴの稚魚」(～8/4)
13	第26回水族企画展示「水中の忍者たち」(～9/1)
20	第21回企画展示「生きものがたり—生物多様性 湖国から 世界から—」(～11/24) 2
21	夏休み自由研究講座：プランクトン・昆虫・天体
28	環境学習センター「博物館夏祭り(お魚タッチングプール)」出展(ピバシティ彦根)
31	自然調査ゼミナール(～8/1)：中学生67、教員21、実習生19
6	水族トピック展示「天然記念物アユモドキの幼魚」(～9/1)
8	指導者向け講座「生き物飼い方講座」
7	水族トピック展示「琵琶湖でとれた巨大ニホンウナギ」全長117cm、重さ3.7kg(～9/29)・「絶滅危惧種 ニッポンバラタナゴの稚魚」(～9/29)

日	出 来 事
6	南湖の水草激減 平均の3割 低い透明度影響か：博物館調査12年の観測結果から
	
27	「びわこ虫」増加の兆し 水草の激減影響か：博物館の調査によると昨年は水草が過去10年の平均値の3分の1程度にまで激減
17	東近江の水田「ゆりかご」で稚魚観察学習会 開催
	
28	草津からすま半島で熱気球体験
4	環境学習船「うみのこ」就航30周年記念式典
20	琵琶湖南湖の水草繁茂、悪臭、漁業に支障
22	びっくり ピンク色のバツタ発見
26	遊覧船で琵琶湖の環境学ぶ親子ら150人参加
15	台風18号豪雨 特別警報発令：栗東市で土砂崩れ、高島市鴨川決壊、信楽高原鉄道の杣川鉄橋の橋脚が流れ、瀬田川洗堰

10月			6 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」企画展示運動：第2回「昆虫の進化と多様性」 榎永一宏・「半自然草原ってどんな場所」 横川昌史
11月	6 第1回琵琶湖博物館協議会（第9期）開催		3 新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」企画展示運動：第3回「自然に学ぶ」 仲津英治・「アジアモンスーン圏における米・魚・豆の伝統的組み合わせと多様性」 堀越昌子
	19 琵琶湖博物館と湖南省博物館が協定締結：観光船ピアンカの船上で篠原徹琵琶湖博物館館長と陳建明館長が調印式 		
	26 常陸宮夫妻が琵琶湖博物館視察：県発明協会70周年式典出席		
12月			8 ビワマスの謎紹介：多賀で藤岡康弘上席総括研究員（「びわ湖の森の生き物研究会」事務局長）が講演
	18 琵琶湖博物館リニューアル：開館17年目県が素案公表		
	22 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議第4回開催：基本計画リニューアル素案	22 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会開催／日本最長ミミズ「湖国ハッタミミズ・ダービー」の中間報告も	
1月	7 新琵琶湖博物館創造基本計画リニューアル素案：H28年度に開設20周年、世界初「微生物シアター」「淡水アザラシ展示」体験型、交流も強化、2016～20年整備5,153億円		
		20 オオサンショウウオ身体測定：飼育では国内最大137cm、体重28.4kg	
	31 滋賀県ミュージアム活性化事業：滋賀の博物館・美術館逸品展：京都文化博物館（～2/2）	25 琵琶湖博物館共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」：先進のトンボ研究結果県内生息100種類目「スナアカネ」発見	
2月	8 県民ワークショップ開催：「明日の琵琶湖博物館をみんなで語ろう」		
	21 2013年度第2回アンケート調査実施（～23）	21 芭蕉や蕪村の句題材に「酒薫旅情 琵琶湖が誘う酒と肴の俳諧民俗誌」を刊行 湖国飲酒文化随筆集に篠原館長執筆	
3月	6 第2回琵琶湖博物館協議会（第9期）開催		
	14 春のプレミアムレストラン（～3/15）19:00～21:00		
	21 来館者アンケート調査第2回（～3/23）		
	22 国際講演会「魚米之郷を語る」日中共同博物館・大学講演者ら湖辺の暮らし語る		
	25 新琵琶湖博物館創造基本計画検討会議第5回開催（3/27：ICT情報通信技術）	29 ふれあいの里の約2,000点資料を移管	

1 6	水族トピック展示「絶滅危惧種 スイゲンゼニタナゴ」(～12/8) マミズクラゲ飼育展示1年突破 世界記録更新中	2 5 10	琵琶湖研究関連機関の連携強化：総合的施策へ新組織・連絡会議設立へ 日本最大の銅鐸が132年ぶりに里帰り(銅鐸博物館25周年記念展) 県施設開放節電に効果：琵琶湖博物館は夏休み期間中1日平均2,768人入館
14 19	企画展示関連イベント「さわってみよう、カエデの木がカゴになる」太々野功(小原かごを復活させる会) 企画展示関連イベント「作って食べよう！滋賀の伝統料理」(講師：滋賀の食事文化研究会)		
26	トピック水族展示「よみがえった魚 クニマス」(～11/24)	29 31	平成25年度滋賀県試験研究機関研究発表会「淡海の環境に関する試験研究の取組2013」開催：コラボしが21 アールブリュット展示：県庁のほか琵琶湖博物館など10施設151点に拡大
8	職場体験実習：草津市立新堂中2年生5名(～11/14)	2	大津市と草津市によるびわこ大津草津景観推進協議会が設立
14 20	指導者向け講座「土の中の生き物」 環境学習センター環境・ほっと・カフェ「親子向け自然遊びの広場」実施(12/18, 1/15, 2/19, 3/19全5回)	19	県と湖南省友好30周年
		24 29	米原市ビワマス遡上プロジェクトでシンポジウム開催(さかなクン講演、博物館学芸員や市民団体メンバーと公開討論) 亀岡アユモドキ国繁殖へ：環境省近畿地方環境事務所は水族館での飼育繁殖に取り組むことを決めた
8 10	淡海こどもエコクラブ活動交流会開催 パネル展「村の至宝 湧水と井戸」・「水田が結ぶ水と人々の暮らしー中国・ラオス・カンボジア」C展示室：富江家耐震工事中	7	第6回全国発酵食品サミット in たかしま(高島市)が開催
15	観察会・見学会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」：日本野鳥の会滋賀支部／はしかけグループ「びわたん」共催 第4回琵琶湖地域の水田生物研究会のポスター展(～12/23)		
21	ギャラリー展示巡回展「アケボノゾウ発掘から20年」(～2014/2/2)：発掘20年企画展 アケボノゾウ化石30点 最新の調査結果なども紹介	23	新名物「琵琶湖八珍」県ミュージアム活性化推進委員会によるビワマス・コアユ・ニゴロブナ・ハス・ホンモロコ・イサザ・ビワヨシノボリ・スジエビを推すことを決めた
10	淡海こどもエコクラブ活動交流会参加クラブの活動壁新聞展(～1/19)	1	琵琶湖保全に向け新研究機構設立へ：琵琶湖環境科学センターや琵琶湖博物館など県9機関連携在来魚現探る
11	わくわく探検隊「博物館でスゴロクをつくろう＝う～まいっ！B展示室(1/25)	13	琵琶湖の固有種61種類：多様な環境で育む、外来種増加で生態系悪化を懸念
25	トピック展示「近江はトンボの宝庫」県内トンボ100種標本全て見せます(～2014/5/18)	29	背丈が高い水草が南湖で大繁殖、琵琶湖博物館の調査結果から県が対策
2 4	新空間「すばらしき石橋展」(～3/2) B展示室収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」(～3/9)：東寺文書で読み解く中世 国重文、3点展示		
11 18	水族トピック展示「アナンデルヨコエビ」(～3/9) 「水族バックヤード体験」：淡水魚の生態・飼育学ぶ		
4	新空間「私の自宅は博物館～西川嘉廣さんとヨシ博物館(主催：滋賀県ミュージアム活性化推進委員会・滋賀県立大学近江楽座地域博物館プロジェクト)(～3/23) 4	4 5	「しが生物多様性大賞」表彰：「カスミサンショウウオ保護活動」「草津市や琵琶湖博物館などと共同で地域企業が水辺の調査研究を進める活動」「野洲市家棟川をビワマスが棲める環境にしようという活動」3件 「琵琶湖環境研究推進機構」を設置、議長に副知事
11 14	水族トピック展示「ビワオオウズムシ」(～4/13) 環境学習センターイベント「春のプレミアムレストラン」(3/14, z15)	17 18 20	琵琶湖西岸断層帯が震源の震度7の地震が発生した場合、死傷者2万3,000人、建物全半壊12万2,000棟を上回ると県が想定 米原市「東草野の山村景観」が国の重要文化財景観に指定 外来水生生物オオバナミズキンバイの南湖広範囲に拡大「琵琶湖外来水生植物対策協議会」設立へ
23 25 26	観察会・見学会「烏丸半島のミステリー観察会」 ギャラリー展示「ボーンコレクターズー骨の魅力に魅せられてー」(～5/6) 共催：はしかけ「ほねほねくらぶ」 はしかけ近江昔くらし倶楽部：小学校に眠る民具調査、データベース化	24 30	県の流域治水推進条例が成立 県立朽木いきものふれあいの里が閉館：22年間で40万人利用

2014年度(平成26)

博物館全体	
・館長：篠原 徹 副館長：中鹿 哲・高橋啓一 ・主席参事1、上席総括研究員1、上席総括学芸員2 ・総務課6・企画調整9(内兼8)、創造準備室設置10(内兼8) ・研究部29・事業部23(内兼22)、嘱託15、計61 ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第三段階(2011～2015年度):4年目、新琵琶湖博物館創造実施設計第1期、MOU パイカル博物館・中国科学院水生生物研究所、地域発見参加型移動博物館23件、滋賀県ミュージアム活性化推進事業(湖上フォーラム「ふなずし」、展示会「鯉に恋して」とワークショップ開催)、烏丸半島活性化連携事業(烏丸半島スタンプラリー、烏丸半島マップ作成と配布)、滋賀県博物館地域連携人材育成委員会事業(環びわ湖大学・地域コンソーシアム連携事業:紹介ミニパンフ、いちおし展示、体験ツアー& Web 配信) ・入館者数358,871	

研究・資料	
・総合研究『琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明』2011～2015年度、『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』2014～2018年度 ・共同研究10件、専門研究34件 ・研究業績34論文、専門著者56件、一般向け38件 ・年間資料登録数51,383(総数505,626)、収蔵数約891.600 ・資料利用71件、資料収蔵環境改善プロジェクト	

日 出 来 事	
4月	12 基本計画を策定：新しい研究成果を展示に20周年の改装計画
	24 JICA博物館学コース：ミュージアムレポート4カ国9名
5月	3 烏丸半島活性化連携事業：烏丸半島スタンプラリー開催(～5/6)
	7 滋賀県博物館協会編英語版博物館・美術館ガイドブック「Discover the museums of Shiga」発行：県内70館の魅力発信、県内留学生ら「おすすめコース」作成紹介
	14 展示実施設計：滋賀県議会環境・農水常任委員会への報告
	22 JICA 博物館学コース：一般研修(～5/28)
6月	
7月	1 連載[地域発見 滋賀の博物館・美術館めぐり] 滋賀県博物館協議会(17) 琵琶湖博物館
	4 展示アドバイザー会議(11/12)
	8 JICA 博物館学コース：個別研修(～7/12)
	19 滋賀県「節電クールライフキャンペーン」を実施：夏休み期間県立文化施設入館無料
	27 ミュージアム活性化事業「湖上フォーラム ライブミュージアム琵琶湖」開催：県ミュージアム活性化推進委員会と琵琶湖汽船主催
	30 ミュージアム活性化事業：学芸員の仕事の舞台裏を見学(安土城考古博物館と連携)
	31 博物館実習(～8/7) 大学生20名
8月	

日 出 来 事	
12	連載『湖岸より』207～233(全27回)(～3/28：中日新聞)
20	大橋宇三郎・洋さん親子の映像資料出展：「写真で見る昭和の近江」多賀町博物館、大橋洋氏と嘉田由紀子知事、金尾滋史学芸員による座談会開催
28	多賀「古代ゾウ発掘プロジェクト」の2次調査、調査団を結成
31	ハッタミミズ・ダービー：日本最長ミミズ情報募集 研究者ら生態調査実施(7/2 甲賀の92cm最長)
5	「絶滅危惧IB種 ツチフキ」：博物館で大量繁殖初成功

展 示 ・ 交 流

- ・第22回企画展示「魚米の郷」、第27回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』」、ギャラリー展示1回、新空間13件、トピック展示4件
- ・観察・見学会20件、講座5件12回、体験研修件205件、視察45件、地域支援112件、サテライト博物館事業3校、ミュージアムスクール2校、企画展示関連イベント3件、自然調査ゼミナール、企業連携4件
- ・はしかけグループ16(344名)、フィールドレポーター114名
- ・はしかけミーティング6回
- ・ギャラリー展示「ボーンコレクターズ―骨の魅力に魅せられて―」(3/25～5/6)(共催：はしかけ「ほねほねくらぶ」)

琵琶湖・滋賀年表

- ・猛暑・豪雨・大雪
- ・琵琶湖大橋開通50周年
- ・琵琶湖環境研究推進機構設立
- ・重要文化的景観選定
- ・人口推計48年ぶりに減少

日	出 来 事
12 15	わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」 トピック水族展示・旬の魚たち：イサザとウグイ(～5/11,～6/11)
26 27	観察会・見学会「からす半島タンボ調査」：西日本タンボ調査関連(はしかけタンボ調査) 観察会・見学会「植物化石で太古の森を学ぼう」
1 10	新空間「全校児童で描く「渋川生き物絵図」～生き物とのかかわりを通して、ふるさとの環境について考えよう～」(～5/30) わくわく探検隊「タンボ調査にチャレンジしよう」：西日本タンボ調査関連(はしかけタンボ調査)
13	トピック水族展示「絶滅危惧種 カゼトゲタナゴの稚魚」(～6/1)
21	環境・ほっと・カフェ「ちっちゃなこどものしぜんあそび」(6/18,7/16,11/5,12/9,2015.1/4,2/25,3/18)
24	フィールドレポーター交流会：JICA研修生と懇談会 観察会「滋賀のカタツムリを調べよう」：フィールドレポーター ミュージアムスクール：立命館守山中学校1年160(6/21,7/12,2015.2/7,21)
3 6	トピック水族展示「絶滅危惧種 ゼニタナゴの稚魚」稚魚展示14年ぶり(～6/22) はしかけ田んぼ調査：湖西北部で2年連続ホウネンエビ出現 学校サテライト博物館出前事業：東近江市立能登川東小学校3年140人
14 15	わくわく探検隊「魚の解剖にチャレンジしよう」 「魚のゆりかご水田 田んぼの生き物観察会」開催(4/9,5/10,6/7,14,21,7/1,5,8/26)
24	2013年度フィールドレポーター調査：カタツムリ調査報告をまとめる／ディスカバリールームのイベント「七夕☆短冊に願いをこころし！」(～7/6)
13 15 19 20	博物館夏祭り「お魚タッチコーナー」出展：最多の14館参加、ピバシティ彦根(～7/14) トピック水族展示「天然記念物 アユモドキの幼魚」：亀岡産アユモドキの人工繁殖へ水族館連携(～8/3) 第22回企画展示「魚米の郷」開催(～11/24) 1 第27回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』」開催：ヨシ原のニゴロブナやカヤネズミ紹介(～8/31) 観察会「プランクトンでアート」：成安造形大学コラボ・はしかけびわたん企画 夏休み自由研究講座：プランクトン・魚・昆虫
22 26 28	ミュージアムスクール：県立石部高等学校3年9人(～7/25,28) 観察会・見学会「初心者のためのふなずし作り体験」：ミュージアム活性化推進事業支援(～7/27) 企業連携：屋外展示を使った観察会(日本生命) 地域発見！参加型移動博物館「びわ湖の日」事業：京都東山中学校で開催
2 3 5	観察会・見学会「夜の屋外展示を探検しよう」 観察会・見学会「びわ湖パレイでアキアカネ調査に参加しよう」：フィールドレポーター トピック水族展示「絶滅危惧IB種 ツチフキ」：大量繁殖初成功公開(～8/31) 自然調査ゼミナール：中学生88、教員27、博物館実習生20(～8/6) C展示室「回転実験室で水槽実験を」

日	出 来 事
25	琵琶湖環境研究推進機構が発足：8つの試験研究機関が連携し、総合的な保全施策、政策の立案を目指す、委員長に副知事、篠原徹館長らが顧問
8	琵琶湖八珍：2014年度投票結果、独自の食文化『ビワマス』『コアユ』『ニゴロブナ』『ハス』『ホンモロコ』『イサザ』『ビワヨシノボリ』『スジェビ』
21	琵琶湖環境研究推進機構が初会合：在来魚復活へ連携、顧問篠原館長「どれだけ内湖を再生させるかという大きな目標も必要では」と指摘
4	琵琶湖の外來生物「特定」漏れ対応後手 湖魚のイサザ大豊漁で浜値は急落
1	びわ湖の日：自然を守る活動支援(琵琶湖環境学習センター)
	
22 26	最大級ハス群生湖彩る 鳥丸半島博物館前広場で熱気球搭乗体験 猛暑：東近江市の気温38.8度、県内4箇所で観測史上最高を記録
2	突然変異？青色トノサマガエル：長浜の湖北野鳥センターで展示 - 関西アーバン銀行による「夏休み！びわ湖体感学習」開催：環境学習船に乗船後、琵琶湖博物館を見学

8月			13	県鳥カイツブリのヒナ3羽誕生：5年ぶり
	28		ユニバーサルデザイン評価会議	30
9月	6 7	発見！びわ博フェスティバル ² 発見！びわ博フェスティバル	7	魚のゆりかご水田調査：フナ・メダカ・ドジョウ・ナマズなど16種の遡上確認、水田は生息環境に効果（10/1：韓国国際会議で発表）
	18	ミュージアムショップ「おいでや」が琵琶湖のヨシを材料とした「古代湖浪漫よしクッキー」を販売：NPO法人「地域と自然」と共同開発		
	25	MOU 国際再協定：バイカル博物館と相互協力協定締結、ウラジミール・フィアルコフ館長と協定書に調印（バイカル博物館）、リニューアルに伴う新展示「古代湖の世界」でバイカルアザランなど生物の紹介を行う予定 ³		
10月	7	展示アドバイザー会議（11/19, 2015/1/23）	9	「最長ハツタミズ」競争過熱：「本家」石川 NPO法人「河北潟湖研究所」が滋賀「琵琶湖博物館」に挑戦状、草津市立笠縫東小学校、市民活動グループ「草津塾」メンバーが対抗
11月	1	烏丸半島活性化連携事業：烏丸半島スタンプラリー開催（～11/3）・烏丸半島マップを草津市移住者に配布開始		
	6	展示評価：リニューアル展示計画に反映する調査 C 展示室（11/8） 展示アドバイザー会議		
	7	職場体験実習：草津市新堂中学校2年5人（～7/8, 11, 12, 13）		
	8	ミュージアム活性化事業「湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史		
	12	展示実施設計：滋賀県議会環境・農水常任委員会への報告 展示アドバイザー会議		
	13	琵琶湖博物館リニューアル設計素案：湖と人間の関わり、より楽しく学べる施設に		
	25	ユニバーサルデザイン評価会議		
	28	展示評価：リニューアル展示計画に反映する調査水族展示室（12/20）		
12月	8	展示アドバイザー会議		
	17	琵琶湖博物館協議会第1回（第10期委員）		
	18	展示アドバイザー会議		
	20	滋賀県博物館協議会「滋賀ミュージアムガイド」発行：県内70施設をテーマごとに紹介		
	21	「琵琶湖博物館アトリウムコンサート」県内学生ら出演 合唱や演奏披露 博物館レストラン「におのうみ」：メニューから消えたバス料理	21	琵琶湖地域の水田生物研究会開催：国内最長ミズ研究成果を発表 サンタ姿の職員が巨大水槽清掃や餌やり
	24	展示アドバイザー会議（2015/1/22）		
1月	6	冊子「滋賀ミュージアムポケットナビ2014」製作：県博物館協議会と環びわ湖大学・地域コンソーシアム	5	バイカル湖新生態見つけろ！ 琵琶湖博物館が調査
	15	県新年度一般会計予算案：博物館水族展示室等のリニューアル7億2,099万円	17	新琵琶湖学セミナー「研究の種（タネ）」全3回6講演 第1回「琵琶湖地域の気候変動と自然」開催：「琵琶湖地域の気候と森の移り変わり」林竜馬・「樹木年輪から見た歴史時代の近畿・中部地方の気候変動と社会応答」中塚武
	20	滋賀県「ふらっと美の間事業」：アール・ブリュット展示を実施	18	コイヘルベス研究で三重県に譲渡：子孫12匹が琵琶湖里帰り
	21	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会：テーマ展「鯉に恋して」（～3/18）	21	滋賀県「ふらっと美の間事業」：アール・ブリュット展示を実施
	28	エコ書初め審査作品募集：ミュージアムショップ「おいでや」とNPO法人「地域と自然」	22	連載【琵琶湖遠近】第1部いま水辺で①②（京都新聞）
	30	ユニバーサルデザイン評価会議		
2月			11	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会：テーマ展「鯉に恋して」関連講座「中世琵琶湖のコイとフナ」
	20	「水槽サポーター」制度を検討：生き物の管理費、ファンによる寄付	14	希少魚ハリヨやアユモドキなど4種を譲渡：京の水族館や動物園に飼育方法も伝授「分散、保護」
3月	1	展示評価：リニューアル展示計画に反映する調査 C 展示室	21	新琵琶湖学セミナー「研究の種（タネ）」第2回「身近な自然と暮らしの歴史」開催：「地域環境史に向けて」橋本道範・「古絵図、古写真などから見える植生景観の歴史」小椋純一
	6	予算特別委員会環境・農水分科会への報告	28	化石の年代絶滅期濃厚：滋賀・多賀出土のナウマンゾウ放射性炭素の年代を測定
	10	琵琶湖博物館協議会第2回（第10期委員）	2	総合研究成果：琵琶湖ルーツに新設、450万年前の巨大湖
	17	博物館の観覧料引き下げに関する条例の改正が県議会可決	19	連載【琵琶湖遠近】第2部見つめる寄り添う①（京都新聞）
	20	2014年度第2回アンケート調査実施（～22）	21	新琵琶湖学セミナー「研究の種（タネ）」第3回「琵琶湖の魚類研究の進展と課題」開催：「魚類標本から見た琵琶湖の原風景」細谷和海・「琵琶湖の魚類研究の進展と課題」藤岡康弘
	24	MOU 国際協定更新：中国科学院水生生物研究所（陳宣諭所長）と湖北省武漢市にて調印		
	26	来館者900万人達成		

13	カイツブリのヒナ誕生展示公開	15	豪雨：大津市北小松で8月降水量203.5mm/24時間観測史上最大、長浜市など77戸床上浸水
31	企業連携：「琵琶湖博物館から移動博物館がやってきた」とワークショップ開催（三井アウトレットパーク竜王）	18	草津市でESDのためのKODOMOラムサール会議開催：ふなずしの試食や博物館の見学などを体験（～8/20）
6	はしかけオープンハウス開催	24	産廃処理業者ら「外来魚釣り」のイベント開催：琵琶湖の環境考えて、外来魚釣りに挑戦
		25	南湖の水草コカナダモ3年ぶり大量発生：大量漂着で悪臭、飲み水や漁業に影響
25	企業連携：移動博物館展示開催（東京・三菱ケミカルホールディングス）		
27	企画展示関連イベント・観察会・見学会「アジアの水辺の絶景を探検」		
30	トビック水族展示「絶滅危惧Ⅰ種 スイゲンゼニタナゴの未成魚」（～10/19）		
7	トビックB展示室展示「献上された奥嶋のムベ」（～11/16） トビック水族展示「黄色いワトコナマズ」（～11/9）	6	長浜市菅浦の湖岸集落景観を重要文化的景観に選定
31	第39回全国高等学校総合文化祭「2015びわ湖総文」ブレ大会：自然科学部門でブルーギルの解剖や化石の調査などの実習	7	琵琶湖の環境 映画で訴え 赤野井湾での撮影に漁師や博物館の学芸員らが全面協力
1	企画展示関連イベント「魚米之郷を楽しむ」：演奏会とディナー（11/1）	3	琵琶湖新たな外来魚脅威 アメリカナマズ急増 漁業・希少種に影響
7	わくわく探検隊「秋の色でビンゴ」	4	滋賀県環境学習等推進協議会開催：環境学習の方針 現状などを確認、琵琶湖博物館環境学習センターへの提言
18	トビック水族展示「アカヒレタビラの未成魚」（～12/14）	5	外来水草バスターズ 琵琶湖に異常繁殖 深刻化、「知って」除去作業、2・3日目は烏丸半島
22	観察会・見学会「からすま半島のどうぶつ探偵団」	9	近江八幡で床下から謎の骨：ひしゃげた頭、曲がった背、ナマズ？
26	米原市息長小学校でビワマスの生態学習（ビワマスう化実験事前学習）		
14	地域発見！参加型移動博物館「三方よしのエコフェア」ピアザ淡海 淡海こどもエコクラブ活動交流会：13クラブ161人		
20	トビック水族展示「旬のさかなたち：ヒウオ」（～2/15） ギャラリー展示：滋賀県試験研究機関発表会「淡海の未来を拓く」（～1/12）		
21	観察会・見学会「からすま半島の冬鳥を観察してみよう」：日本野鳥の会滋賀支部・はしかけびわたん	22	琵琶湖漁放流用アユに国内外来種混入
29	ディスカバリールームのイベント「はたきを作ろう！」：はたき作って大掃除 手作り教室開催	1	大雪：大津―京都間の国道1号線で車約50台が立ち往生、改正災害対策基本法の適用
2	トビック水族展示「鯉についての四方山話」：滋賀県ミュージアム活性化推進委員会（～3/18） 新空間「淡海こどもエコクラブ活動ポスター展」：淡海こどもエコクラブ事務局（～1/18）	7	琵琶湖守る技術中国に 県と湖南省（洞庭湖）水質改善に期待
16	琵琶湖の微生物アート：巨大彫刻製作と子ども向けワークショップ開催（成安造形大と協働）	12	滋賀県試験研究機関発表会「淡海の未来を拓く」とワークショップ開催
25	観察会・見学会「水族バックヤード探検」（2/22）	25	第10回外来種情報交換会開催：草津市市民交流プラザ
3	新空間「滋賀の石橋・日本の石橋」（～3/1）全国の石橋写真413点	6	滋賀県の新水質実験調査船「びわかぜ」竣工
22	企業連携：「移動博物館」開催（伊藤園・イズミヤ堅田店）	11	2015年度県当初予算案「うみのこ」の建設、琵琶湖博物館リニューアル工事
17	トビック展示（アトリウム）：よし Good プロジェクト、絵画・書初め応募作品展（～3/29）	1	特別講座「びわ湖に生息する魚と湖の環境について学ぼう」：日本自動車連盟（JAF）滋賀支社主催
22	地域発見！参加型移動博物館「三重県総合博物館に琵琶湖博物館がやってきた！オリジナル缶バッジを作ろう！」（～3/22）三重県総合博物館	2	台湾・台南市長ら滋賀の環境保全を視察
28	タンボゴ調査はしかけ「タンボゴ調査説明会」 ギャラリー展示「2015年度企画展示 琵琶湖誕生関連ミニ展示」開催（～4/19）	3	しが生物多様性大賞「イチモンジタナゴの保護繁殖活動」オムロン野洲事業所が受賞
		20	市民団体「伊吹山ネイチャーネットワーク」がハンドブックを作成：伊吹山の自然やさしく紹介
		28	大津市と京都市を結ぶ琵琶湖疏水で観光船の試験運行開始

2015年度(平成27)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：浅見孝円・高橋啓一
- ・主席参事1、上席総括学芸員2
- ・総務課6・企画調整6(内兼6)・創造準備室16(内兼15)・広報営業設置4(内兼3)
- ・研究部29・事業部21(内兼20)、嘱託18、計63
- ・中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」中長期計画第三段階(2011～2015年度):最終年度、新琵琶湖博物館創造実施設計第1期、サテライトミュージアム・地域発見参加型移動博物館7件(貸出25)、滋賀県ミュージアム活性化推進事業(『みんなで語る「ふなずし」の歴史』出版、公開講演会開催)、烏丸半島活性化連携事業(烏丸半島探検ツアー、烏丸半島で滋賀の日本一を探そう)
- ・入館者数341,599

研究・資料

- ・総合研究『琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明』2011～2015年度、『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』2014～2018年度
- ・共同研究5件、専門研究33件
- ・研究業績24論文、専門著者33件、一般向け20件
- ・年間資料登録数18,873(総数512,049)、収蔵数約911,600
- ・資料利用62件
- ・連載[地域発見 滋賀の博物館・美術館めぐり](36・43・54・56)(毎日新聞)(滋賀県博物館協議会会長篠原徹館長)

日	出来事
4月	4 烏丸半島活性化連携事業：烏丸半島3施設イベント開催や広報活動などで協力展示リニューアル：20周年向け大幅改装、展示を充実、バイカルアザラシ新加入
	9 成安造形大と連携協定の締結：展示リニューアルでオブジェ制作
	29 成安造形大学生が展示資料とするプランクトンをスケッチ
5月	3 烏丸半島活性化連携事業：3施設「県立琵琶湖博物館」と「市立水生植物公園みずの森」、「道の駅草津グリーンプラザからすま」で『からすま半島スタンブラリー』開催(～5)
6月	16 第1期リニューアル展示制作業務委託契約：株乃村工芸社
	29 新会員制度・倶楽部LBM：特典付き年間観覧券制度を始める
7月	1 「ReEDEN」シリーズ「滋賀のお魚ヨシノート」(琵琶湖博物館監修)を発売：コクヨ工業滋賀が環境に配慮したエコ文具
	4 烏丸半島魅力度アップ事業：烏丸半島探検ツアー実施(～8/31)
	4 滋賀県ミュージアム活性化事業：博物館の舞台裏(魚の飼育現場の見学)や遺跡を見学
	11 烏丸半島魅力度アップ事業：滋賀が誇る逸品展『宇宙からの贈り物—初里帰りの隕石展示—』国内最重量田上隕石・田根隕石100年ぶり里帰り 県内で初展示(～8/31)
	19 県立4文化施設夏休み無料開放：家庭の節電応援 博物館で省エネを学ぶ体験型イベント開催
	28 2015びわこ総文に参列のため、秋篠宮様来館
	29 第39回全国高等学校総合文化祭2015滋賀びわこ総文：産業・自然科学部門開催(～8/1)
8月	2 博物館実習：大学生18名(～8/7)
	8 烏丸半島魅力度アップ事業：講演会「宇宙からの贈り物」Jaxa 吉川真
	16 年間観覧券半額：好調1ヵ月で1,000人突破
	21 2015年度第1回アンケート調査実施(～23)

日	出来事
11	連載『湖岸より』234～260(全26回)(～3/27：中日新聞)
29	ウシモツゴ新種解明：博物館や近畿大の研究チームが突き止める
10	総合研究成果：琵琶湖起源は東海湖？新説浮上
15	全国ハッタミズ・ダービー(～11/30)：ハッタミズ大物探せ 国内種で最長情報募る
25	カイツブリ羽化



展 示 ・ 交 流

- ・第23回企画展示「琵琶湖誕生」、第28回水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」、ギャラリー展示4回、新空間12件、トピック展示7件
- ・観察・見学会15件、講座5件11回、体験研修件171件、視察20件、地域支援137件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント10件、自然調査ゼミナール、企業連携3件
- ・はしかけグループ16(321名)、フィールドレポーター204名
- ・はしかフェ12回
- ・ギャラリー展示「2015年度企画展示 琵琶湖誕生関連ミニ展示」開催(3/28～4/19)

琵琶湖・滋賀年表

- ・県立大学開校20周年
- ・琵琶湖保全再生法制定

日	出 来 事
1	新空間「みんなで調べよう！滋賀のタンポポ」：タンポポ調査・西日本実行委員会(～4/30)
21	水族トピック展示「守ろう アユモドキ！」：県内外11施設初連携展示、アユモドキ保全PR(守ろう アユモドキ！連携展示実行委員会)(～6/14)
28	ギャラリー展：琵琶湖フォトコンテスト作品展「～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく。～」フォトコン入賞50点 伊藤園共催(～5/31)・琵琶湖の環境保全活動資金の寄付贈呈
2	新空間「水辺の肖像展」：湖魚の顔って面白い 正面から見た点描画展(～5/30)
9	わくわく探検隊「タンポポ調査にチャレンジしよう」：タンポポ調査方法学ぶコンニャクの花開花：悪魔の舌開花、琵琶湖博物館で開花
21	はしかけ「タンポポ調査」：県内でも外来種増加傾向 初確認の雑種も
23	ミュージアムスクール：立命館守山中学校1年162名(6/27, 9/26, 2016/2/6, 20)
24	企画展示関連観察会：「360万年前の化石観察会」
13	わくわく探検隊「偏光 万華鏡をつくろう」：企画展示関連
14	魚ゆりかご水田学習会：水辺の生き物観察、東近江栗見出在家町
3	新空間「企業の環境保全CSR活動紹介」：6社ダイフク・コクヨ工業・パナソニック・伊藤園等(～7/5)
4	びわ博フェス2015(～7/5)
10	「琵琶湖博物館アトリウムコンサート」さかなクンもやって来る「漁師さんと行くエリ漁ツアー」
18	新空間「楽しい化石探集」：湖国もぐらの会・企画展示関連企画(～8/6)
25	第23回企画展示「琵琶湖誕生—地層にねむる7つの謎—」(～11/23) 2
29	第28回水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」：琵琶湖の魚類16固有種(～8/31)
25	企業連携「ニッセイ・森の探検隊」の開催：日本生命保険相互会社
29	2015滋賀びわこ総文産業部門開催：自作ジャムや人工イクラ作り、洋服展示、ストラップ作り(～7/31)
1	2015滋賀びわこ総文自然科学部門開催：外来魚解剖実習、プランクトン観察、展示解説
4	自然調査ゼミナール：中学生58、教員28(～5)
7	新空間「魼物の楽しみ方」：八日市趣味の会・企画展示関連企画(～8/31)
23	企画展示関連観察会：「230万年前の地層観察会」
29	企画展示関連イベント：「願いを込めたタヌキをつくろう」陶芸の森共催

日	出 来 事
9	守山市民による3年前池に放流しハリヨ育成500匹超
16	湖国トンボ分布調査：県レッドリスト絶滅危惧種2種絶滅 3年間調査「生息環境の悪化影響」
24	文化庁「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産」日本遺産に認定
19	JICA研修7カ国8人 琵琶湖漁業の現場体感、大津で定置網「エリ」見学 博物館や県水産試験場なども来訪
12	ふるさと納税(県の返礼品例：博物館など県施設のチケット)
13	琵琶湖の環境学習：県立大湖沼環境実験施設や琵琶湖博物館で学習
18	滋賀銀行「カーボンニュートラルローン未来よし」プロジェクト：琵琶湖の環境・生態系保全に貢献、博物館湖畔でニゴロブナ・ワタカの放流
20	スッポン甲羅35cm、河原で見つかる
26	草津のハス群生地烏丸半島は「草津市立水生植物公園みずの森」「滋賀県立琵琶湖博物館」「UNEP国際環境技術センター」があり、水環境保全の情報を世界に向けて発信する拠点
18	草津烏丸半島、ハスクルーミング(～8/16)
20	生態学琵琶湖賞授賞式：謝志豪教授(台湾)
24	びわ湖ヨシ松明(たいまつ)まつり2015 KUSATU フェスタ開催：烏丸半島特設会場
26	草津烏丸半島、博物館前広場で熱気球の搭乗体験(～8/10)
2	滋賀自然環境研究会40周年記念シンポジウム開催：高島の調査87種確認、琵琶湖岸で外来植物増加
2	カワウ減したが営巣多様化：行政駆除水辺で効果、県内住宅地ふん被害
22	関西アーバン銀行「夏休み！びわこ体感実習」：プランクトンの観察や水質調査、博物館見学
25	湖上交通を使いツアー：宿泊施設の多い大津市と、美術館や博物館など体験型施設の多い草津、守山と連携へ湖上ルートで結ぶ
27	滋賀舞台の映画「マザーレイク」県民参加の撮影、沖島や博物館など10カ所以上で撮影

9月	1	第1期リニューアル工事開始：水族展示室閉室 観覧料値下げ		
	20	展示リニューアル「おすすめの琵琶湖写真」募集：県民と一緒に作る展示、未発表の風景写真を紹介		
	28	滋賀県「ぶらっと美の間」事業：アール・ブリュット作品展示換え ユニバーサルデザイン評価会議：9委員参加(12/21)		
10月	2	JICA「博物館とコミュニティ開発コース」：ミュージアム・レポート10名		
	11	C展 クロージングイベント：嘉田由紀子(元知事・びわこ成蹊スポーツ大学長) が語るC展示室解説 ³ 来館者・県民による展示評価(動線・インタビュー調査)		
	13	JICA「博物館とコミュニティ開発コース」：技術研修(～18) 展示リニューアル有識者評価：染川・井島(10/26)		
	27	リニューアルに寄附：近江鍛工が県に1,000万円		
11月	7	「生物多様性自治体ネットワーク」のフォーラム全国会議開催：生物多様性、 守りたい「地域を心の古里に」	7	江戸の豪商宅初公開ヨシ問屋・西川家：文化的価値に注目、博物館 と県立大による調査
	10	琵琶湖博物館協議会第1回(第10期委員) 職場体験実習：草津新堂中学2年生3名(～13)		
	22	「ディー・デザイン・トラベル滋賀」出版記念イベント：「滋賀らしさ」観光ガ イド本	13	日本花粉学会から奨励賞受賞：林学芸員、100年間のスギ花粉調査
12月	4	レストラン「におのうみ」による「なまず天井」：湖国産ナマズ新名物に守山 の漁師販売用捕獲開始、ベトナム産のナマズの一種使用	8	「古代湖」バイカル湖の生物が到着：5種62匹、共通点多く、比べ て知って、来年7月公開
	8	リニューアル支援企業(11社)に感謝状贈呈		
	9	2014年県内観光客数2年連続増4,632万8,600人(県調査)、博物館は21位		
	15	展示リニューアル有識者評価：高田	12	湖国の漁労具「国文化財に」登録へ：資料整理と保管担う
	18	リニューアルに寄付：大津の和菓子メーカー「叶匠壽庵」が県に500万円	13	琵琶湖地域の水田生物研究会開催：水辺の生き物を守る米作り報告
	19	展示リニューアル有識者評価：堀越	20	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会編 報告書「みんなで語るふ なずしの歴史」発行：2014年11/8の「湖上フォーラム みんなで 語るふなずしの歴史」
1月	7	展示リニューアル有識者評価：藤井		
	14	展示リニューアル有識者評価：西野		
	19	展示リニューアル有識者評価：平山		
	28	展示リニューアル有識者評価：梟	23	新琵琶湖学セミナー「いざりリニューアルへ！」全3回6講座 第1回滋賀県の生物多様性を考える「滋賀の生き物コレクション」 八尋克郎・「滋賀県の両性・爬虫類の多様性」松井正文(京都大学)
	30	滋賀県ミュージアム活性化推進事業：公開座談会『ふなずし』の歴史が変わる」		
2月	9	滋賀県ミュージアム活性化推進事業：ふなずし品評会力作41点を知事・館長が 審査	1	2015全国ハックミズ・ダービー：滋賀“水口・松尾産”の85cm 個体がV
	11	博物館のリニューアル展示、交流空間の整備に7億8,400万円(2016年度県予 算案)		
			27	新琵琶湖学セミナー「いざりリニューアルへ！」第2回バイカル湖の 環境と生物多様性「バイカル湖の生き物たち」桑原雅之・「バイカ ルアザラシを追って」宮崎信之(東京大学)
3月	5	展示リニューアル有識者評価：山崎		
	7	展示リニューアル有識者評価：富川		
	10	琵琶湖博物館協議会第2回(第10期委員)		
	18	リニューアルに寄附：あいおいニッセイ同和損保 MS&AD ゆにぞんスマイルク ラブが200万円		
	19	2015年度第2回アンケート調査実施(～21)		
	23	展示リニューアル有識者評価：中島	26	新琵琶湖学セミナー「いざりリニューアルへ！」第3回水田生態系の 世界「湖辺の田んぼの変な生き物」大塚泰介・「田んぼは魚のゆり かご」前畑政善(神戸学院大学)
			31	研究調査報告第28号『東アジアの水環境』・第29号『日本の新生代 からの足印化石』岡村喜明(滋賀県足跡化石研究会)発行

		6	県立琵琶湖文化館(2008年に休館)の収蔵品:琵琶湖博物館や近代美術館に展示品や機能を徐々に移管
12	わくわく探検隊「化石のレプリカづくり」:企画展示関連	16	琵琶湖保全再生法制定
22	企画展示「琵琶湖誕生」入場5万人突破、最速59日目	27	「日本遺産フォーラム in 滋賀」開催(大津):篠原徹館長が湖国を愛した俳人の視点から琵琶湖の文化的景観を解説
1	新空間「はしかけグループ温故写真」10周年展(～10/30):湖国の風景写真 今と昔見比べて		
10	わくわく探検隊「植物化石を掘り出そう」:企画展示関連		
11	企画展示関連観察会:「260万年前の化石観察会」		
24	企画展示関連見学会:「琵琶湖の湖底を探検」	21	滋賀県試験研究機関研究報告会「淡海の環境」:長浜ドームびわ湖環境ビジネスメッセ会場
		6	UNDB-J 第5回生物多様性 全国ミーティング開催:国連生物多様性の10年日本委員会(ピアザ淡海)
9	新空間「15周年記念冬の使者・コハクチョウと仲間たち環境展」:草津湖畔コハクチョウを愛する会(～2016/1/31)	3	クマゼミ拡大:庭木移植
11	トピック展示「二十歳の琵琶湖博物館生まれ変わります」開催:C展示室「生き物コレクション」(～12/27)	11	国内最古の構造船(平安後期):塩津港遺跡で釘使用の板出土、琵琶湖水運担う証拠
20	「淡海こどもエコクラブ活動交流会」開催:生き物調査や環境活動発表		
27	ディスカバリールームのイベント「はたきを作ろう!」:できた!!私のはたき 大掃除を前に手作り体験		
2	ギャラリー展示「二十歳の琵琶湖博物館生まれ変わります」開催:水族展示室「古代湖の世界」(～2/28)		
3	正月遊び体験「たこ作り」		
23	トピック展示「滋賀県から発見されたニセクビボソムシの新種」:県内で甲虫の仲間2種、発見 日本甲虫学会誌に掲載(～4/10)		
9	トピック展示 B 展示室「修験の聖地となりわい」開催:(～3/13)	6	第11回外来魚情報交換会開催:草津市立まちづくりセンター(～2/7)
20	環境学習活動者交流会開催:「ふなずし学習」の事例発表、8小学校がふなずしで環境学習	11	立命大生びわこ・くさつキャンパスの新入生を対象に、学習船乗船や特産品の試食、博物館の見学など計画:琵琶湖、滋賀の豊かさを感じてもらうため 予算額200万円(県環境政策課)
		9	高浜原発3・4号機の運転さしどめ(大津地裁)
19	ギャラリー展示「魅せます!リニューアルの舞台裏」(～4/10)		
24	トピック展示「JA滋賀中央会第40回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール作品展」(～4/10)		

2016年度(平成28)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：津田清和・高橋啓一
- ・主席参事1、上席総括学芸員1
- ・総務課5・企画調整(兼6)・創造準備室18(内兼17)・広報営業5(内兼4)
- ・研究部30・事業部21(内兼20)、嘱託18、計62
- ・開館20周年、新琵琶湖博物館創造事業第1期リニューアルオープン、「新琵琶湖博物館創造基本計画(2013)」に研究活動編を追加、「新琵琶湖博物館行動基本計画・行動計画」策定、第2期リニューアル(交流空間)実施設計策定、MOU オフリド水生生物研究所、サテライトミュージアム・地域発見参加型移動博物館3件(貸出14)、滋賀県ミュージアム活性化推進事業(琵琶湖の文化を世界に発信する事業：国際古代湖プロジェクト、地域文化の価値発見発信・ヨシ問屋西川嘉右衛門家)、烏丸半島活性化連携事業(からすまいちばん事業)外部監査
- ・入館者数461,493

研究・資料

- ・『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』2014～2018年度
- ・共同研究5件、専門研究33件
- ・研究業績24論文、専門著者25件、一般向け49件
- ・年間資料登録数34,440(総数530949)、収蔵数約963,000
- ・資料利用68件
- ・開館20周年記念国際シンポジウム、韓国洛東江生物資源館合同セミナー、琵琶湖博物館ブックレット1～3号発行
- ・研究活動に係る行動規範・不正行為の防止等に係る規定の整備

日	出来事
4月	6 博物館内インターネット無料ワイファイ(Biwako-Free-wifi)提供
	14 リニューアル寄付に感謝状贈呈
5月	3 サテライトミュージアム・地域発見参加型移動博物館：kyoto station building kids day(～5/5)
6月	博物館はしかけ会員214人分アドレスを誤送信
7月	8 第2期交流空間リニューアル実施設計契約：乃村工芸社 12 第1期リニューアル内覧会：メディア向け学芸員による展示解説付きツアー 14 第1期リニューアルオープン・式典：開館20周年で改装、C展示室と水族展示室、琵琶湖の過去・現在・未来、古代湖琵琶湖の発信① 18 琵琶湖20周年リニューアルオープン記念「野帳1/6」：コクヨ工業滋賀販売、琵琶湖の豆知識掲載
8月	4 生物多様性フォーラム「びわっこ大使」体験発表会開催 
	19 リニューアル後好調スタート：13～15日で2万人、入館者数増
	21 県は環境学習推進の委員を公募：琵琶湖博物館環境学習センターの企画運営に提言
	25 博物館実習(～8/30)：9大学大学生15名
	26 来館者アンケート調査第1回(～28)
	31 琵琶湖博物館ブックレット刊行：開館20周年記念しブックレット創刊：琵琶湖の最新研究 絵や写真で親しみやすく②
9月	
	17 サテライトミュージアム・地域発見参加型移動博物館：イナズマロックフェス
	20 サイバー攻撃を受けて、博物館HP配信を停止
	28 琵琶湖博物館協議会第1回開催：第11期委員

日	出来事
9	連載『湖岸より』261～287(全27回)(～3/25：中日新聞)
25	連載【談】ハッタミミズを追って①～④(全4回)(～4/28：産経新聞夕刊)
10	「県の石」選定：湖東流紋岩／トパーズ／古琵琶湖層群の足跡化石：日本地質学会認定
16	連載【地域発見 滋賀の博物館・美術館めぐり】(59)(毎日新聞)(滋賀県博物館協議会会長篠原徹館長)
30	日本一長いハッタミミズ大物70cm 草津笠縫東小児童が発見
8	リニューアル展示資料、バイカルアザラシ2頭到着 バイカルとマリ
15	第1回研究部研修「著作権セミナー」開催：「博物館における諸活動と著作権法上の留意点について」樋口真也弁護士
14	共同研究調査：180万年前ワニの歯化石発見(県内9例目)多賀町立博物館古代ゾウ発掘現場、「ヨウスコウワニ」と類似
25	川瀬成吾特別研究員らの研究で新種であることが昨年認められた絶滅危惧種ウシモツゴ 東山動植物園で羽化
	
	
10	体長6～7cm日本最小のネズミ・カヤネズミの赤ちゃん3匹誕生：体長わずか3cm、すくすく成長

展 示 ・ 交 流

- ・ 第24回企画展示「開館20周年記念びわ博カルタ」、ギャラリー展示2回、新空間9件、トピック展示3件
- ・ 観察・見学会13件、講座2件6回、体験研修件170件、視察37件、地域支援89件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント3件13回、自然調査ゼミナール、企業連携3件
- ・ はしかけグループ22(329名)、フィールドレポーター222名、滋賀ネット受付開始
- ・ トピック展示「魅せます！リニューアルの舞台裏」(3/19～4/10)

琵琶湖・滋賀年表

- ・ 烏丸半島のハス消失
- ・ 琵琶湖のアオコ発生年間最多記録32日

日	出 来 事
8	新C展示室のヨシと人々のかかわりを紹介するコーナーに、「松明まつり」(近江八幡)など松明5基を展示する予定
12	ディスカバリールームイベント「みんなで『琵琶こいのぼり』を作ろう！」開催(～5/3)：来館者の塗り絵をうろこに10mの「びわこいのぼり」制作
18	伝統の漁法、湖魚料理 おいしく食べて学ぼう 琵琶湖博物館でイベント
27	ギャラリー展示「琵琶湖フォトコンテスト作品展・伊藤園お茶で琵琶湖を美しく」(～5/29)
10	トピック展示A展示室：「県の石」3種類『湖東流紋岩』『足跡化石』『トパーズ』を展示(～2017/3/31)：5/10地質の日・日本地質学会
13	フィールドレポーター調査「飛び出し坊やを調べよう」：東近江発祥「飛び出し坊や」をみんなで探せ県民調査(4～6月)
16	僕も琵琶湖の漁師さん 跳ねるコアユに歓声 守山中で親子エリ漁体験、博物館見学
28	ミュージアムスクール：「琵琶湖学習」立命館守山中学校1年生159名(6/18, 11/19, 2017/2/25)
7	トピック展示「ピワッシーができるまで」：映画「マザーレイク」の撮影で使用された模型・道具の展示(～6/19)
17	企業連携：セブンイレブン・ジャパンオーナー研修サポート
12	リニューアルオープン特別企画：「マヤマックスが見た淡水の生き物たち」子どもたちと一緒に描いた絵画展示
18	第10回博物館夏祭り：地域発見！参加型移動博物館が参加
24	生活実験工房イベント「昆虫採集」：児童ら60人昆虫採取楽しむ
1	新空間「多羅尾水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」：多羅尾大水害風化させない、パネル展示(～8/27)
2	自然調査ゼミナール：中学生64名、教員26名、昆虫・水草・哺乳類・プランクトン・魚類・貝類
6	観察会・見学会「生き物コレクション(昆虫類)」C展示室 リニューアル展示：微小生物新常設展示が人気
26	京都 de 夏の大学トーク「動物から現代社会を考える」：人と自然の距離問い直す・カワウは害鳥か益鳥か 亀田佳代子総括学芸員講演
11	ディスカバリールームイベント「マヤマックスさんと一緒に～みんなで描こう琵琶湖の生き物たち」
13	外来魚知り生態考える 解剖や観察を実施：彦根東高校新聞SSクラス
17	第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」開催：かるた形式で全学芸員と市民グループの活動表現52句(～2017/1/31) 3

日	出 来 事
5	県立施設の改修まとめて計画 県、財政や人口減見すえ方針示す
6	県は琵琶湖博物館など県立施設の5エリア 無料Wi-Fiで観光客おもてなし
26	絶滅危惧種の淡水魚ハリヨ保全取り組み：旭化成製造所(守山)敷地内の繁殖池に19匹放流
24	県レッドデータブック発行：ゲンゴロウが「絶滅」危機種に
4	琵琶湖舞台映画「Mother Lake」瀬木直貴監督、京滋で先行公開
20	長浜市高時川上流の丹生ダム建設の中止決定
30	ヒラズゲンセイ(ツチハンミョウ科)真っ赤な熱帯昆虫が天津で確認4例目
1	びわ湖の日PR・湖国産食材使い2新商品セブン-イレブン販売
2	草津・烏丸半島の国内最大級ハス群生地で異変、ハス消失、草津市が調査開始
23	びわ湖ヨシ松明まつり：烏丸半島内の特設会場
25	彦根市河原町芹町地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定
6	今夏の琵琶湖でのアオコ発生の日数が年間過去最多の32日
8	琵琶湖の水草適正30～60%：琵琶湖環境科学研究センター・琵琶湖博物館協働の研究成果

10月	5	博物館HP再開：サイト復旧「個人情報流出なし」 環境・農水常任委員会説明	5	昆虫標本3万7,000点寄贈：彦根出身の宮田彬さん、企画展示「びわ博かるた見る知る楽しむ新発見」のコーナーで展示
	8	山門水源の森シンボ開催：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会、シカ食害で土砂流出、大規模な防護柵検討	19	特別研究セミナーフィールドエクスカーション：フィアルコフ・バイカル博物館長、ボスコ・マラウイ大学准教授随伴（～10/20）
	19	交流空間リニューアル有識者評価：染川・井島	21	特別研究セミナー「古代湖研究最前線」：「バイカル湖における生物資源の保全と利用」フィアルコフ館長・「マラウイ湖のシクリッド魚類の進化、生態、重要性」ボスコ准教授・「琵琶湖の無脊椎動物の多様性の探究とその固有性」グライガー上席総括学芸員・「中国淡水魚の多様性の系統再構築」何舜平中国水生生物研究所
	22	開館20周年記念式典・演奏：記念式典あいさつ（篠原館長）・20年の歩みと今後（高橋副館長） 開館20周年国際シンポジウム「古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖」：多彩固有種琵琶湖の宝 ⁴		
11月	1	JICA 博物館とコミュニティ開発コース：9カ国12人参加（～11/6）	1	単細胞生物研究と教育普及活動に教育賞授与：楠岡泰特別研究員
	12	びわ博フェス2016「ありがとう交流会」（～12/13） 烏丸半島活性化連携事業：烏丸半島3施設スタンプラリー（琵琶湖博物館・道の駅グリーンプラザからすま・水生植物公園みずの森）（～2017年1/31） 交流空間リニューアル：展示制作に対しての来館者インタビュー調査	10	デジタル図鑑で不適切な引用：図鑑405カ所で不適切な引用が見つかる
	15	職場体験実習：草津市立新堂中学校2年生5名（～18）	16	韓国国立洛東江生物資源館との第1回合同セミナー：洛東江生物資源館、「琵琶湖博物館研究活動」亀田佳代子「琵琶湖博物館の展示と交流活動」松田征也「琵琶湖博物館の国際的協力協定」芳賀裕樹
	19	サテライトミュージアム・地域発見参加型移動博物館「琵琶湖博物館がやってくる」：イオン近江八幡店（～11/20）	23	8ミリに眠る滋賀再発掘 琵琶湖博物館でふなずしをテーマにした見聞会を開く
12月	27	「市民発!! 琵琶湖再生夢プロジェクト!! イチモンジタナゴの復元放流を考える」：ぼてじゃこトラスト20周年記念フォーラム第2弾		
	3	古橋のオオサンショウウオ生態系保全シンポジウム開催：NPO自然環境復元協会、長浜・大谷川のオオサンショウウオ調査報告	8	韓国国立洛東江生物資源館との第2回合同セミナー：「国立洛東江生物資源館・淡水生物資源研究室」ユ・ジョンナム、「淡水の微小生物」イ・ミファ、「展示教育部門」ナム・ヒョン・スー、「極東アジアにおける小型底生魚ゼラ属とコブクロカマツカ属の系統と進化」川瀬成吾、「地域と共にあゆむ研究や保全活動」金尾滋史
	4	第2回「全国カヤ・サミット」を開催：全国カヤネズミネットワーク	18	琵琶湖地域の水田生物研究会開催：近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会
	6	交流空間リニューアル：ユニバーサルデザイン評価会議開催	23	水槽清掃：サンタ姿のダイバー演出（～25）
1月	10	アトリウムコンサート 企画展示3万人入場突破		
	15	環境・農水常任委員会説明		
	16	第2期リニューアル素案「交流空間再構築」：空中遊歩道で森を観察「樹幹トレイル」、触れる標本など大人の知的好奇心も満たす体感型交流空間、18年度完成目指す	12	琵琶湖固有種カサネヒドラ飼育成功・展示
	25	「びわ博かるた」ミュージアムショップで販売：研究テーマや発見を五七五調「カルタ」	28	新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」全3回6講座：第1回琵琶湖の魚と魚をめぐる文化の多様性「水族展示で魚と人の関わりをどう伝えるか？」金尾滋史「琵琶湖の魚を食べる文化の多様性」堀越昌子
2月	29	滋賀2016年10大ニュース10位、琵琶湖博物館、新装オープン 湖国この1年、7月琵琶湖博物館がリニューアルオープン、バイカルアザラシの水槽などが人気	5	研究成果：青森陸奥湾で発見「ナウマンゾウ」化石はムカシマンモス、70万年前に姿消す CTで調べ判明、東北初出
	14	琵琶湖八珍・レシピ本出版：滋賀県ミュージアム活性化事業の成果		
	17	MOU 国際協定（マケドニア共和国オフリド水生生物研究所）：古代湖比較研究へ協定、エリザベータ・V・サラフィロスカ所長と篠原館長がオフリドで調印	21	研究倫理eラーニング受講（～3/16）
	19	交流空間リニューアル有識者評価：塩瀬隆之	25	新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」第2回森と生き物と人とのさまざまな関わりC展示室「カワウ」亀田佳代子「竹生島におけるカワウと人のかかわり」藤井弘章（近畿大学）
3月				
	8	デジタルサイネージの寄贈： 商工組合中央金庫大津支店		
	16	琵琶湖博物館協議会第2回開催：第11期委員		
3月	9	環境・農水常任委員会説明		
	20	絵本『たんぼレストラン』（はやしますみ作）出版：水田の生態系、命のつながりを描く、博物館で生物のスケッチ	25	新琵琶湖学セミナー「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」：第3回古代湖・琵琶湖の固有種と生物多様性「琵琶湖の無脊椎動物を探る」グライガー「琵琶湖固有種に固有の寄生虫はいるか」浦部美佐子（滋賀県立大学）
	24	2来館者アンケート調査第2回実施（～26）		

1	新空間「山門水門の森の自然と保全 氷河期からの森の危機」：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会（～10/30）	1	烏丸半島のハス消失の原因：枯葉などの堆積物で土壌の酸素が不足
4	滋賀県ミュージアム活性化水深事業で製作した湖国の生活文化を記録映像公開：「ふなずし」の作り方などをまとめた映像を上映	3	草津・烏丸半島からハス消失：琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森など烏丸半島の施設にとって20周年を迎える特別な節目の年、市の観光客減少
		4	南湖9割覆う琵琶湖の水草：漁業に打撃
31	県「ふらっと美の間事業」アール・ブリュット展終了	29	「地球をまもる」・「びわ湖をまもる」・「大津の未来をつくる」（CO ₂ 削減啓発市民向けシンポジウム）開催：大津市地球温暖化防止活動推進センター主催「コラボしが21」、温暖化琵琶湖にも影響
1	新空間「稲作と中国文明～食文化の過去と現代」：新学術領域研究「総合稲作文明学」研究グループ（～12/5）		
	企業連携「企業の環境保全・CSR活動パネル展示」（～12/10）	8	第16回世界湖沼会議開催（インドネシア11/7～11）：琵琶湖の難題・南湖の水草の適正管の研究成果発表（県琵琶湖環境科学センター研究員と琵琶湖博物館が共同）
5	観察会・見学会「朽木の森の観察会 ～新展示ジオラマの本物を見に行こう！～」（11/5）		
		20	琵琶湖の固有種ビワマスを使った丼が魚料理コンテストで1位獲得（東京）
12	ありがとう交流会「びわ博フェス2016」：第1期・第2期リニューアル紹介、企画展示関連イベント「企画展示ガイドツアー・びわ博かるた大会」、アトリウムコンサートなど（～13）		
18	リニューアル展示：産卵期のビワマス展示	29	ビワマス遊漁新ルール：生態系、漁業と調和課題
		1	ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に長浜曳山祭の曳山行事が登録
1	フィールドレポーター調査：「2016年度ミノムシ調査」（～2017/2）	2	水草を重機で駆除：県が米原で見学会開催
4	観察会・見学会「カヤネズミ観察会とカヤストラップ作り」		
	環境・ほっと・カフェ「びわ湖で森を感じよう」：滋賀大学環境学習支援士養成コースの実習	9	今年は多い？びわこ虫：70～90年代大発生ピーク
11	淡海こどもエコクラブ活動交流会：16クラブ		
2	企画展示関連イベント：びわ博カルタウィーク：お正月はびわ博へ！みんなで遊ぼう「びわ博カルタ大会」（～1/9）	1	琵琶湖文化館の再活用を提案：琵琶湖博物館の小型施設として（商工会議所会頭談）
9	企画展示関連イベント：びわ博カルタウィーク・貝合わせ	13	特定外来水生植物オオバナミズキンバイ 琵琶湖20万㎡繁茂
13	トピック展示「ごみ減量化と環境美化に関する標語・ポスター」入賞作品展：県環境部循環社会推進課（～1/20）		
15	企画展示関連イベント「百人一首ミニ講座＆競技かるた模擬試合：大津あきのた会	23	滋賀県北部を中心に大雪：交通混乱発生
2	環境学習活動者交流会開催：参加者25名	7	滋賀県の水質浄化技術学ぶ：ミャンマー・ヤンゴン市職員4人、草津市内で研修予定
7	新空間「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」：滋賀県ミュージアム活性化推進委員会（～2/26）		
	B展示室収蔵資料展示「琵琶湖地域のヨシ」：新空間「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」関連ミニ展示（～3/12）	19	琵琶湖と共生する農林水産業「世界農業遺産」を目指す
14	企業連携：叶匠寿庵研修サポート（2/24）		
18	多賀大社・多賀まつりの歴史を解説：多賀町教育委員会渡部圭一学芸技師が講師	26	琵琶湖固有種ホンモロコリの精子の元となる細胞から精子作製に成功：立命館大学の研究成果
19	滋賀県ミュージアム活性化推進事業「琵琶湖のヨシのお話」：「琵琶湖のヨシのお話～遺伝構造の解析から」金子有子		
	世界農業遺産を目指して第2回シンポジウムリレートーク「鮎寿し茶づけを味わう会」：ふなずしテーマに橋本学芸員講演、野洲川歴史公園田園空間センター		
25	フィールドレポーター「飛び出し坊や」調査結果：1位は「信号のない交差点」場所、「安全祈る気持ち表れる」こども守る地域の心		
27	多賀の化石にロマン「アケボノゾウ」中心に解説 講師に高橋啓一副館長（2/27；中日）		
4	ギャラリー展示・ILEC 設立30周年記念特別企画展示「湖と生きるー琵琶湖から世界へ 未来へ！ー」（～4/9）		
	新空間「写真展 石橋まんぼ」：日本の石橋展25周年記念、県内の古い方言で「隧道」、甲賀の森野さん（～3/26）	15	県包括外部監査：県試験研究機関連携機能改善・是正指摘33件
14	トピック展示「第41回ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール作品展：JA滋賀中央会（～4/9）	18	彦根市「国宝・彦根城築城410年祭」開幕（～12/10）
		31	ふなずし味比べ 守山・漁師や農家が5種類 地産地消へ「市民向けも」

2017年度(平成29)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：津田清和・高橋啓一
- ・主席参事 1
- ・総務課 5・企画調整(兼 5)・創造準備室14(内兼13)・広報営業 5(内兼 4)
- ・研究部31・事業部23(内兼22)、嘱託21、計65
- ・新琵琶湖博物館創造事業第2期(交流空間)リニューアル工事が着手、ミュージアムショップ・わくわく体験スペース(企画展示室)オープン、MOU韓国洛東江生物資源館締結、MOUオフレッド生物研究所来館、地域発見参加型移動博物館7件(貸出16)、烏丸半島活性化連携事業(からすまいちばん事業)
- ・入館者数415,897

日	
4月	
	
21	MOU 国際協定「韓国国立洛東江生物資源館」調印：アン・ヨンヒ資源館長と篠原館長が調印式に臨む(洛東江生物資源館) 1
5月	
7	湖岸を散策俳句楽しむ 草津景色や生き物、題材に 琵琶湖博物館や近くの湖岸沿いを散策(5/9; 京都)
6月	
3	名古屋の河村市長ら視察：ナゴヤダルマガエルなど高橋啓一副館長が展示品を紹介
7月	
1	全日本博物館学会大会開催(～7/2)
8月	
2	来館者1,000万人到達予想クイズ：開館21年、抽選で正解者50人に記念品贈呈
11	来館者アンケート調査第1回(～13)
17	入館者1,000万人達成：20年10ヵ月で達成 式典：津田清和副館長が式典であいさつ、認定書、記念品などを贈呈 3
23	博物館実習：大学生15名(～8/27)
9月	
27	2017年度琵琶湖博物館協議会第1回(第11期委員)
10月	
21	第二期交流空間リニューアル工事(屋外樹冠トレイル)開始：屋外展示一部閉鎖
26	第20回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)開催(～27)
29	「生きもの総合調査20周年記念フォーラム」開催：湖国の生物多様性守れ

研究・資料

- ・『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』2014～2018年度
- ・共同研究9件、専門研究31件
- ・研究業績18論文、専門著者43件、一般向け93件
- ・年間資料登録数42,755(総数554,559)、収蔵数約968,700、資料管理データベースの移行(図書資料：図書館汎用データベースを導入)
- ・資料利用57件、民俗収蔵庫カビ発生対応、データロガーによる温湿度管理
- ・韓国洛東江生物資源館合同セミナー、オフレッド生物研究所紹介セミナー 琵琶湖博物館ブックレット4～6号発行
- ・研究評価に関わる規定の整備改善、薬品類取り扱いに関する規定の整備改善、研究備品等物品管理に関する整備改善

日	出来事
1	連載『湖岸より』288～315(全28回)(～3/31：中日新聞)
11	連載「びわ博こだわり展示の裏話」1～20全20回(～3/27：毎日新聞)
19	研究紹介セミナー：MOU中国科学院水生生物研究所「中国における長江ナメリの研究と保全」張先鋒・「水生生物博物館の紹介」
21	MOU洛東江生物資源館：第3回合同セミナー「琵琶湖でのビワマスとサツキマスの交雑状態」桑原雅之「カワウの生態系機能と生態系サービス・ディサービス」亀田佳代子「淡水生物資源を活用した機能性素材と香粧品の開発」韓雄
19	準絶滅危惧種「水陸両用」コケ器官形成を論文報告：フィールドレポーター前田雅子
9	昆虫標本寄贈：彦根・布藤美之さん、70年収集昆虫2万6千点、絶滅危惧種ギフチョウなど
30	第1回研究部研修・研究倫理に関するセミナー「信頼される研究活動」中村征樹
21	 MOU 洛東江生物資源館：共同研究「韓日の淡水エビ類の分類系統と進化」・共同事業「2019年度企画展示ビワマス」
3	
12	MOU 洛東江生物資源館国際シンポジウム講演参加(～15)：田畑学芸員
16	薬品棚卸し作業(～9/30)
30	学芸員奨励賞に橋本道範専門学芸員受賞：ふなずし文化、世界に発信したことに地方出版文化功労賞

展 示 ・ 交 流

- ・第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、第29回水族展示「大ドジョウ展」、ギャラリー展示4回、新空間7件、トピック展示9件
- ・観察・見学会15件、講座2件6回、体験研修件176件、視察62件、地域支援89件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント2件3回、自然調査ゼミナール、企業連携4件
- ・はしかけグループ22(352名)、フィールドレポーター204名
- ・はしかフェ活動
- ・ILEC 設立30周年記念特別企画展示「湖と生きる―琵琶湖から世界へ未来へ―」(3/4～4/9)

琵琶湖・滋賀年表

- ・減少していたカワウ、9年ぶりに増加
- ・琵琶湖周航の歌誕生100年
- ・琵琶湖石けん運動40周年
- ・国立環境研究所琵琶湖分室
- ・アユの記録的不漁
- ・学習船「うみのこ」引退
- ・外来種オオバナミズキンバイ大規模駆除

日	出来事
1	A展示室地域の人々による展示コーナー「滋賀と京都にイルカがいた時代」(～9/30)
10	フィールドレポーター調査「カイツブリに会いに行こう」(4～8月)
10	水族展示室展示替え「下流域の魚たち水槽 ウグイヘ展示替え」：ウグイ40匹放し春のヤナ漁再現
15	ディスカバリールームイベント「みんなで『びわこいのぼり』を作ろう！」(～4/30・展示：5/2～5/31)
27	ギャラリー展示「琵琶湖フォトコンテスト作品展・～伊藤園お茶で琵琶湖を美しく」(～5/21)
5	ディスカバリールームイベント「かぶとをつくろう」：古新聞でかぶと作り
10	「学芸員の机」の展示紹介：地方創生大臣の発言で注目
14	体験教室「生活実験工房 田んぼ体験」田植え
20	フィールドレポーター調査の交流会(5/20)
20	「飛び出し坊や」を探せ！」県内436人参加調査の結果報告
27	ミュージアムスクール：立命館守山中学校1年159人(5/3, 11/4, 11/11, 2018/2/23)
28	ギャラリー展示「日本遺産滋賀・びわ湖」パネル展：(公財) 滋賀県ビジターズビューロー・(公財) 滋賀県文化財保護協会(～6/11)
10	わくわく探検隊「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」
11	観察会・見学会「みんなで湖魚料理をつくろう！(コアユ・シジミ編)」
24	地域発見参加型移動博物館：琵琶湖周航の歌誕生100年高島で記念式典に出展
4	新空間『懐かしの瀬田川写真展』：琵琶湖河川レンジャー60枚(～7/30)
8	ありがとう交流会「びわ博フェス2017」：はしかけグループ・フィールドレポーター交流(～7/9)
15	第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」(～11/19) 2
16	第29回水族展示「大ドジョウ展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ」(～9/3)
16	ディスカバリールームイベント「みんなで『かいこ絵日記』をつくろう！」(～8/31)
29	トピック展示「布藤美之氏寄贈コレクション」：県内絶滅チョウ標本、アトリウムで展示(～9/3)
30	企業連携「ピノキオコンサート」公益法人アルゲリッチ芸術振興財団
1	自然調査ゼミナール：昆虫、植物、哺乳類、プランクトン、魚類、貝類
2	新空間「写真を後世に遺す 村松勝：写真絵画展」(～8/30)
3	環境学習センター・環境・ほっと。カフェ：メダカについて考える会：野生種県内からも減少・川瀬成吾琵琶湖博物館特別研究員を講師に
13	企画展示関連観察会・見学会「マイナス80度から生還した微小生物」(8/19)
15	企画展示3万人達成式典
24	企画展示関連イベント観察会・見学会「顕微鏡で観察しようプランクトン」
7	アトリウムコンサート「～私たちが奏でる琵琶湖の響き～」(10/7・9・14・15・22, 11/3・5・19・23, 12/9)
9	企業連携「パネル展と研修」叶匠寿庵
21	リニューアル展示来館者・県民による展示評価実施：ディスカバリールーム(～10/29)
	企業連携「パネル展と研修」近江鍛工

日	出来事
1	県立近代美術館が休館
	草津川跡地公園オープン
3	国立環境研究所琵琶湖分室が県琵琶湖環境科学センター内に開所
	ビワコムシ大量発生
16	地方創生大臣発言「学芸員はガンだ」：大津で開催された地方創生セミナー
21	滋賀トヨペットスタンプラリー：観光名所で謎解き隠された宝探そうガイドブック無料配布
28	日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」「きっと恋する六古窯」認定
9	県埋蔵文化財センターから出火：木製文化財35点消失
	労使協定 限度超の残業、県が自主点検業務見直し
31	2016年夏の烏丸半島で消滅したハスに関する調査結果(草津市)：土質の変化で粘土層消失・メタンガス濃度上昇が原因
4	「SEE TO SUMMIT」開催：カヤック・自転車・登山の組み合わせスポーツ大会
18	名勝・野洲の兵主大社サギふん被害：庭園拝観中止 100カ所営業で樹木真っ白、悪臭も
24	琵琶湖周航の歌誕生100年高島で記念式典：周航の歌研究者・飯田忠義さん記念講演、篠原館長が琵琶湖を詠んだ歌や俳句から自然と文化を解説
1	路線バスでビワイチGO 2日間かけ3社20本乗り継ぎ
2	減少していたカワウ、9年ぶりに増加
19	国体や琵琶博のリニューアル、新生美術館の新設など大規模事業見直し三日月知事が示唆
29	琵琶湖石けん運動40周年記念集会(ピアザ淡海)
8	台風5号の大雨：長浜の姉川氾濫・住民避難
20	草津「下物ビオトープ」で生き物観察会
23	アユの記録的不漁：高島の安曇川で18t 親魚放流
25	メダカに似た特定外来種「カダヤシ」に注意：ビオトープ生息逃がさないで
28	県立新生美術館建設工事落札なし：2020年のオープン絶望
16	水上スポーツ「ウェイクボード世界大会」近江八幡の琵琶湖で開催(～9/18)
27	高浜原発に関する協定締結(高島市と関西電力)
22	台風21号で湖西線電線支柱9本倒れ、24日まで運休
24	アミンチュてれびBBCプロジェクト「海と日本プロジェクト in 滋賀県」：日本財団海と日本、水の「守り人」の活動探る・博物館訪問
29	東京日本橋に滋賀県のアンテナショップ「ここ滋賀」オープン
31	ユネスコ「世界の記憶」に雨森芳洲の「朝鮮通信使に関する記録」が登録

11月	8	2017年ものがたり観光行動学会第7回年次大会「水辺の観光」：ものがたり観光行動学会主催		
	14	JICA 博物館学コース「博物館とコミュニティ開発」：10名（～11/19）	13	地質時代「チバニアン」77万～12万6,000年前：国際審査唯一の候補に、里口保文総括学芸員の所属するチームが申請
12月	1	烏丸半島活性化事業：からすまいちばんスタンプラリー 2017（～2018/1/31） 第二期交流空間リニューアル工事開始：ディスカバリールーム・図書室・新空間	19	平成29年度滋賀県試験研究機関連絡会議発表会・ポスター発表開催（新空間）
	16	県内観光客初の5,000万人突破：琵琶湖博物館24位	15	第2回研究部研修「著作権セミナー」
	25	第二期交流空間リニューアル工事開始（わくわく体験スペース）：企画展示室	17	琵琶湖地域の水田生物研究会：近江地域学会生き物豊かな農村づくり研究会
	26	「湖国この一年2017」④ 8月17日琵琶湖博物館の来館者が1000万人を達成		
1月			19	国登録有形民俗文化財に指定：琵琶湖の漁労・船大工用具2,437点
	25	MOU オフリド水生生物研究所サラフィロスカ所長・レシヨスキー研究員来館・ILEC 科学委員会に出席（1/26）	22	県立近美の所蔵品を預かる
	27	ILEC30周年記念シンポジウム「湖沼・水辺の保全・活用に向けた世界の取り組み」	27	オフリド水生生物研究所の研究紹介セミナー「オフリド湖研究の成功と貢献の80年」サラフィロスカ所長「オフリド水生生物研究所：部門紹介」レシヨスキー研究員
	29	オフリド水生生物研究所との共同研究・事業推進検討会議	28	新琵琶湖学セミナー「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」全3回6講座：第1回太古の世界を探るさまざまな研究「ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori」高橋啓一「琵琶湖のほとりの太古の森を復元する」百原新
2月			29	オフリド水生生物研究所と研究に関するエクスカッション（～30）
	27	2017年度琵琶湖博物館協議会第2回（第11期委員）	6	琵琶湖博物館ブックレット5号「近江平成雲根誌」発行：美しく面白い近江の鉱石17カ所、歴史にも触れ
3月			25	新琵琶湖学セミナー「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」第2回知っているようで知らない琵琶湖や田んぼの生き物研究「イタチムシの世界をのぞいてみよう」鈴木隆仁「びわこ虫は琵琶湖を映す鏡」井上栄壮
			28	水中のDNAで魚の分布調査：手法開発 京大・中川特定助教きょう米科学誌に発表 琵琶湖博物館で魚を実際に観察して把握した44種のうち38種を確認
	24	第2期交流空間リニューアル：ミュージアムショップ新装オープン 2017年度第2回アンケート調査実施（～26）	16	バイカルアザラシ（トント35歳国内3番目）死亡
	25	平成29年度 野生動物研修会 一般市民講座「泳ぐイノシシ～拡がる農作物などへの被害～」(滋賀県獣医師会(3/25開催)) ミュージアムショップ新装オープン：学芸員監修グッズ「くるみボタン」などの新商品が注目	21	ロシアのバイカル湖固有種 ヨコエビ人工飼育成功
	27	第2期交流空間わくわく探検スペース（企画展示室）リニューアルオープン リニューアル工事費500万円寄付（大津の釣り具製造会社）	24	新琵琶湖学セミナー「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」第3回琵琶湖の魚と私たちの関わりを科学する「琵琶湖の魚と貝をめぐる現状」松田征也「琵琶湖の漁業」山根猛

1	環境活動ポスター展示(～11/8) 新空間「平成29年度 滋賀県試験研究機関連絡会議発表会」：県の8機関試験研究成果ポスター展示(～11/19) ディスカバリーリニューアル関連企画「ディスカバの思い出アルバムを作ろう」(～11/30) 4		
4	環境学習センター 環境学習活動者交流会「びわ博学生ミーティング」		
9	トピック展示「トンボ79大作戦」：生物多様性湖東地域ネットワーク・アトリウム展示(～11/30)		
11	トピック展示「滋賀県のトンボ写真展」：澤田弘行・アトリウム展示(～12)		
18	ディスカバリーリニューアル関連企画「お魚ペーパーウェイトをつくろう」近美とコラボ		
29	ビオトープを活用した環境学習プログラムに関する学習会：ヤンマーミュージアム	24	アミンチュてれび BBC 番組ガイド “水の道” 約150kmを巡る壁新聞も制作
1	ディスカバリールーム・図書閲覧室閉室 ギャラリー展示「ヨシ灯り展」(～12/24) フィールドレポーター調査「橋の名前を調べよう」(12～4月)	4	高島の琵琶湖岸で外来植物大量に駆除
5	企業連携「企業の環境保全・CSR活動紹介ポスター・パネル展示(2018/1/14) ヨシ紙通して琵琶湖知って 年賀状など作成		
6	淡海こどもエコクラブ活動交流会開催		
10	ディスカバリーリニューアル関連企画「人文字でディスカバを書こう」(12/16, 23, 24, 2018/1/4, 5, 8)	13	2015年度統計データ：男性平均寿命81と全国トップ、女性は4位
17	水槽清掃をサントに扮した水族飼育員	22	近江学10号「湖と生きる」発行：成安造形大付属研究所
		27	イチモンジタナゴ・琵琶湖の生態系再生に寄与：オムロン野洲事業所ビオトープ
2	新春イベント「新春！びわ博カルタ大会」		
13	フィールドレポーター調査「カイツブリに会いに行こう」調査結果まとめる：巧みに繁殖、ヨシ群落以外の池沼		
14	観察会・見学会「びわはくアルバムをつくろう」博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業：国立科学博物館	22	「下物ビオトープ」再整備：県2018年度本格整備へ
27	トピック展示「平成29年度滋賀県地球温暖化防止に関する啓発ポスターアイデア入賞作品展」27点・アトリウム展示(～2/14)		
		10	「うみのこ」解体へ・県議会では部品を琵琶湖博物館に展示するなどの意見
12	ディスカバリーリニューアル関連企画「森の宝物さがし」		
		28	温室ガス7.8%減少 削減目標達成までの取り組み例：夏休み中に博物館で温暖化に関する自由研究講座を開催
4	トピック展示「琵琶湖石けん運動40周年記念集会展」：ぐるぐる琵琶湖プロジェクト・アトリウム展示(～11/30)	3	平成29年度びわ湖セミナー「～魚介類のにぎわい復活に向けて～」：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
13	リニューアル交流空間・ユニバーサルデザイン評価実施	6	「弁天ナマズ」発見：全身金色、長浜沖
20	トピック展示B展示室「明治150年記念関連事業・『近江水産図譜』の世界(～5/27) トピック展示「第42回ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール作品展：JA滋賀中央・アトリウム(～4/8) トピック展示「水深をはかる」県立大デザイン科西林さん トピック展示水族「世界初バイカルヨコエビの赤ちゃん誕生」(～5/6)	11	学習船「うみのこ」引退
		16	琵琶湖の外来種オオバナミズキンバイ：重機で根ごと駆除
		23	外部監査指摘博物館の委託管理業務など23件 再委託など県に改善求める
		30	湖国を世界農業遺産に推進協議会を設立・総会



2018年度(平成30)

博物館全体

- ・館長：篠原 徹 副館長：高木浩文・高橋啓一
- ・主席参事 1
- ・総務課 5・企画調整(兼6)・創造準備室15(内兼14)・広報営業 5(内兼4)
- ・研究部31・事業部24(内兼23)、嘱託18、計62
- ・新琵琶湖博物館創造事業第2期(交流空間)リニューアルオープン：レストラン、別館、おとなのディスカバリー・ディスカバリー・ルーム・樹冠トレイル、地域発見参加型移動博物館3件(貸出7)、烏丸半島活性化連携事業(からすまいちばん事業)、デジタルサイネージ、エントランス券売方式変更
- ・入館者数473,014

研究・資料

- ・『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』2014～2018年度
- ・共同研究10件、専門研究29件
- ・研究業績27論文、専門著者27件、一般向け116件
- ・年間資料登録数37,097(総数611,450)、収蔵数約1,345,900
- ・資料利用55件、民俗収蔵庫カビ発生対応、韓国洛東江生物資源館合同セミナー、琵琶湖博物館ブックレット7～9号発行

日	出来事
4月	2 第2期交流リニューアル：ミュージアムレストラン、別館オープン レストラン新メニュー「びわ湖カレー」登場：湖南農業高生と開発
5月	5 「こどもの日」無料開放：博物館などの4県立施設無料開放
6月	1 ビオトープフォーラム滋賀2018開催：日本ビオトープ協会
7月	1 烏丸半島活性化連携事業：からすまいちばんカレンダー・夏のスタンプラリー実施(～9/30) 6 第2期交流空間リニューアルオープン：おとなのディスカバリー・ディスカバリー・ルーム1 悪天候でオープン式典を中止、アトリウム空間は有料化に、券売方式変更
8月	24 環境政務官が来館視察 26 第2期リニューアルでオストメイト対応トイレ新設 27 博物館実習(～8/31)大学生15名 30 滋賀県招聘海外技術研修員受け入れ(～12/22)

日	出来事
5	連載『びわ博コレクションおうち漁具図鑑』1～25〈全25回〉(～3/21：京都新聞)
10	連載『びわ博こだわり展示の裏話』21～39全19回(～3/12：毎日新聞)
14	連載『湖岸より』316～340〈全25回〉(～3/30：中日新聞)
12	古代ゾウ化石発掘プロジェクト：研究者と「夢」掘ろう、学芸員などの専門家も参加
16	博物館展示に市民の視点：第1期～第2期の常設展リニューアルに関し、2014年から毎年アンケート調査を行う
1	
13	雌雄の特徴持つカブトムシ発見：京都在住の親子、博物館で展示へ
-	韓国洛東江生物資源館と共同研究打ち合わせ・サンプリング
26	ツチガエルの幼生展示：黄色いオタマジャクシ、小学生が発見
17	研究成果：新種のナマズ発見57年ぶり4種類目、東海の谷川に生息 田畑一学芸技師研究チーム

展 示 ・ 交 流

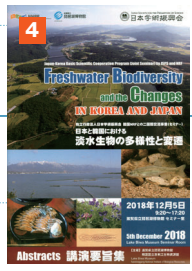
- ・ 第26回企画展示「化石林—ねむる太古の森」、第30回水族展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」、ギャラリー展示4回、トピック展示5件
- ・ 観察・見学会10件、講座2件6回、体験研修150件、視察86件、地域支援115件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント2件3回、自然調査ゼミナール、企業連携4件
- ・ はしかけグループ25(387名)、フィールドレポーター218名
- ・ ギャラリー展示「伊藤園 俳句フォトコンテスト作品展」(3/27～4/22)
- ・ 明治150年記念関連事業トピック展示B展示室『『近江水産図譜』の世界』(3/20～5/27)
- ・ トピック展示水族「世界初バイカルヨコエビの赤ちゃん誕生」(～5/6)

琵琶湖・滋賀年表

- ・ 三日月大造知事再選
- ・ 竜巻・台風被害、猛暑

日	出来事
28	ギャラリー展近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」：近美コラボレーション企画(～6/3)
20	ギャラリー展示関連講演会：生きる、描く、湖国の風景：近美コラボ
	
6	新開設「おとなのディスカバリー」：知の交流所・標本観察もできるリニューアル「ディスカバリールーム」：親子で楽しむ展示
15	「びわ湖まると親子セミナー」国際湖沼環境委員会 ILEC
17	ミュージアムスクール：立命館山守中学校1年150人(10/13, 11/24)
20	企業連携：滋賀銀行関西エコファースト企業研修
21	第26回企画展示「化石林—ねむる太古の森」(～11/25) 2
	第30回水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」(～9/2)
31	自然調査ゼミナール：昆虫・植物・哺乳類・プランクトン・魚類・貝類
4	地域発見・参加型移動博物館：BIWAKO 湖フェス2018(大津～8/5)
25	企画展示関連イベント：紙芝居・はしかけ湖をつなぐ会(11/17)
26	企画展示関連イベント「植物化石を調べてみよう」

日	出来事
14	「琵琶湖ハンドブック」改訂
23	旭化成住工東近江のピオトーブ整備1年：トンボ種類6倍、希少種も飛来、豊かな自然維持に一役 表彰式は琵琶湖博物館で行われる
24	日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」に守山のホタルと湧水など7件追加
14	新「うみのこ」就航：ウェブ会議システムや、湖底を観察できる水中カメラなどが新設
15	東近江「伊庭内湖の農村景観」重要文化的景観に選定
29	米原で風速65kmの竜巻発生：被害140棟に及ぶ
5	西日本豪雨：県内大雨で土砂崩れで道路寸断、交通機関に乱れ(～7/7)
16	外来魚再放流依然多く 琵琶湖条例施工15年 県、掲示で地道なPR「特効薬ない」
25	新生美術館計画は凍結
31	烏丸半島9ha売却：30年末利用年度内入札目指す
3	旭化成守山製造所：伏流水でハリヨ繁殖、種を後世に希少な動植物を守る活動
6	草津と福島の児童ら交流 環境問題など議論 琵琶湖博物館などを見学(8/6：中日新聞)
13	大津市で史上最高38℃観測
24	琵琶湖の研究関連施設(琵琶湖博物館・県琵琶湖環境研究センター・国立環境研究所琵琶湖分室)を環境政務官が視察
27	活アユ出荷量88t、過去5年平均の8割

9月			■ 韓国洛東江生物資源館国際シンポジウム： 8 「蟻たちの隠された生活」エリカ・マカリスト著の監修に携わる： 榎永一宏専門学芸員 10 薬品棚卸し作業（～9/30）
	13	第3期リニューアルユニバーサルデザイン評価（A・B展示室）	13 連載「琵琶湖の魚たち」1～8全8回（～3/24：産経新聞）
	18	琵琶湖博物館協議会第1回第12期委員	20 第1回研究部研修「研究倫理に関するセミナー」「研究不正を作り出す日本の土壌を考える」小波秀雄
10月			
	5	第3期リニューアル有識者評価：布谷知夫・塩瀬隆之	
			15 「急拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイなどへの対策」世界湖沼会議で報告：中井専門学芸員 19 県内試験研究機関研究発表会：琵琶湖環境ビジネスメッセ共催セミナー・長浜ドーム 20 第2回研究部研修「著作権に関するセミナー」
11月	3	第2期交流空間リニューアルオープン：空中遊歩道樹冠トレイル完成・オープン	10 公開シンポジウム「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」：日本植生史学会共催
	17	関西文化の日：常設展示無料	
	18	第3期リニューアル来館者による展示評価：A・B展示室	
	20	第3期リニューアル有識者評価：布谷知夫・塩瀬隆之	
	27	ミュージアムレストラン新メニュー：湖南農高生×カゴメ新メニュー 煮込みハンバーグに県産食材	25 カメの体重公開測定の実施
12月	29	第3期リニューアル有識者評価：高尾戸美	
	1	烏丸半島活性化連携事業：からすまいちばんスタンプラリー 2018実施（～2019/1/14）	4 韓国洛東江生物資源館と合同セミナー・エクスカーション（～12/7）
	2	地球研地域連携セミナー「地域のにぎわいと湖国の未来 魚のゆりかご水田～5つの恵み～」開催：総合地球環境学研究所	8 水槽清掃にサンタクロース姿の飼育員登場 日本水産学会近畿支部大会：テナガエビ繁殖研究、府立海洋高生ボスター発表
	15	第3期リニューアル概要発表：A・B展示室、地層標本・ジオラマを目玉に20年7月完成目指す	
1月	18	第3期リニューアルユニバーサルデザイン評価（A・B展示室）	16 琵琶湖地域の水田生物研究会：近江地域学会
			
	12	リニューアル寄付：大津の会社「バンテック」、県に500万円寄付	
2月	26	第3期リニューアル来館者による展示評価：A・B展示室（～2/28）	26 2018年度新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語—新しい歴史展示をつくる」全3回6講座：第1回自然と自然観「地域環境史でみた琵琶湖地域」橋本道範「繰り返された平安時代の近江地震」保立道久
	9	2019年度当初予算案博物館第2期改装2億2,500万円	
	19	参議院環境委員会が博物館視察	
	24	天皇陛下即位30年式典合わせ記帳所：無料開放	23 2018年度新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語—新しい歴史展示をつくる」第2回遠い昔の森と人「花粉の化石からみる琵琶湖の森の一万年」林竜馬「出土遺跡からみた木材利用の変化」村上由美子
3月	28	琵琶湖博物館協議会第2回第12期委員	25 マミズクラゲ飼育新記録：山梨県立富士湧水の里水族館534日、博物館は533日
			2 琵琶湖サイエンスセミナー第1回「琵琶湖はいつできた」里口保文 総括学芸員、ここ滋賀
	23	2018年度第2回アンケート調査実施（～25）	20 57年ぶり新種「タニガワナマズ」が北九州市立いのちのたび博物館で20日から常設展示：琵琶湖博物館から生体資料寄贈
	30	リニューアル寄付：2社が50万円寄付 滋賀トヨタなど感謝状	23 2018年度新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語—新しい歴史展示をつくる」第3回教科書に出てくるムラ「惣村の環境デザイン」春田直紀「ムラの祭りの現在」渡部圭一

8	水族トピック展示「57年ぶりの新種発見！～タニガワナマズ Silurus tomodai～」(～11/25)	4	台風21号強風で海津の料亭全壊・県内死者2名、負傷者60名超え
19	博物館夏祭り(彦根ビバシティ)参加型移動博物館参加	7	滋賀県と米シシガン州姉妹提携50周年記念式典：デトロイト
		8	南湖2時間で水位1m低下 台風21号強風や低気圧の影響
2	A展示室地域の人々による展示コーナー「2億5千万年前の近江・美濃の化石」(～2019/9/8)	18	「びわ湖大津草津景観推進協議会」の主催：貼り絵やベンガラ塗り体験・博物館見学
16	環境学習活動者交流会：企業ビオトープを活用した環境学習プログラム、ダイフク滋賀営業所	22	イナズマロックフェス10周年(～24)
		30	台風24号死者1・重傷者1
		1	ご当地ナンバープレート交付開始
		6	日本オオサンショウウオの会 長浜市大会(～7日)：記念講演「湖国・滋賀の生きものたちのいま」中井専門学芸員
		15	第17回世界湖沼会議 in 茨城
		20	インドネシア視察団訪問 琵琶湖の水質保全策学ぶ 博物館を見学
		31	外来魚4～7月駆除量昨年の半分以上 県は原因緊急調査を行う
17	びわ博フェス2018(～11/18)		
9	環境学習センター こどもエコクラブ事業：淡海こどもエコクラブ活動交流会：大津の市民団体に奨励賞、ぼてじゃこ繁殖 成果を発表	6	烏丸半島のハス群落早期再生は困難(草津市)
11	淡海こどもエコクラブ活動成果ポスター展示(～2019/1/3)	7	県、借金抑制へ収入源探る 国体負担控え39億円増目標 命名権売却拡大・自販機の使用料・県の公用封筒や博物館の観覧券へも企業広告の掲載を呼びかける
2	B展示室収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！『描かれた湖魚』」(～2/24) 環境CSR活動パネル展示：企業連携 ローム株式会社(～1/31)	10	国天然記念物ウツクシマツ自生地で枯死被害
12	わくわく探検隊「お魚モビールを作ろう！」		
16	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」：トンボの保全活動紹介、標本や写真、観察記録など展示(～2/17)	17	琵琶湖の外来魚推定生息量722t：過去10年で最小
21	はしかけうおの会：博物館を拠点とする市民グループとして琵琶湖で分布調査	4	草津市「健幸都市」へ施設整備進む、永島さん(元「乃木坂46」)観光PR動画を市HPで配信
		12	マザーレイク応援寄付制度 使い道拡大県提案へ
10	体験教室 生活実験工房 田んぼ体験「わら細工」：稲・ヨシわら細工挑戦、昔の農家生活触れる	17	外来植物駆除の水陸両用船 県が初投入
		29	県気候変動適応センターが開設
		6	琵琶湖保全に取り組む「琵琶湖サポーターズ・ネットワーク」発足：企業・NPO・大学
		8	大津市の「田上の衣生活資料」が国登録有形民俗文化財に答申される
		10	草津外来植物作業船の見学会：泥深い浅瀬の駆除対応
		19	琵琶湖の漁獲減実情調査 参議院環境委員会6名と三日月知事と意見交換
4	環境学習センター：環境省 淀川水系アユモドキ生息域外保全事業への協力、アユモドキを取り巻く環境や生態について説明(3/12) 滋賀大付属小・米原市立双葉中学	21	外来魚駆除方法：熱帯魚すむ「湯の滝」沢水と雪投入、ダム段階放水し卵を日干しに、フェロモン仕掛け一網打尽
15	フィールドレポーター活動：身近な環境に関心をタンボボ調査、「タンボボ調査はしかけ」事務局	6	県など45施設が電気や水道など期限切れメーター
17	第2回びわく学生ミーティング・研究発表ポスター展示(3/19～3/24)	18	長浜の富田酒造とダイコウ醤油が国の登録有形文化財に登録
23	ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑―魚つかみの道具のヒミツ」：国登録記念漁具展示(～5/6)	27	烏丸半島リゾート構想頓挫の未利用地9ha草津市公社が5億1,400万円で取得
26	トピック展示：JA滋賀中央第43回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール作品展(～4/7)		琵琶湖水質測定器「南湖湖心局」撤去作業開始

2019年度(令和元年)

博物館全体

- ・館長：高橋啓一 副館長：馬淵兼一
- ・上席総括学芸員 2 参事 1
- ・総務課 5・企画調整(兼7)・創造準備室11(内兼10)・広報営業 4(内兼3)
- ・研究部31・事業部21(内兼20)、嘱託19、計61
- ・新琵琶湖博物館創造事業第3期展示リニューアル工事着手：A展示室・B展示室、地域発見参加型移動博物館8件(貸出6)、烏丸半島活性化連携事業(からすまいちばん事業：イベントカレンダー・ウォーキングマップ作成&スタンプラリー)、コンテンツWeb発信『うちミュージアム』『ディスカバリールーム観察シート』Webアミンチュ『びわ博の中の人』
- ・入館者数462,162
- ・第2期交流空間リニューアル「日本空間デザイン賞2019」入選

研究・資料

- ・『過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明』2019～2023年度
- ・共同研究11件、専門研究31件
- ・研究業績15論文、専門著者52件、一般向け127件
- ・年間資料登録数32,318(総数)、収蔵数約1,377,000
- ・資料利用56件、温湿度管理：データロガーによるクラウドサーバーの監視システム、韓国洛東江生物資源館合同セミナー、琵琶湖博物館ブックレット10～11号発行、歴史資料(古文書)データベース公開

日	出来事
4月	1 新館長高橋啓一就任(3代目)、「湖と人間」理念に楽しめる場目指す、2代目篠原館長は名誉館長に
	12 第3期リニューアル案：触れられる展示やAR活用
	20 サイエンスセミナー第2回「ゾウがいた、ワニがいた琵琶湖のほとり」高橋啓一：ここ滋賀
	24 博物館の観覧料見直し：リニューアル中据置き
5月	4 新天皇即位記帳所設置：329人が記帳、両日とも博物館を無料開放(～5)
	15 リニューアル寄付：伊藤忠商事500万円を県に寄付
6月	1 全面禁煙始まる
	28 第3期リニューアル環境・農水常任委員会説明
7月	1 烏丸半島活性化連携事業：イベントカレンダー2019(7/1～9/30)
	2 第3期展示制作・設置業務委託契約：乃村工芸社
	15 「ミシガンびわ湖ミュージアム」：ミシガン船内で展示・ビワコオオナマズ2.7mの実物大模型
	27 「ナイトミュージアム」開館時間延長
	28 サイエンスセミナー第3回「海を忘れたサケ」桑原雅之：ここ滋賀
8月	9 第1回アンケート調査実施(～11)
	26 博物館実習(～8/30)大学生14名
9月	28 来館者累計1,100万人達成：高橋啓一館長より認定書贈呈

日	出来事
2月4日	連載「びわ博こだわり展示の裏話」40～58(全19回)(～3/31：毎日新聞) 連載『びわ博コレクション おうみ漁具図鑑』26～51(全25回)(～3/19：京都新聞)
13	連載『湖岸より』341～367(全27回)(～3/25：中日新聞)
21	連載「琵琶湖の魚たち」1～12(～3/15：産経新聞)水族担当学芸員
21	韓国洛東江生物資源館合同セミナー開催・エクスカーション：洛東江生物資源館(～24) 1
29	市民大学講座：「わかって来たフナズシの歴史」橋本道範「琵琶湖のおいたち」里口保文ほか
	
14	企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」6講演
23	薬品棚卸し作業(～10/20)
29	ロシアバイカル博物館との協力協定に関する協議(桑原・田畑)

展 示 ・ 交 流

- ・ 第27回企画展示「海を忘れたサケ」、第31回水族展示「ビワマスとその仲間たち」、ギャラリー展示4回、トピック展示5件
- ・ 観察・見学会18件、講座2件6回、体験研修件123件、視察43件、地域支援132件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント2件、自然調査ゼミナール、企業連携17件
- ・ はしかけグループ26(403名)、フィールドレポーター195名
- ・ A展示室地域の人々による展示コーナー「2億5千万年前の近江・美濃の化石」(2018/10/2～9/8)
- ・ ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑 魚つかみの道具のヒミツ」：国登録記念漁具展示(3/23～5/6)
- ・ トピック展示：JA滋賀中央第43回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール作品展(3/26～4/7)

琵琶湖・滋賀年表

- ・ 台風19号被害
- ・ 新型コロナウイルス感染症
- ・ 湖岸公園封鎖

日	出来事
5	ディスカバリールームのイベント「カブトを作ろう!」：新聞紙でかぶと作り
14	水族トピック展示「滋賀県からも新種!ナガレカマツカ」(～6/23)
18	「海野和男の生きものの写真のスメ」：いきもの写真のお話と撮影会、生きものの写真リトルリーグ2019
25	ギャラリー展示「企業CSRパネル展」(～6/9)
26	大学生の環境学習リーダー養成講習会：立命館大学 hakoniwa
	
15	地域発見参加型移動博物館：博物館夏祭り、彦根ビバシティ
16	ミュージアム・スクール：立命館守山中学校：1年163名(10/31, 11/16)
20	第27回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」(～11/24)  第31回水族企画展示「ビワマスと仲間たち」：クニマスの標本展示(～11/24)
27	びわ博ナイトミュージアム：野洲のおっさんトークショー、夜の昆虫観察やジャズ演奏
30	自然調査ゼミナール：中学生35、教員20、昆虫・植物・哺乳類・プランクトン・魚類・貝類
10	環境・ほっと・カフェ「びわ湖の魚と漁法」

日	出来事
12	琵琶湖保全のピオトープ 寄付贈呈式：ヨシ原保全へ伊藤園寄付 県に620万円
18	教員らの団体学習冊子「砂防探訪～琵琶湖・淀川水系砂防の歩み」発行：砂防の歴史や意義紹介
24	県施設使用料10月見直し
21	瑞宝中綬章の元県副知事田口宇一郎さん：琵琶湖博物館設立、新駅中止後県政に尽力
11	台風で琵琶湖水草大流失 昨年21号南部の7割：国立環境研究所と琵琶湖博物館の調査・分析結果
13	県119部署で法令順守せず：継続勤務アルバイトへの年次有給休暇の付与が不足
19	絶滅危惧種守る“企業ピオトープ”オムロン野洲事業所
24	琵琶湖ブルーギル激減と水草減少の因果関係を示す：琵琶湖環境科学研究センター
27	駆除活動成果や課題探る 琵琶湖博物館で研究成果を発表するワークショップ開催

10月		4 世界最古コイ養殖 琵琶湖博物館中島経夫名誉学芸員らの研究グループ中国で確認 第1回研究部研究倫理研修：「研究倫理の3つの公理」池田光穂
	11 琵琶湖博物館協議会第1回(第12期) 12 台風19号で臨時休館	5 野洲市歴史民俗博物館「人と魚の歴史学」記念講演会(10/5, 10/19, 10/26, 11/23) 全4回：篠原徹名誉館長、橋本道範専門学芸員、金尾滋史主任学芸員、田畑諒一学芸技師
	22 天皇即位記帳所：無料開放	18 試験研究機関研究発表会：琵琶湖環境ビジネスメッセ共催セミナー、長浜ドーム
11月	1 烏丸半島活性化連携事業：健康ウォーキング&スタンプラリー(11/1～2020/1/31) 5 A展示室・B展示室クロージングイベント「学芸員と行く 展示室見納めツアー」 8 企業・団体交流会40社57人	3 ナウマンゾウ化石忠類発掘：忠類博物館、50年伝え続けた意義強調、高橋館長講演
	25 第3期リニューアル工事でA・B展示室閉室	
12月	2 第3期リニューアルユニバーサルデザイン評価 10 県友好都市・湖南省関係者来館 12 インドネシアの議員来館 19 「おおさか環境賞協働賞」受賞 23 地方創生相が視察	5 バイカルアザラシメス1頭死亡：妊娠中の腎不全 15 琵琶湖地域の水田生物研究会実施
		18 地質年代に「チバニアン」認定：日本初、77万～12万年前の千葉の地層から名前を正式発表、申請研究者の一人里口保文総括学芸員
1月		
2月		
	25 観覧券発券新システム導入 27 新型コロナウイルス感染症対策、緊急危機対応会議開催 28 臨時休館(新型コロナウイルス感染拡大防止策)：イベントも中止(～3/16)	27 「丸子舟」原寸大断面模型 北淡海・丸子船の館(長浜)へ移管
3月	1 マスク300枚受贈：共同研究者朱偉教授(中国河海大学)から 4 琵琶湖博物館協議会第2回(第12期)：コロナのため書面開催 11 第3期リニューアル環境・農水常任委員会説明 12 臨時休館延長 3/24日まで休館継続 19 臨時休館延長 3/31日まで休館継続 20 博物館ネットワーク「おうちミュージアム」に参加 ³	
	30 臨時休館を4月以降も当面延長継続：消毒薬確保できず	3 

4	企画展示入場3万人達成：解説書・グッズを贈呈		
19	びわ博フェス2019：「はしかけ」「フィールドレポーター」交流会、ポスター展示27件ワークショップ開催（～20）	12	台風19号大雨暴風被害：高島地域停電
		22	県内施設キャッシュレス決済は未対応
		16	琵琶湖保全＋民間誘致でにぎわい創出 南湖周辺（矢橋帰帆島、琵琶湖博物館周辺）活用エリアに 県、湖岸に3区分設定へ
8	淡海こどもエコクラブ活動交流会 壁新聞・絵日記展示（～2020/1/5）	10	県友好都市・湖南省関係者「魚のゆりかご」視察
		12	琵琶湖の保全対策視察インドネシアの議員ら来県
		19	「おおさか環境賞大賞」受賞：(株)ダイフク
22	トンネル水槽清掃：サンタ姿の水族飼育員の仕事	29	湖国一年のニュース：琵琶湖博物館でバイカルアザラシ「マリ」が死亡
2	トピック展示「2020干支展 ねずみ！子！ネズミ！」（～1/19） ギャラリー展示：第69回滋賀県統計グラフコンクール優秀作品展（～1/13）		
19	ギャラリー展示「トンボ100大作戦—滋賀のトンボを救え—」：生物多様性 びわ湖ネットワーク主催、75種の写真 生態紹介	17	タガメ売買禁止に 趣味の採集規制外
		29	滋賀県新型コロナウイルス感染症対策本部設置
		8	西川貴教さん、人生50年節目のイナズマロック、草津市に寄付
22	トピック展示リニューアル展示評価：A 展示室コウガゾウの骨格模型、B 展示室「貫頭衣」体験（～2/27） 園路橋修復工事		
27	環境学習活動者交流会：企業の敷地内を利用した環境学習プログラム（コロナにより延期）		
12	自宅待機の子に学習応援番組：びわ湖放送第1回「日本最大の淡水湖・びわ湖の歴史と生き物たち」琵琶湖博物館	19	増えた水草ガラス作品に なぜ大量繁殖するのか調査継続
		20	県、動画で学びを応援プログラムを開始
		22	ヌートリア作物被害深刻 高い繁殖力目撃情報急増
		24	新型コロナ禍支援：企業支援など7億7,000万円 県立施設の休館やイベントの中止対応費用に、約1億円
		26	琵琶湖を守ろう外来魚駆除大会 中止

2020年度(令和2年)

博物館全体

- ・館長：高橋啓一 副館長：馬淵兼一
- ・上席総括学芸員 2 参事 1
- ・総務課 5 ・企画調整(兼 5) ・創造準備室11(内兼10) 12月まで ・広報営業 4(内兼 3)
- ・研究部31 ・事業部24(内兼23)、会計任用26、計68
- ・新琵琶湖博物館創造事業グランドオープン：A 展示室・B 展示室、広報戦略「びわこのちからの博物館」、新琵琶湖博物館創造基本計画最終年度、第三次中長期基本計画、地域発見参加型移動博物館 1 件：福井県年縞博物館と連携事業、烏丸半島活性化連携事業(ウォーキングマップ配布)、
- ・入館者数253,750
- ・第2期交流空間リニューアル「日本空間デザイン賞2019」入選

研究・資料

- ・『過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明』2019～2023年度
- ・共同研究12件、専門研究30件
- ・研究業績14論文、専門著者89件、一般向け125件
- ・年間資料登録数55,889（総数675,189）、収蔵数約1,434,700
- ・資料利用98件、琵琶湖博物館ブックレット12～13号発行

出 来 事	
4月	1 臨時休館を継続（～6/1）
5月	26 消毒用アルコールを寄贈：大阪のニイタカ
6月	2 リニューアル工事遅れ、7月オープンを延期
7月	2 感染防止対策施し再開：3カ月ぶり、時短営業、整理券配布方式開始（～10/6）
	10 博物館で県「もしサガ滋賀」運用開始：QRコード登録者の呼びかけ
8月	10 環境・農水常任委員会説明：第3期リニューアル展示
9月	24 入館制限1日あたり1,200人ほどに
	31 年縞博物館（福井県）と展示や講師派遣で協力関係

日	出 来 事
11	連載『湖岸より』368～395〈全28回〉(～3/27：中日新聞)
12	連載『琵琶湖の魚たち』1～12 全12回(～3/21：産経新聞)
14	連載『びわ博こだわり展示の裏話』59～79全21回(～3/30：毎日新聞)
16	連載『びわ博セレクション ミクロの世界から』1～25 全25回(～3/25：京都新聞)
1	蛍の光 観測数減少する彦根・守山、自然残る米原では増加
6	譲与イチモンジタナゴが増殖：オムロン野洲事業所から小学校へ寄贈 大塚総括学芸員が県の感染症拡大予測に貢献
11	連載『ニュースの門@滋賀 琵琶湖 魚編』全3回「環境保全活動 自然再生 取り組み拡大」「ニゴロブナ 臭わないふなずし PR」「外来 魚 本格駆除で在来種激増」(～7/12, 17：読売新聞)
22	県試験研究機関連絡会応用統計学習会・滋賀県 EBPM 研修会合同 大会「滋賀県における新型コロナウィルス感染状況の数理解析とその 応用」大塚総括学芸員
7	『多賀はゾウの里だぞう』発行：古代ゾウ化石発掘の歴史古代ゾウ 発掘プロジェクト・多賀町立博物館

展 示 ・ 交 流

- ・第28回企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち」、トピック展示8件
- ・観察・見学会3件、講座2件3回、体験研修67件、視察7件、地域支援37件、ミュージアムスクール1校、企画展示関連イベント2件、企業連携4件
- ・はしかけグループ25(372名)、フィールドレポーター175名、はしかけ登録講座2回オンライン開催、環境・ほっと・カフェのリモート学習支援
- ・『おうちミュージアム』全国152博物館参加、家庭で楽しめる素材をホームページで公開

琵琶湖・滋賀年表

- ・新型コロナウイルス感染症

日	出来事
2	トピック展示「第44回ごはん・お米とわたし」図画入賞作品展：JA 滋賀中央（～7/19） 常設展示室C・水族（一部制限）で開室
20	地域連携「せせらぎの郷（須原 魚のゆりかご水田協議会）：水田にすむ生物観
23	ディスカバリー・ルームとおとなのディスカバリー：平日のみ開室
26	学校連携リモート学習：同志社中学校「魚と人との関わり」「琵琶湖とフナとふなずし」橋本専門学芸員
1	びわ湖の日企画：学芸員がラジオに出演しガイドブックを用いながら琵琶湖の生き物などを紹介
13	環境・ほっと・カフェ「リモート学習」：東近江市立蒲生北小学校4年生
14	ディスカバリー・ルームとおとなのディスカバリー：閉室
17	You tube 動画配信：「トンネル水槽をゆったり泳ぐ魚たち」動画をネット配信
22	トピック展示「日本農業遺産『琵琶湖システム』：エリ漁や水田遡上ジオラマで再現（～9/30）
23	フィールドレポーター調査「飛び出し坊や」：滋賀発祥の交通安全看板
26	水族トピック展示「ビワコオオナマズ稚魚公開」：卵から孵化した直後のビワコオオナマズ
8	おとなのディスカバリー：平日のみ開室
15	ディスカバリー・ルーム：平日のみ開室
24	ミュージアムスクール：立命館守山中学1年191名（2021/3/15）
26	おとなのディスカバリー：全日開室

日	出来事
4	日本農業遺産 琵琶湖システム 認定 県庁の県民サロンでジオラマ展示
28	ゴールデンウィークでも湖岸駐車場閉鎖
12	新型コロナ禍、県施設が一部再開 図書館や博物館 大半は休館継続
10	県登録システム「もしサボ滋賀」運用開始：コロナ追跡 ライン通知 QRコード 登録者に注意喚起
28	大麦ストロー脱ブラ目指す：無農薬の県産使用／NPO手作り
1	びわ湖の日「この夏！びわ活！ガイドブック」の電子書籍を県HP上で公開
6	県が3月下旬に県内感染ペースを予測：シミュレーションでは予測できないクラスターが発生し 想定超す感染者急増
8	外来種アリガタツコムシ 大津で複数発見
31	鉄道遺産観光で滋賀・福井連携 自転車ルートも 初懇談で両知事合意
8	外来ザリガニ 駆除足踏み 高島・今津 淡海湖に生息 地元では親しみ「さみしい」 専門家「生態系影響 対応を」

10月	1	入館時にサーモグラフィー測定器導入	
	5	環境・農水常任委員会説明：第3期リニューアル展示	
	7	第3期リニューアル展示 A 展示室・B 展示室：メディア向け内覧会	31 第1回研究部研究倫理研修：「学術剽窃がもたらしたもの」堀和生
	8	第3期リニューアル展示 A 展示室・B 展示室：関係者向け内覧会	
	10	リニューアルグランドオープン：セレモニー、完全予約制導入	
	15	リニューアル寄付：物流機器大手ダイフクに感謝状贈呈	
	29	レストラン「にほのうみ」新メニュー「びわ湖の龍のパンケーキ」	
11月	7	企業連携で希少生物保全 広げる 寄付集めが縁で新たな活動進展 期待『保護増殖センターで育てたヤマトサンショウウオ』	
	21	博物館実習（～11/25）大学生15名：3日目以降在宅実習	
12月	8	博物館バリアフリー情報掲載：障害者の旅行支援情報誌「みんなの滋賀たび」第6号	
	11	琵琶湖博物館協議会第1回第13期委員：新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画、第三次中長期基本計画	19 絵本『よんひやくまんさいのびわこさん』 梨木香歩×挿画・小沢さかえさん：博物館学芸員から琵琶湖について学ぶ
	29	湖国の一年：琵琶博リニューアル 10月10日（3期6年間をかけた大規模なリニューアルを終え、全面開業）	20 琵琶湖地域の水田生物研究会開催
1月			7 薬品棚卸し作業（～8）
			20 琵琶湖博物館ブックレット12号「近江路をめぐる石の旅」出版
2月	4	琵琶湖博物館協議会第2回第13期委員：第三次中長期基本計画（コロナ禍で書面開催）	
3月	5	「びわ博」図柄の宝くじ販売（～23）	5 福井県年縞博物館サイエンスカフェ「琵琶湖と水月湖」講演 林竜馬主任学芸員
	26	2020年度第1回アンケート調査実施（～28）	27 新琵琶湖学セミナー「外来生物の現状と守りたい生き物たち」（3/27）1回・2回は中止で3回目のみ実施 企画展示連動「滋賀県の外来種対策」中井克樹「守りたい、地域のたからもの」松田征也 31 琵琶湖博物館ブックレット13号「琵琶湖と古墳」出版

2	環境・ほっと・カフェ「リモート学習」：守山吉身小学校5年生		
17	第28回企画展示「守りたい！少なくなった生き物たち ―未来へつなぐ地域の宝物― 絶滅危機の標本展示（～2021/3/7） 2		
19	季刊誌「湖国と文化」秋号：全面オープンした博物館の紹介や高橋啓一館長インタビュー掲載		
24	トピック展示企業の日「近江商人と三方よし」：伊藤忠商事（～11/23）		
11	環境・ほっと・カフェ「リモート学習」：野洲市立篠原小学校6年生		
24	トピック展示「海と日本プロジェクト in 滋賀県 ～滋賀と海のつながり調査隊～」ポスター展（～12/6）	20	新型コロナ感染予防ヘトイレ改修 県補正予算案 20億円かけ108施設
8	淡海こどもエコクラブ活動成果ポスター展示（～2021/1/8） 壁新聞・絵日記の展示（～2021/1/8）	24	海と日本プロジェクト in 滋賀「滋賀と海のつながり調査隊」博物館で学ぶ
12	企画展示入場者3万人達成：展示解説書等記念品贈呈		
13	淡海こどもエコクラブ活動交流会		
22	トピック展示「世界にはばたけ彦根城―彦根城を世界遺産に」：彦根城歴史博物館（～2021/1/17）		
23	企画展示関連 トピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～」：新たに3種生息残り22種に、生物多様性びわ湖ネットワーク（～2/21）		
26	学習船「うみのこ」常設展示始まる：甲板を再利用、初代船資材も利用、活動や歴史伝える、県教育委員会 3		
5	「湖ラガ展」福井県立年縞博物館に「移動博物館」のキット展示（～4/19）		
23	トピック展示「令和2年度ごはん・お米とわたし」図画入賞作品展：JA 滋賀中央（～7/19）	11	「滋賀の美」発信へ4本柱 県立近美改革や文化館後継建設 新生美術館計画代替 県がプラン原案提示
31	フィールドレポーター活動：滋賀のタンボガ調査 外来種と合わせて8種類確認分布調査	20	シンポジウム「ヨシの未来を考える～女性の視点から見た『魅力』と『可能性』」草津：ヨシの未来 女性の視点
		7	「生物多様性びわ湖ネットワーク」日本自然保護大賞受賞：トンボに着目、5年で78種確認 日本自然保護協が表彰
		26	道の駅草津 再整備 草津市25年度開設目指す 農産加工品やレストラン検討 烏丸半島と一体的活用を



総務

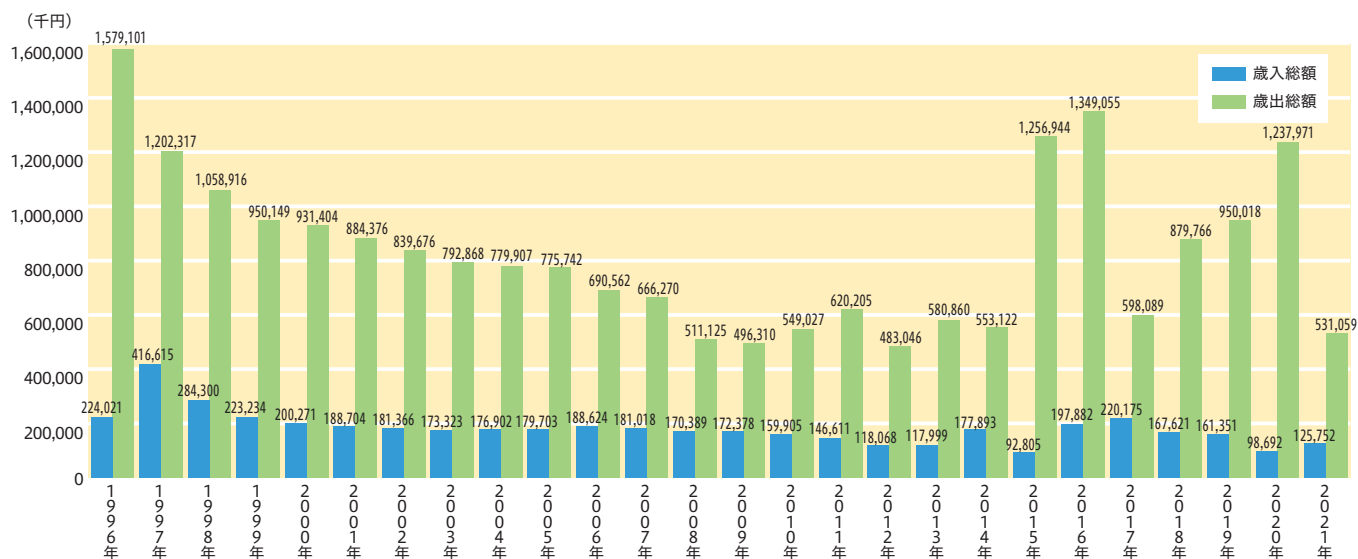


図1-1 歳入総額／歳出総額

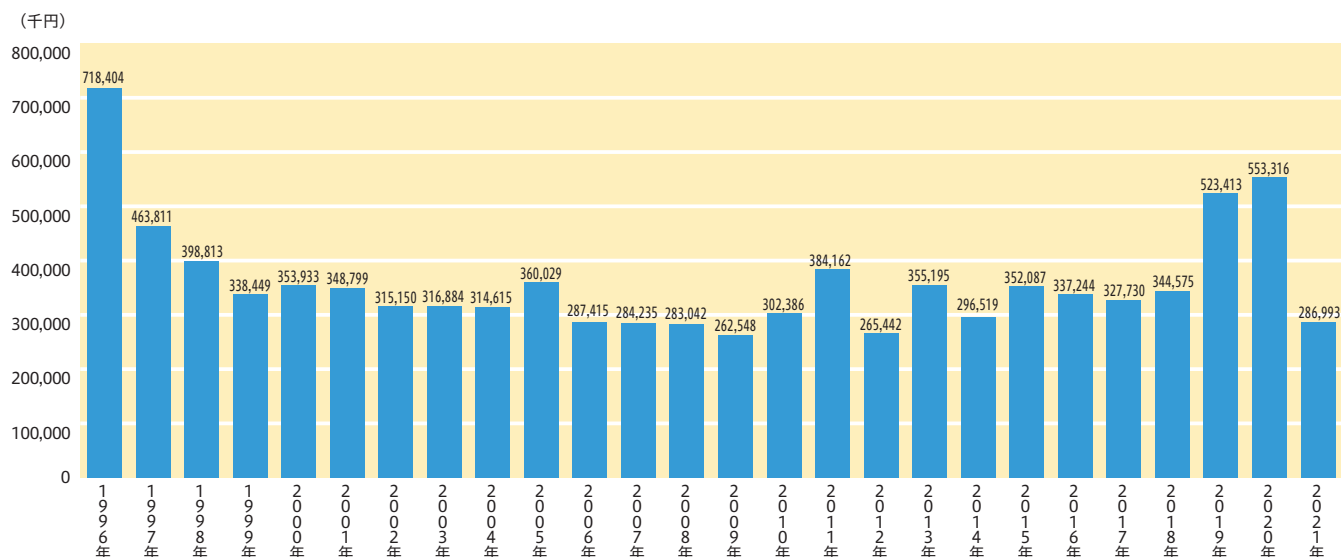


図1-2 管理運営費

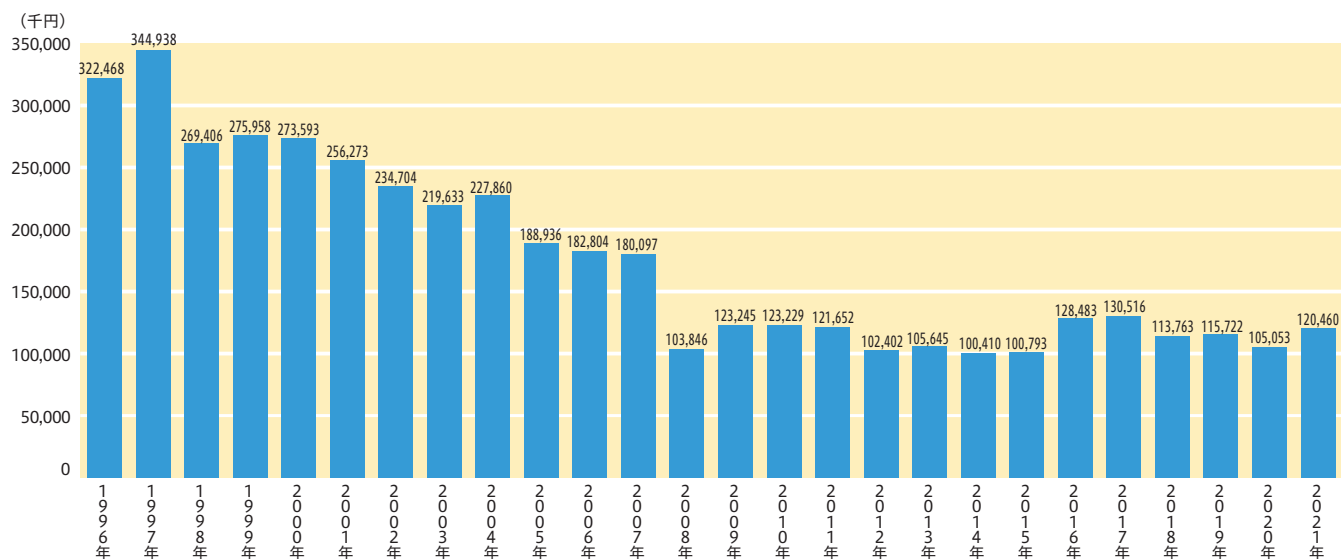


図1-3 調査資料収集費

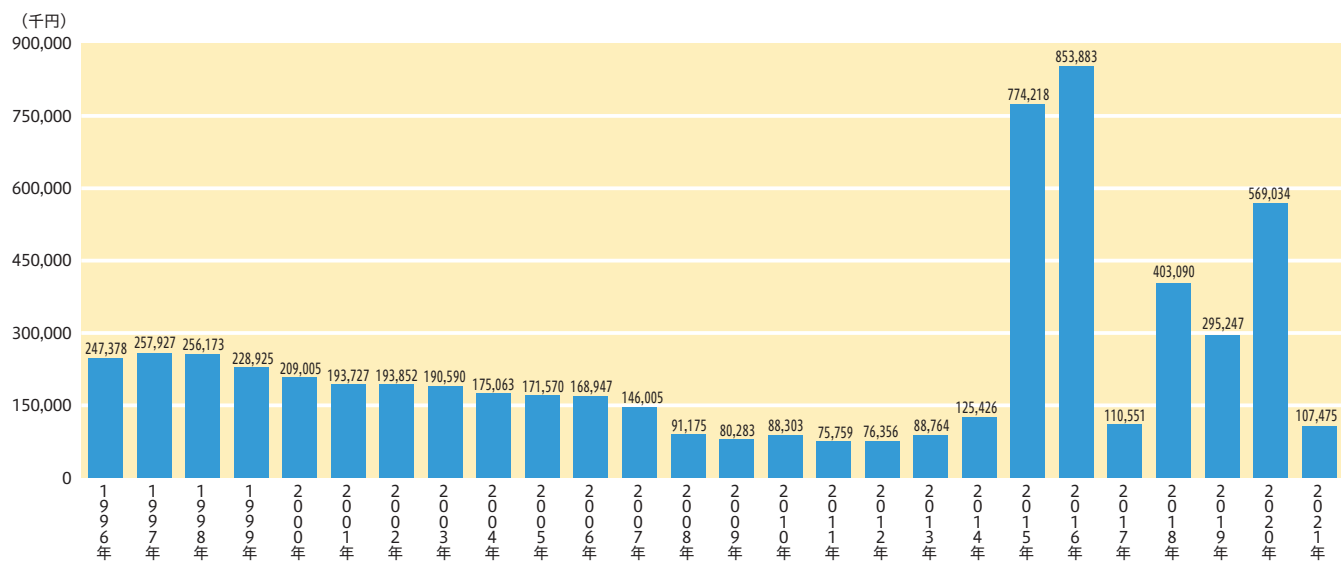


図1-4 展示事業費

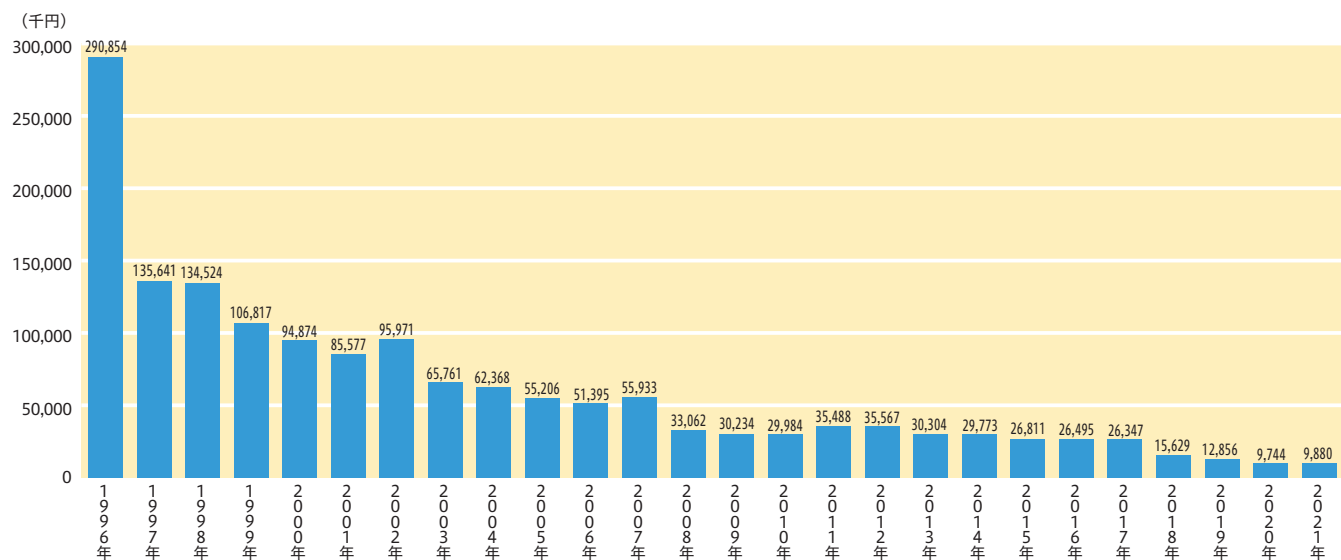


図1-5 情報交流事業費

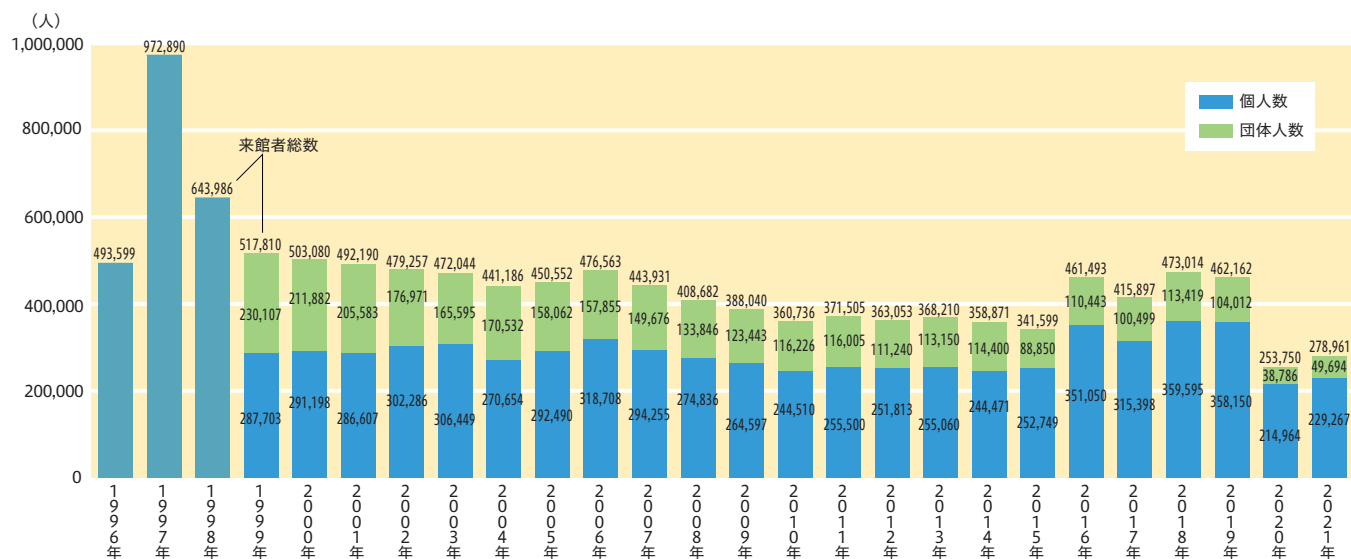


図1-6 来館者数：総数／個人数／団体人数

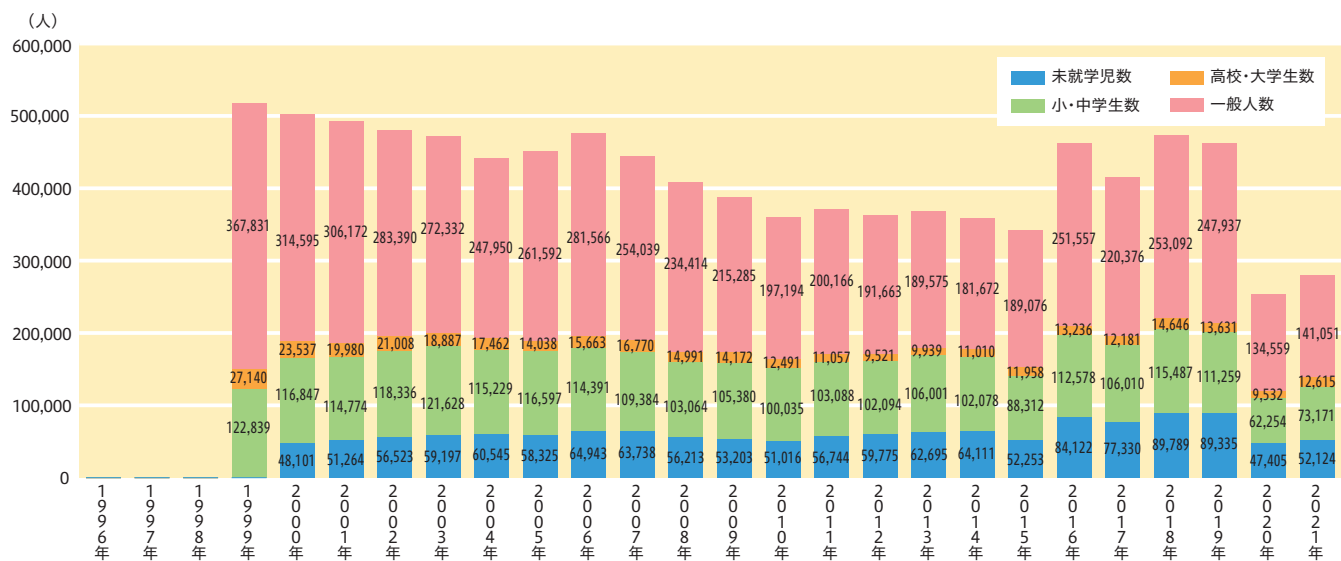


図1-7 来館者数：未就学児数／小・中学生数／高校・大学生数／一般数

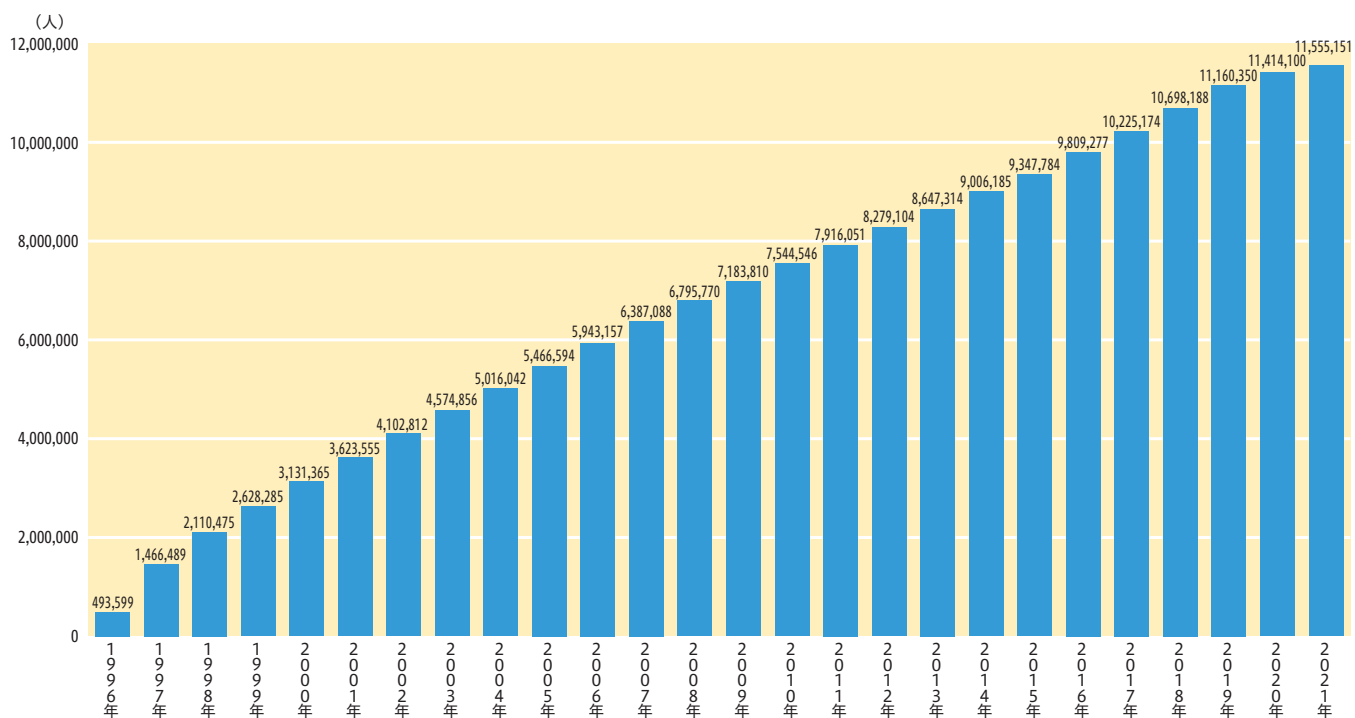


図1-8 累積総数

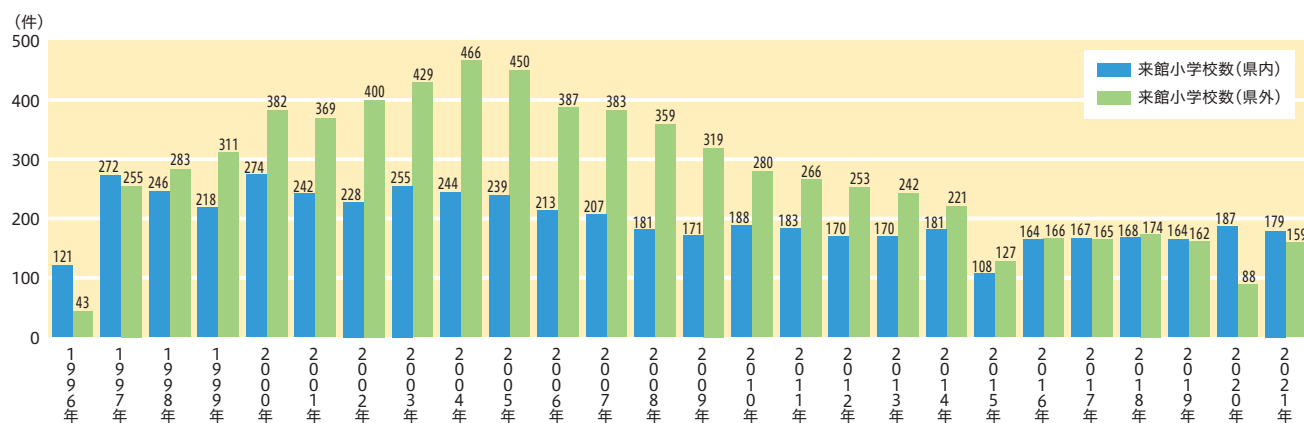


図1-9 来館小学校数(県内／県外)

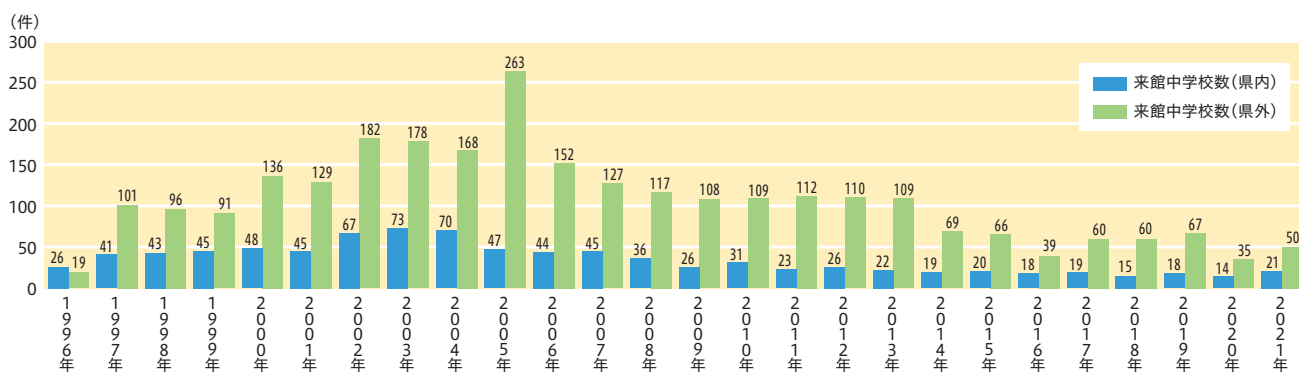


図1-10 来館中学校数(県内／県外)

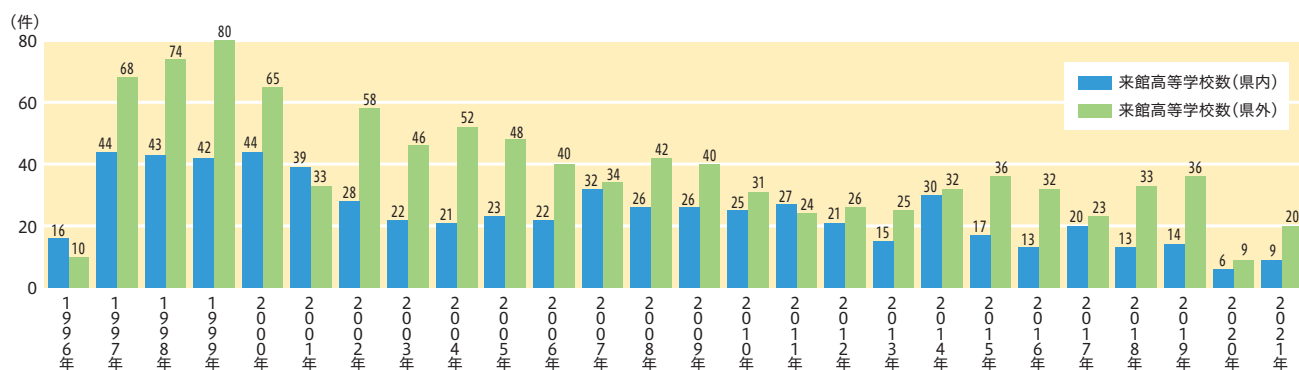


図1-11 来館高等学校数(県内／県外)

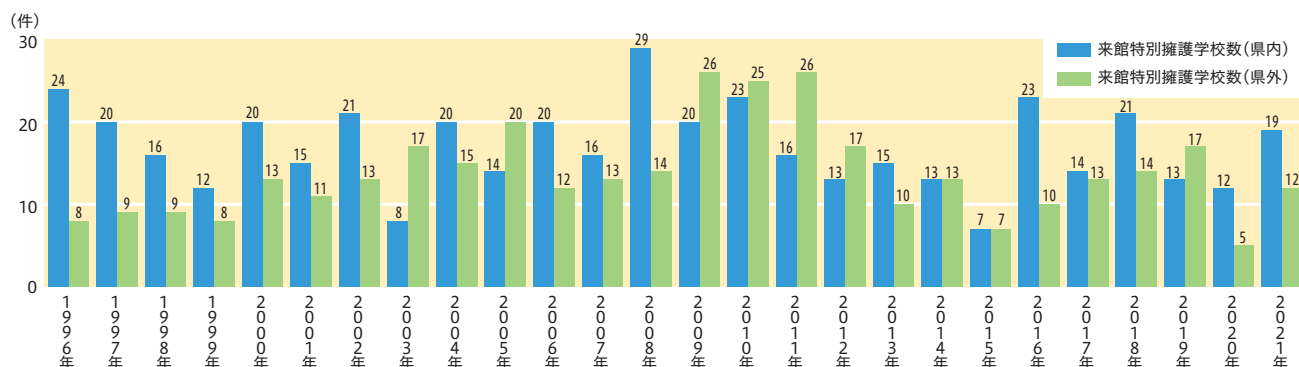


図1-12 来館特別養護学校数(県内／県外)

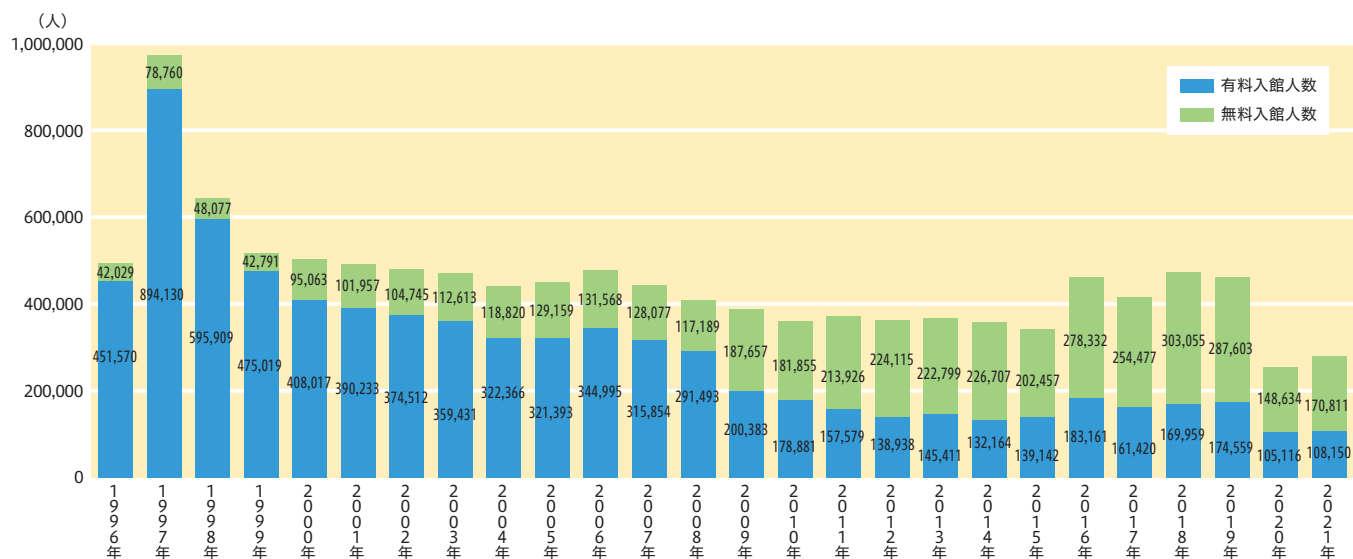


図1-13 有料入館人数／無料入館人数

研究

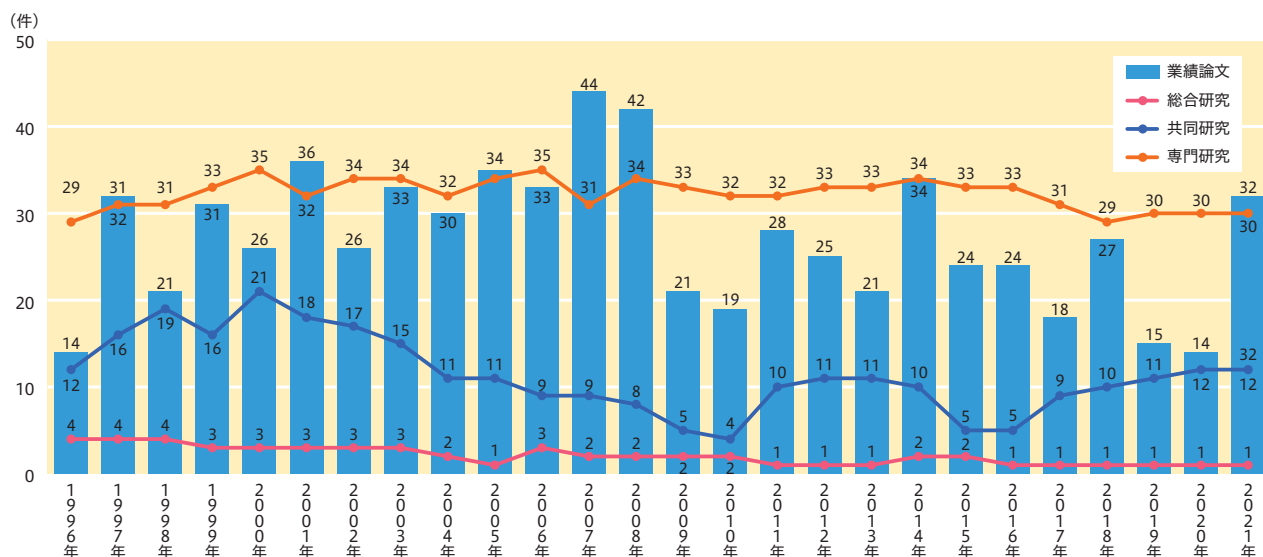


図2-1 総合研究数／共同研究数／専門研究数／業績論文数

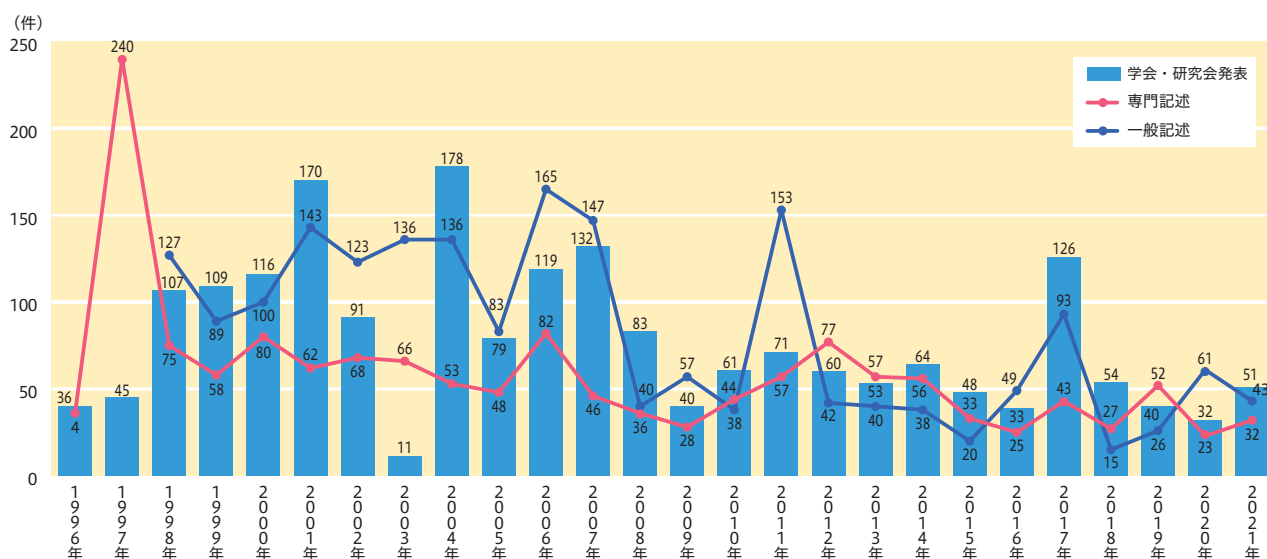


図2-2 専門記述数／一般記述数／学会・研究会発表数

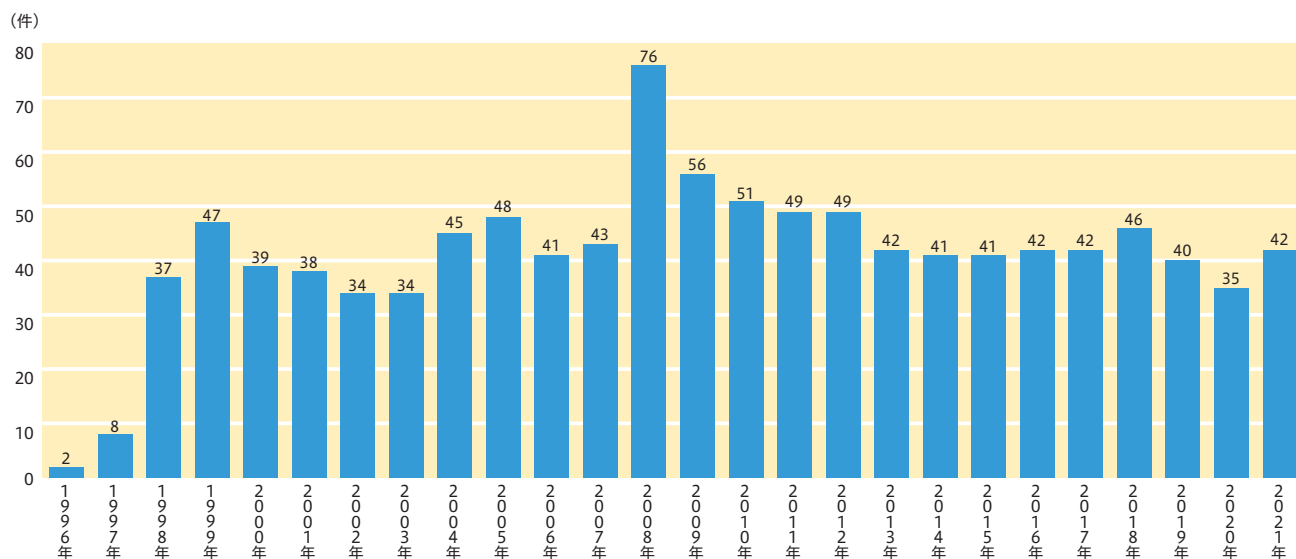


図2-3 研究セミナー・講座数

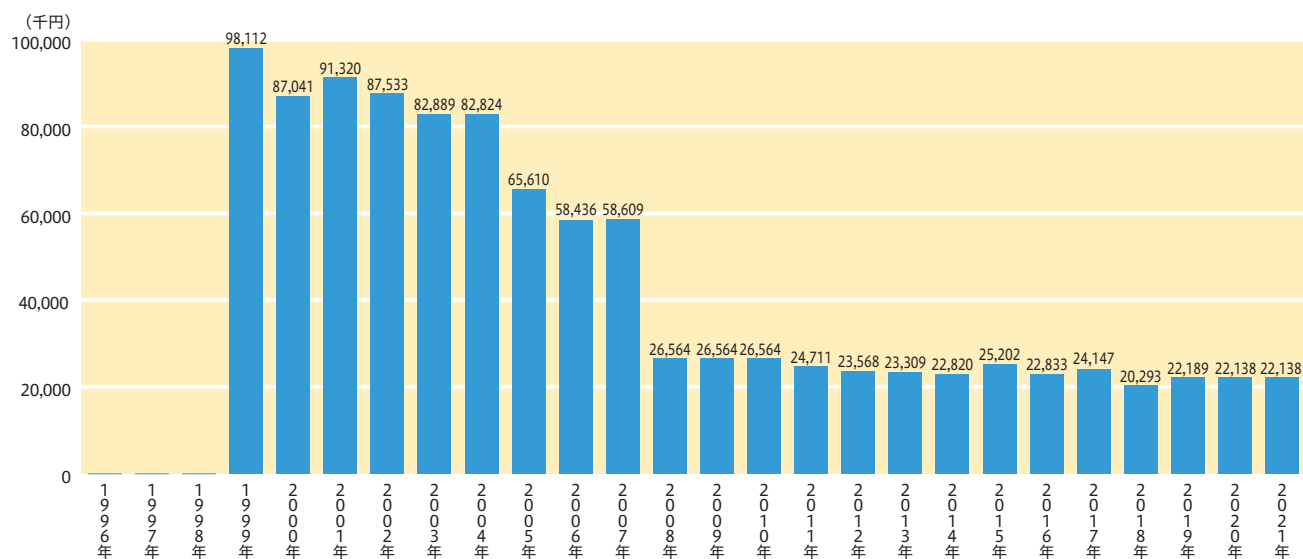


図2-4 研究費（県費）

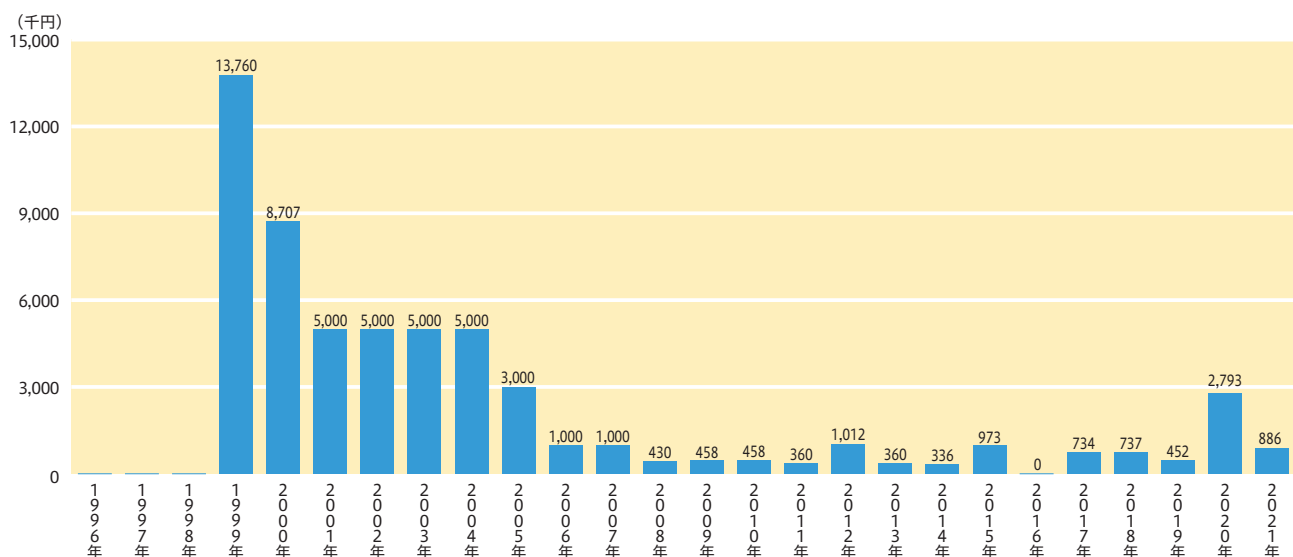


図2-5 研究備品費（県費）

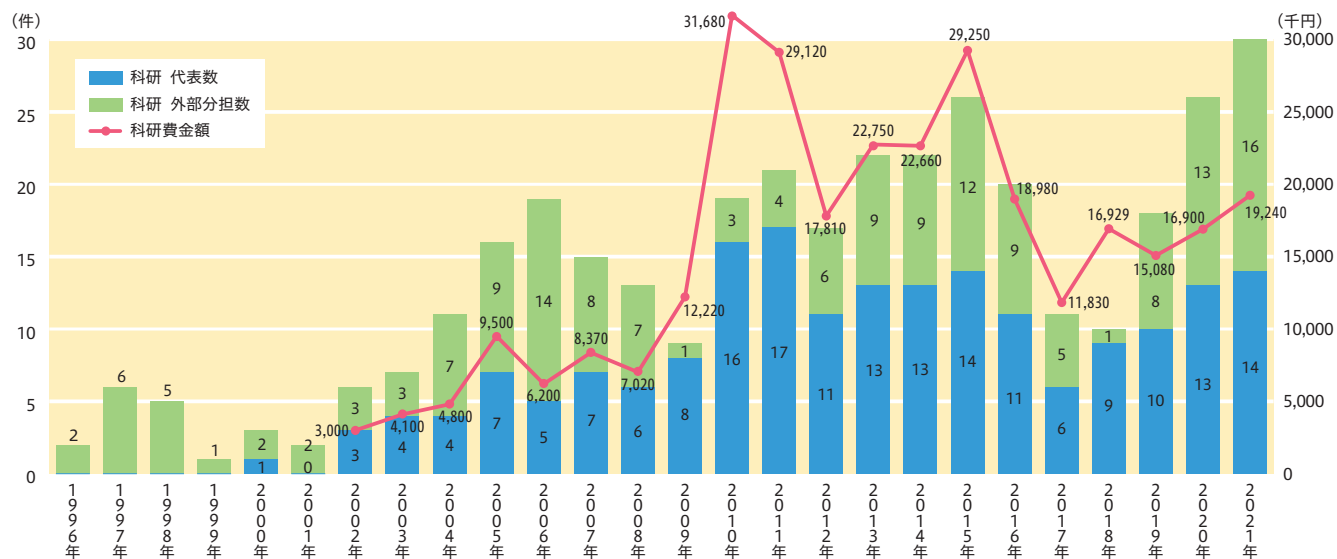


図2-6 科研代表数／科研外部分担数／科研費金額

交流・環境学習

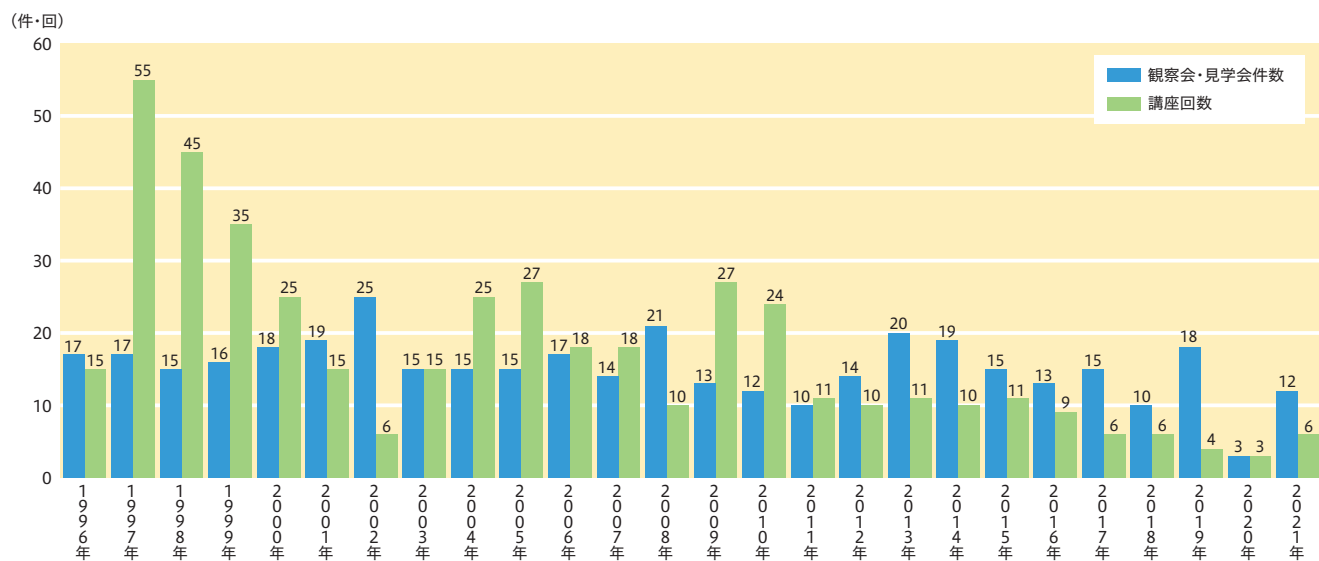


図3-1 観察会・見学会件数／講座回数

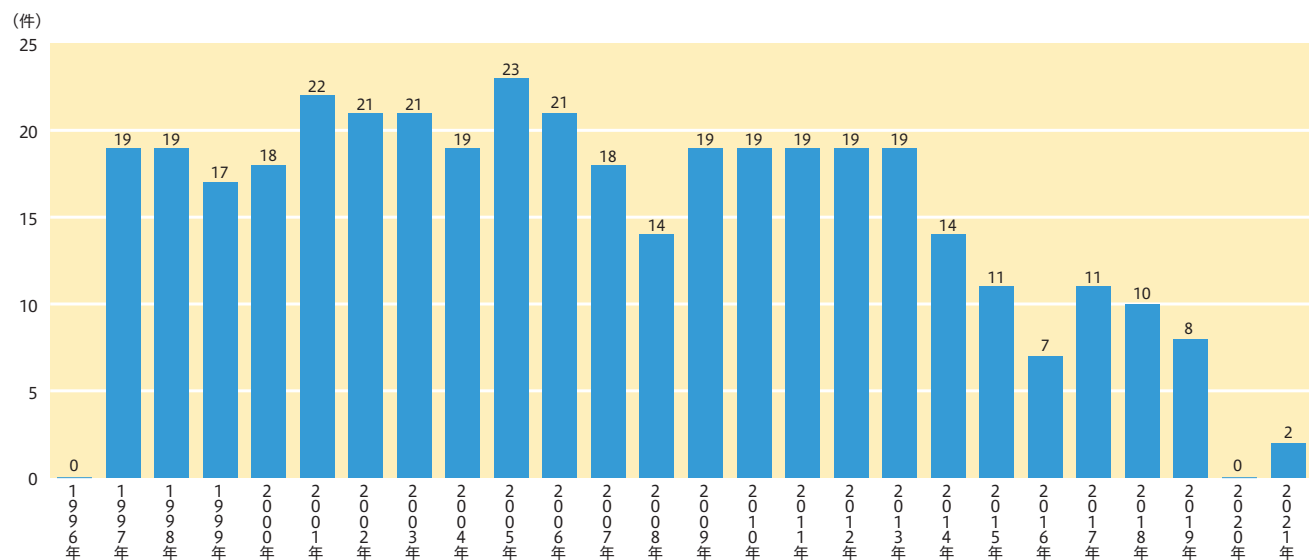


図3-2 体験学習の日・わくわく探検件数

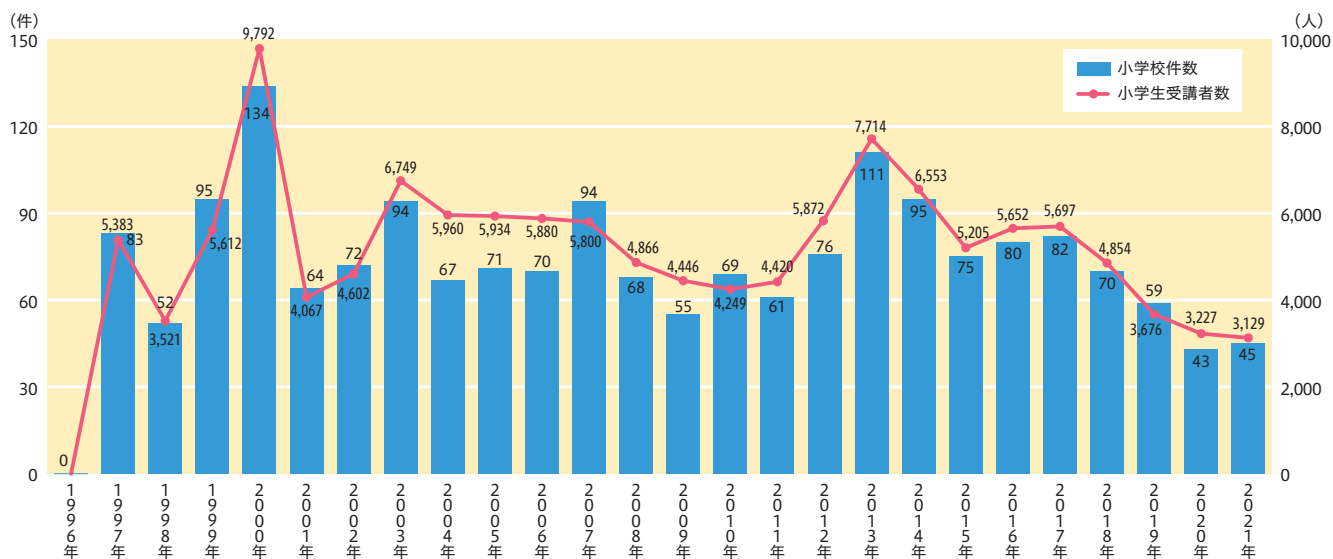


図3-3 体験学習の日・小学校件数／小学生受講者数

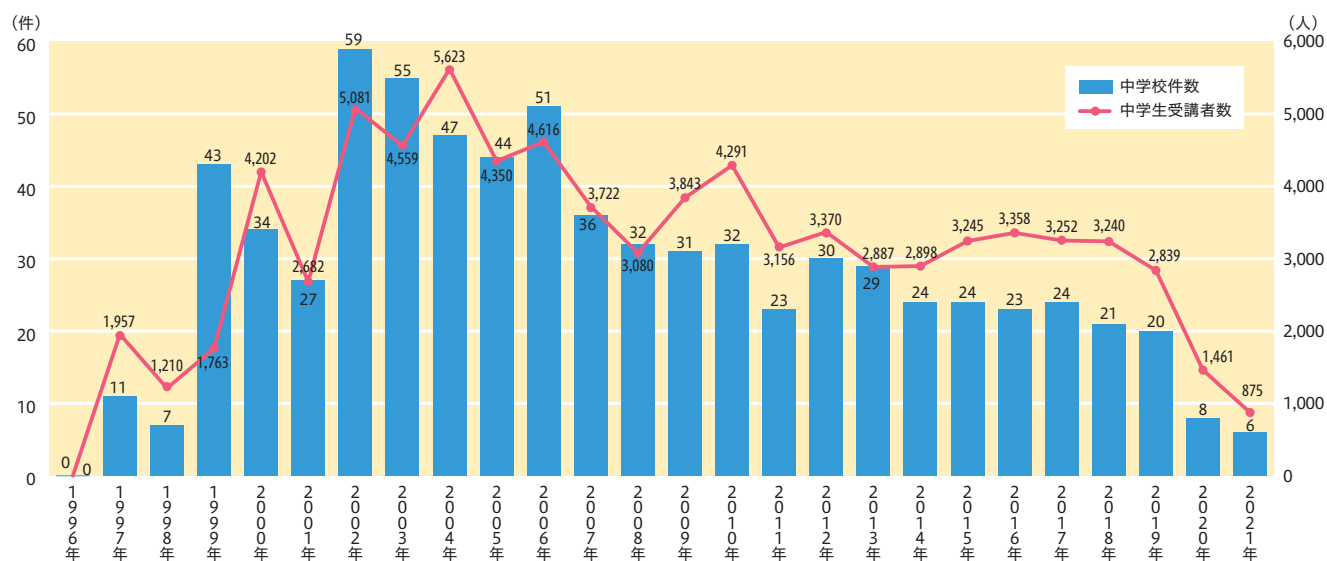


図3-4 体験学習の日・中学校件数／中学生受講者数

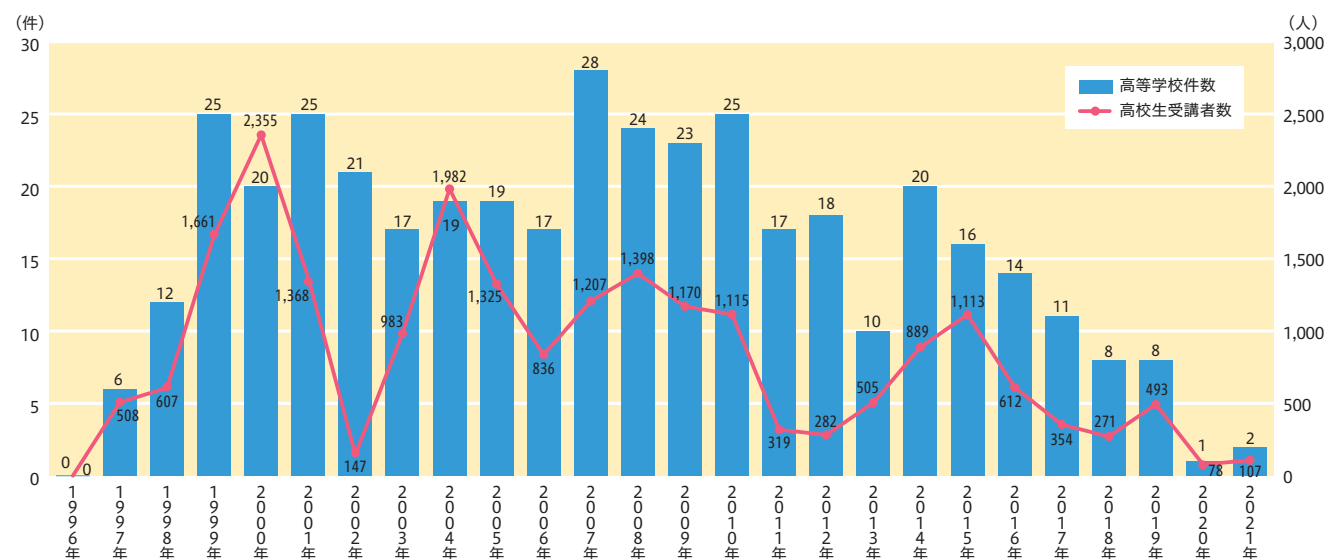


図3-5 体験学習の日・高等学校件数／高校生受講者数

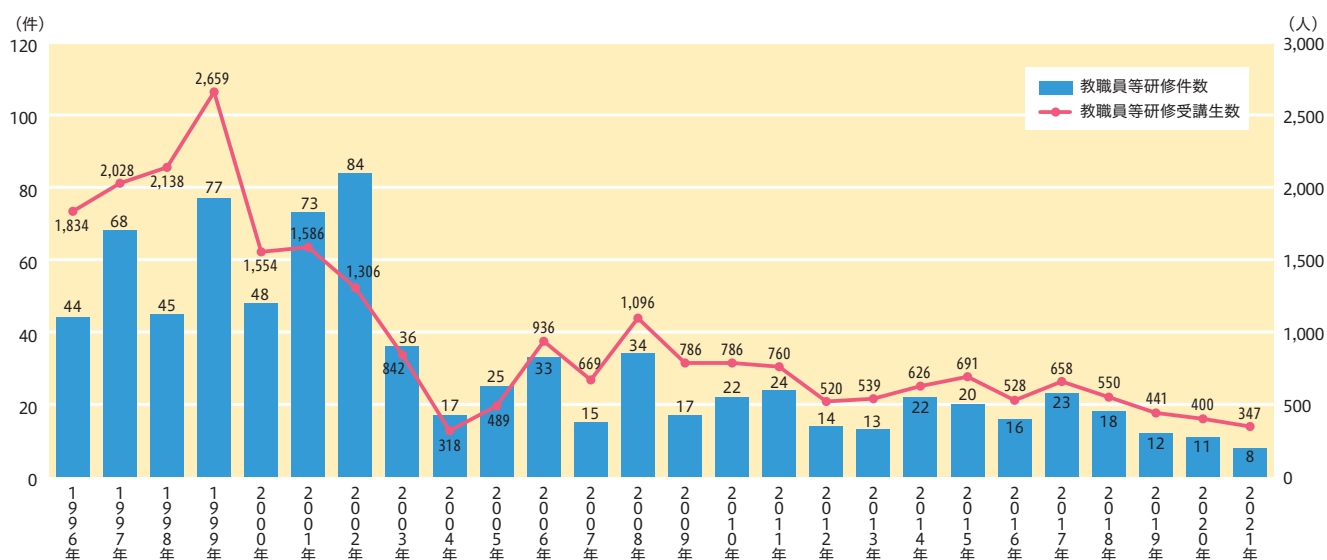


図3-6 教職員等研修件数／教職員等研修受講者数

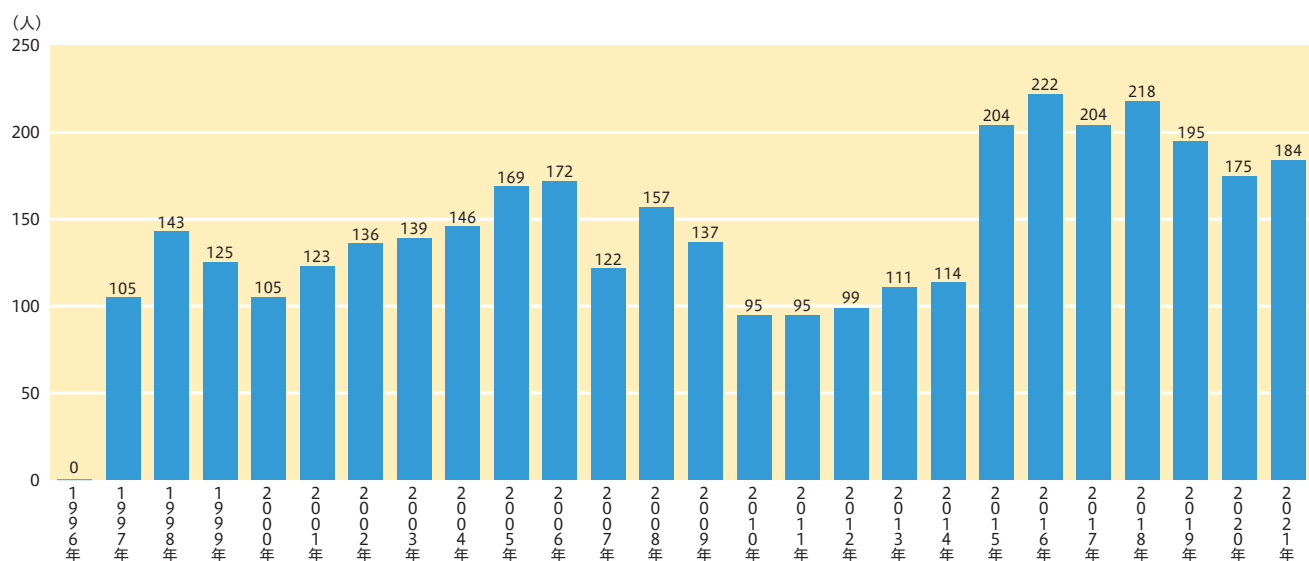


図3-7 フィールドレポーター人数

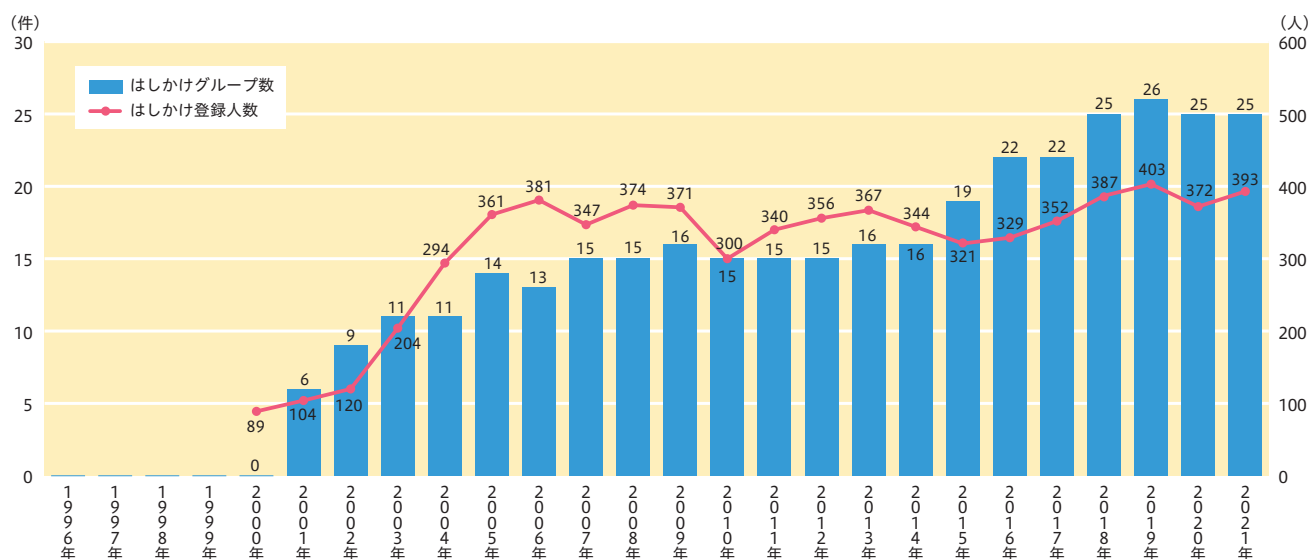


図3-8 はしかけグループ数／登録人数

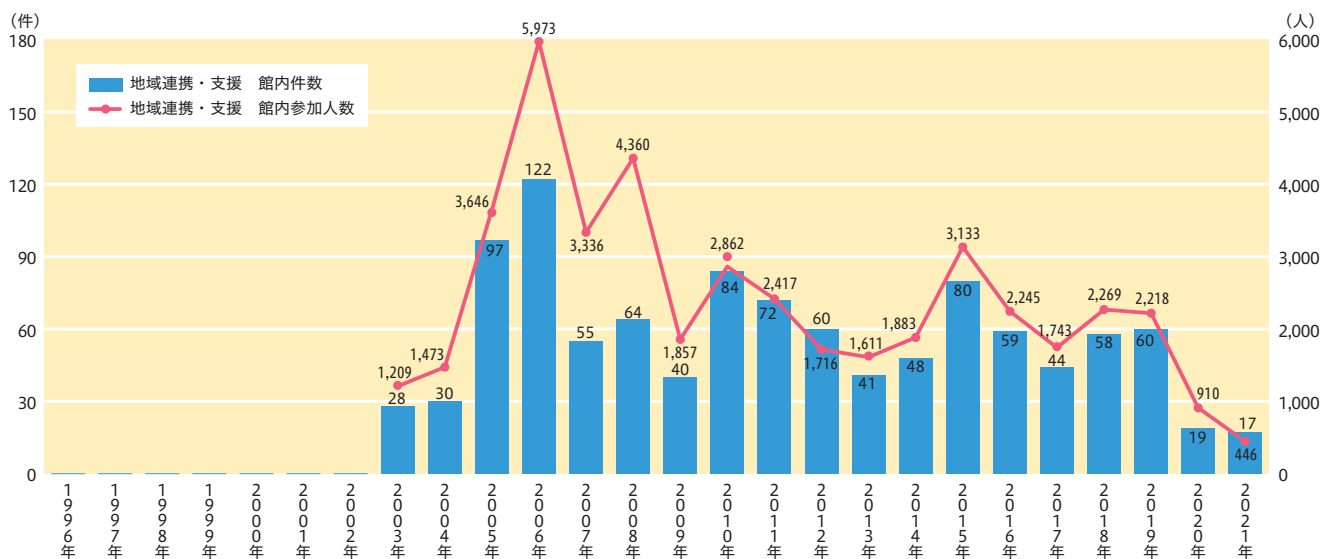


図3-9 地域連携・支援 館内件数／参加人数

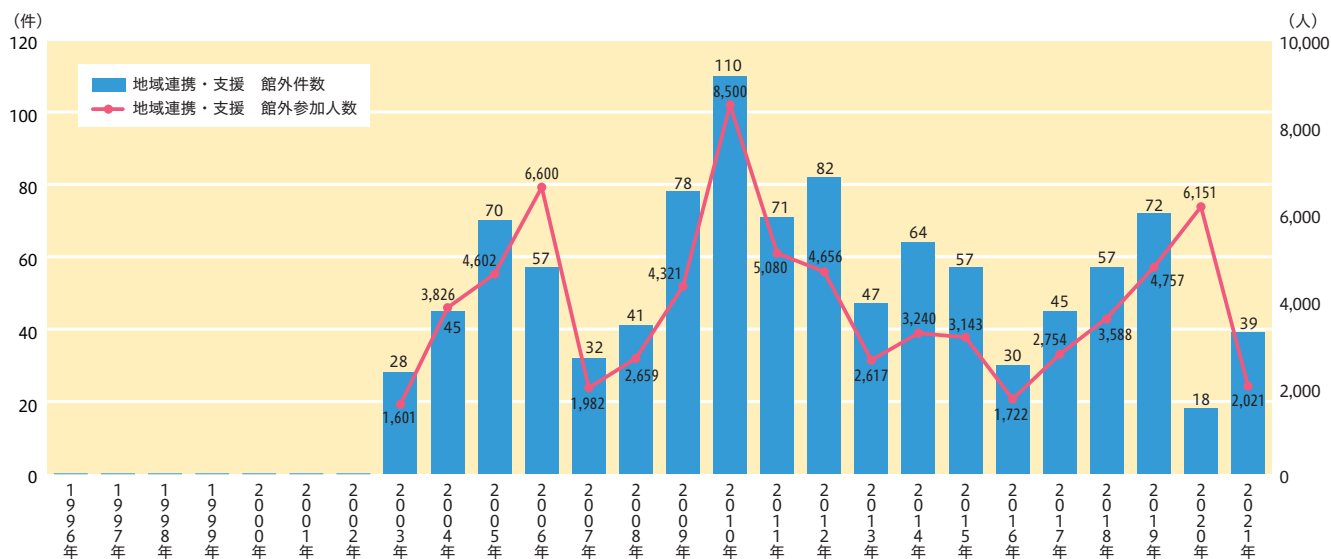


図3-10 地域連携・支援 館外件数／参加人数

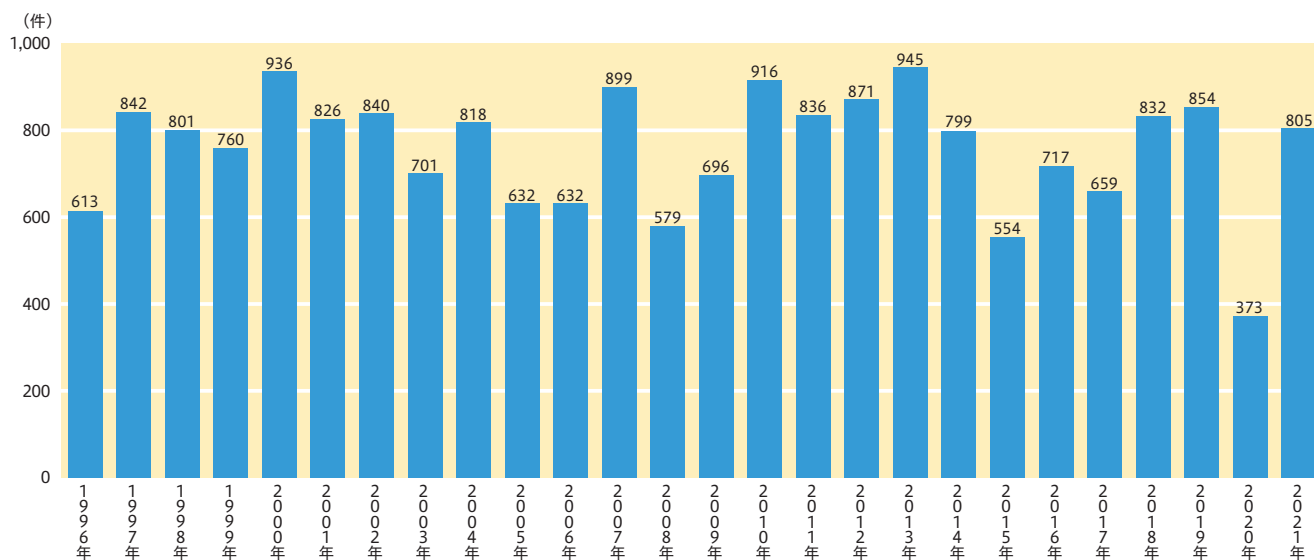


図3-11 質問コーナー対応件数

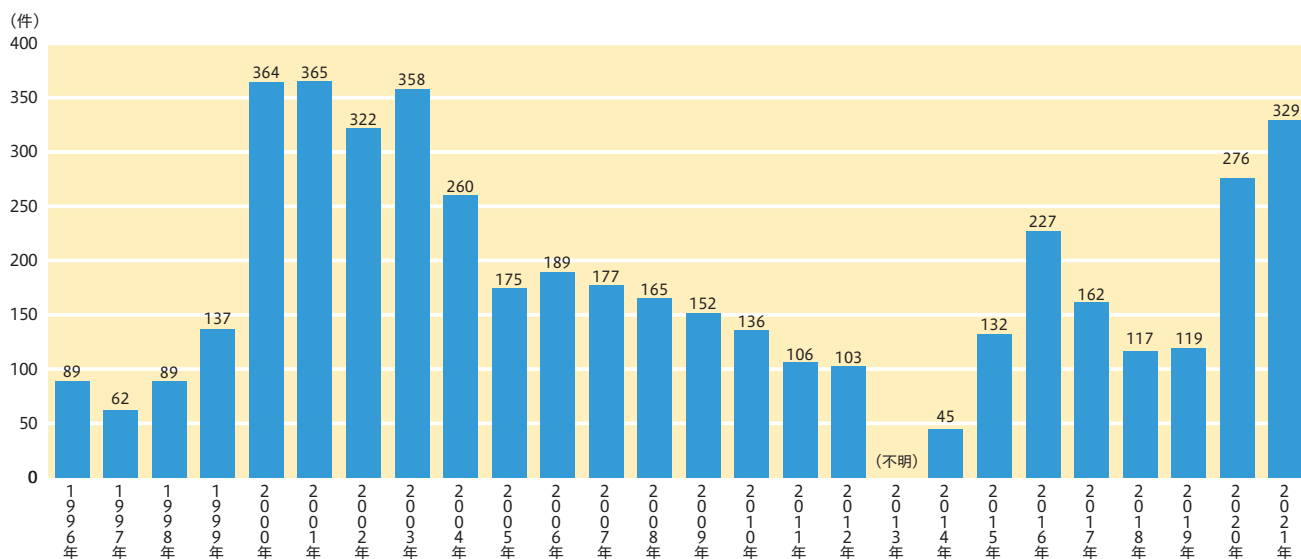


図3-12 Query件数

資料活用

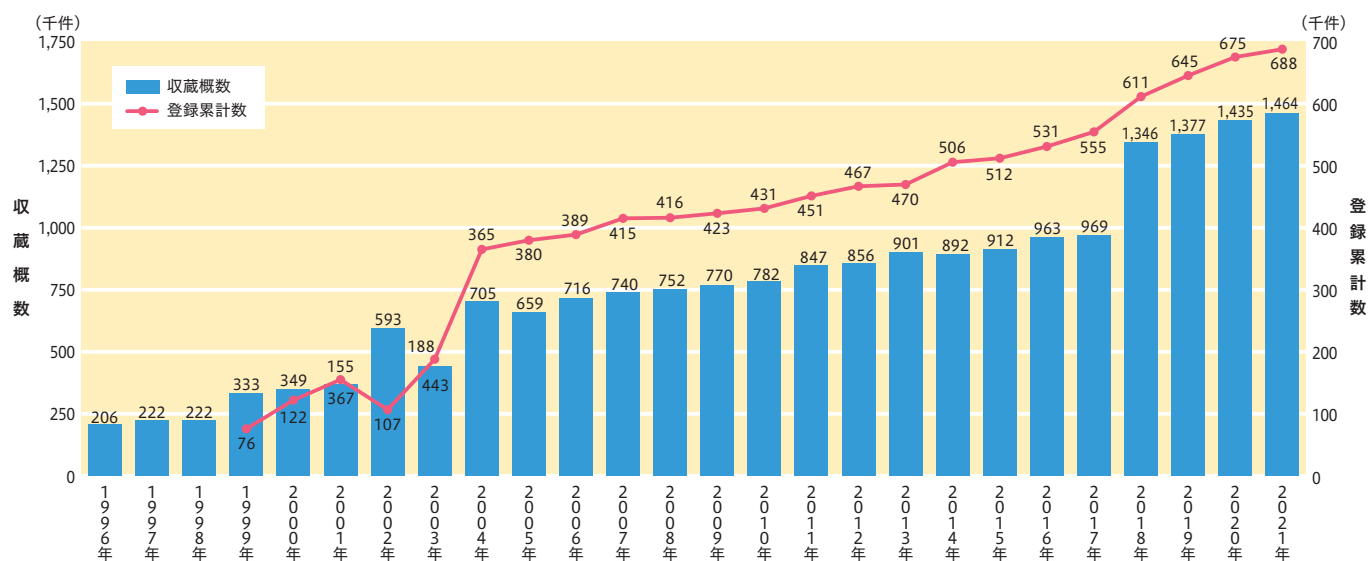


図4-1 収蔵概数／登録累計数

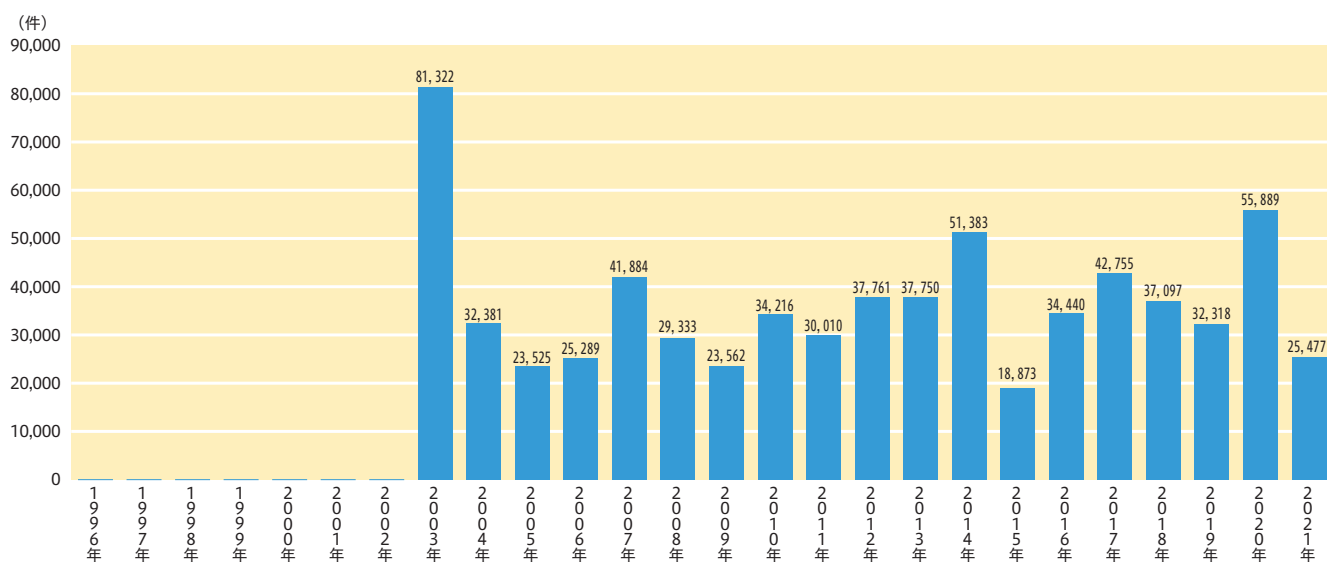


図4-2 年間登録数

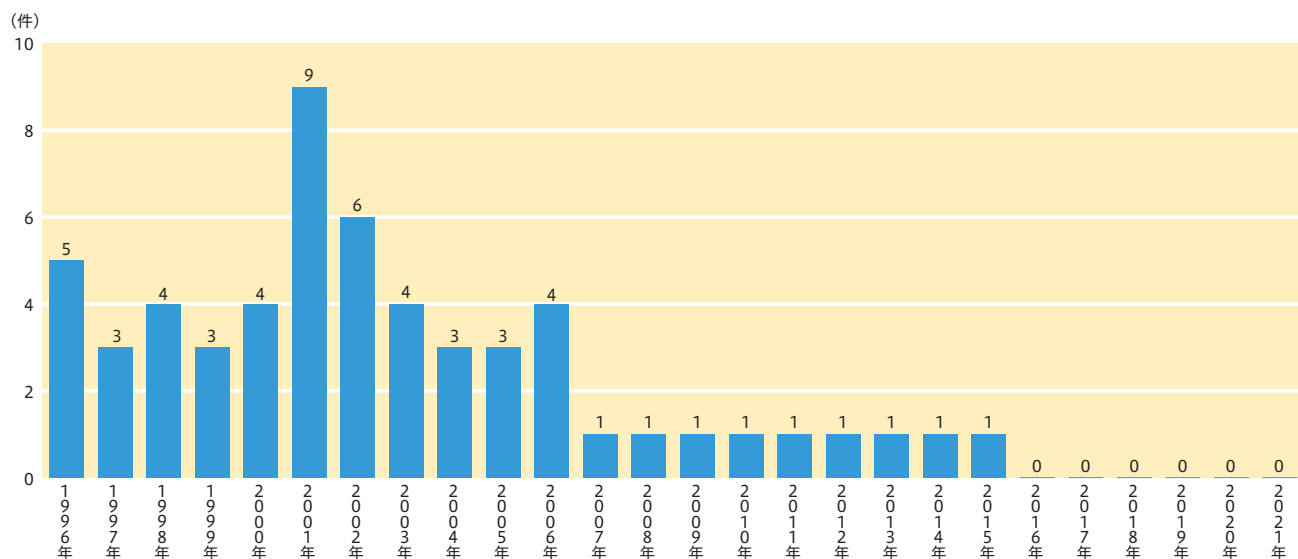


図4-3 購入資料件数

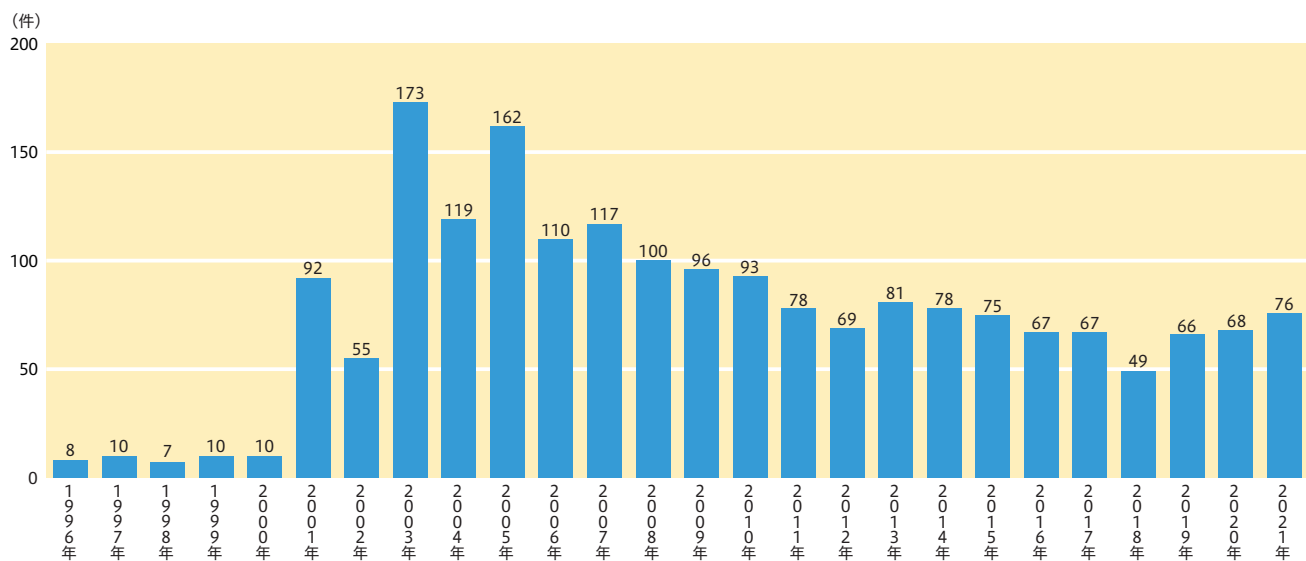


図4-4 寄贈・提供件数

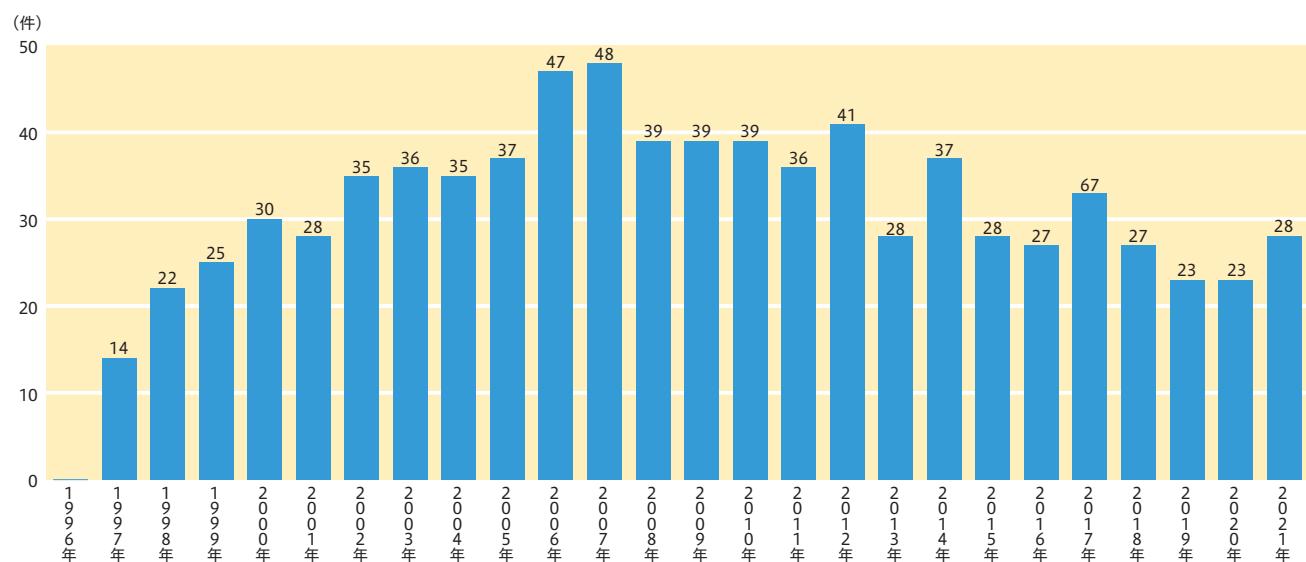


図4-5 水族繁殖生物件数

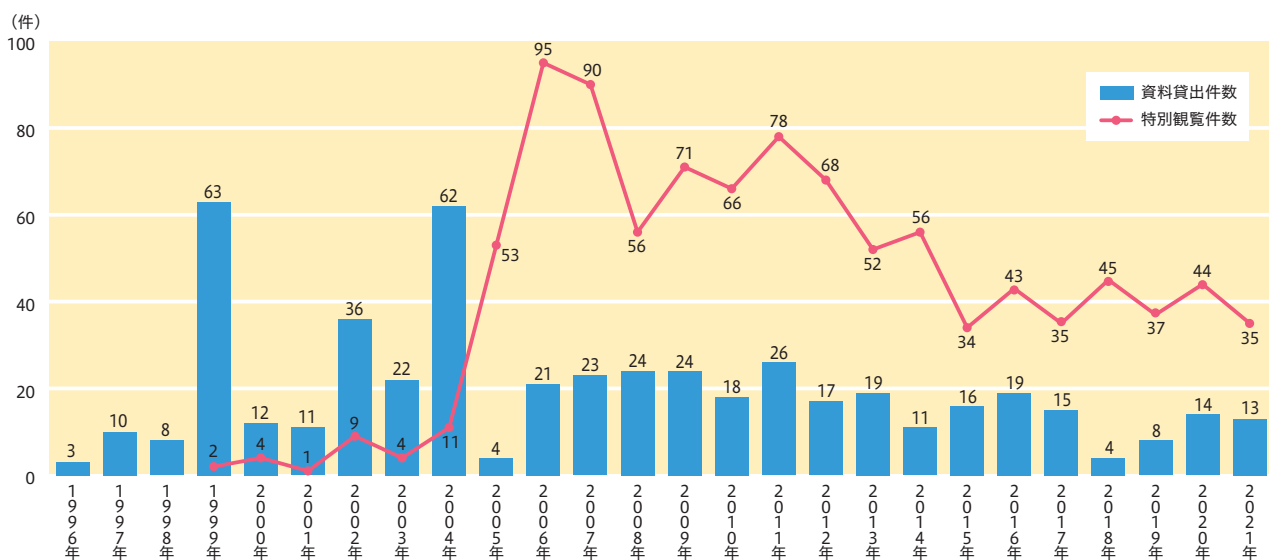


図4-6 資料貸出件数／特別観覧件数

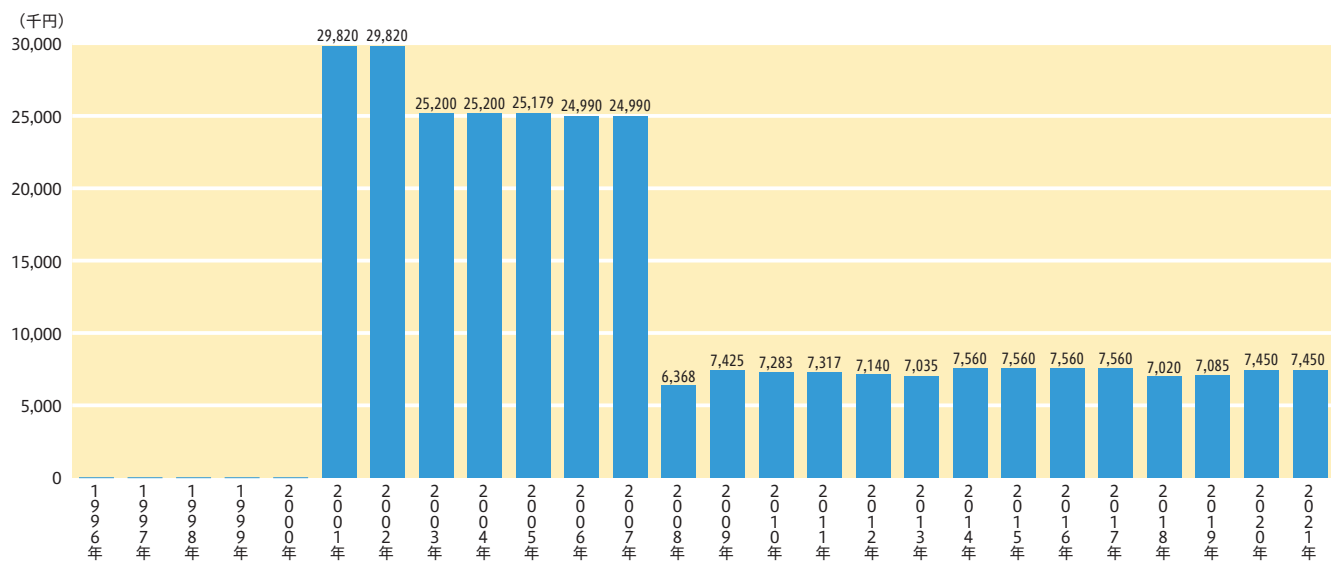


図4-7 資料整理費

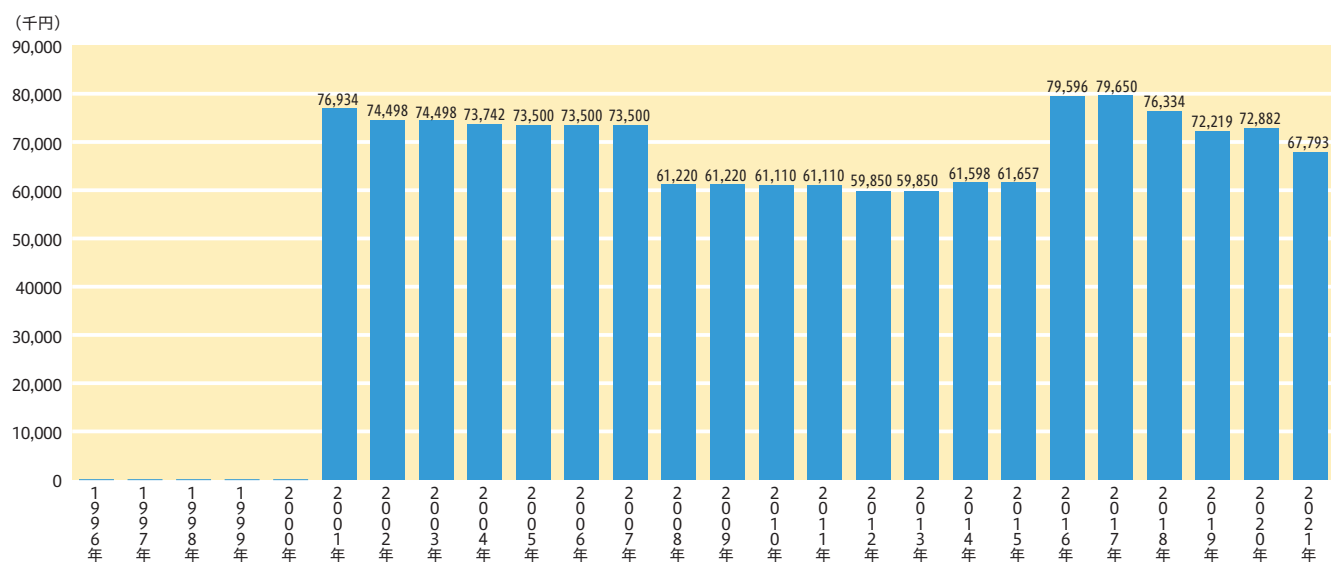


図4-8 水族飼育管理費

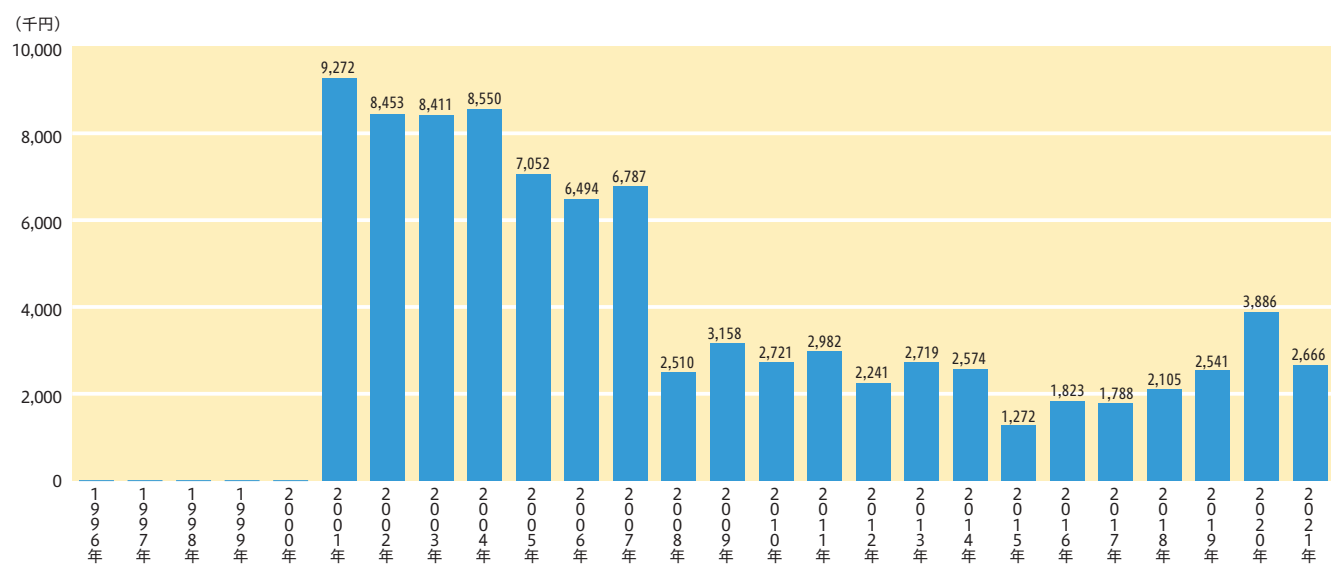


図4-9 燐蒸・IPM費

展示

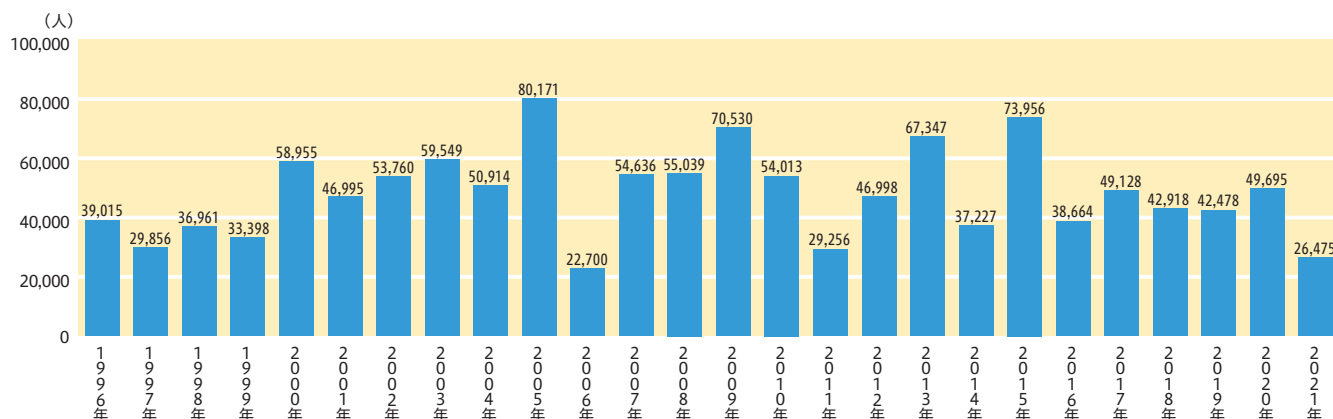


図5-1 企画展示入場者数(1)

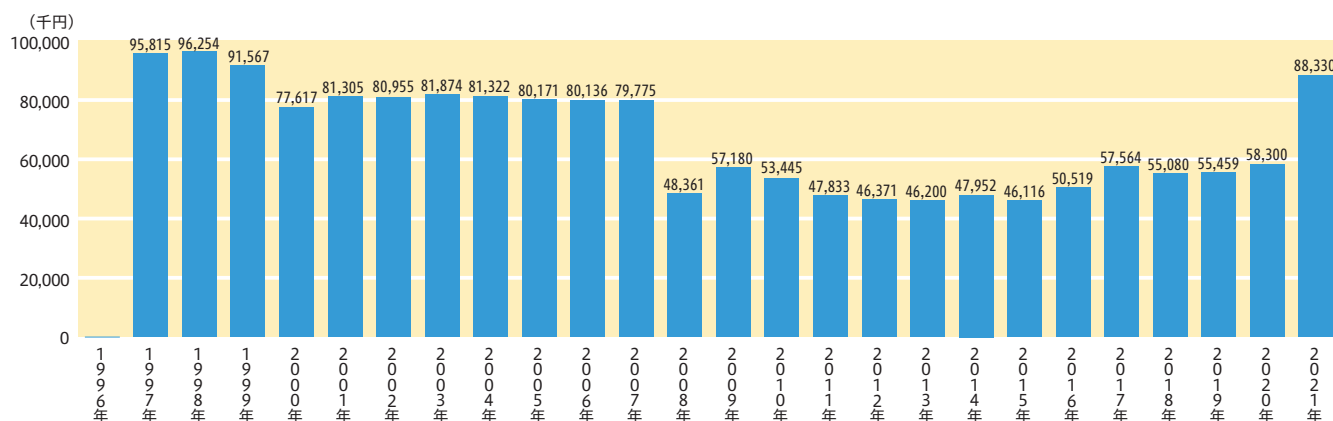


図5-2 展示運営管理費

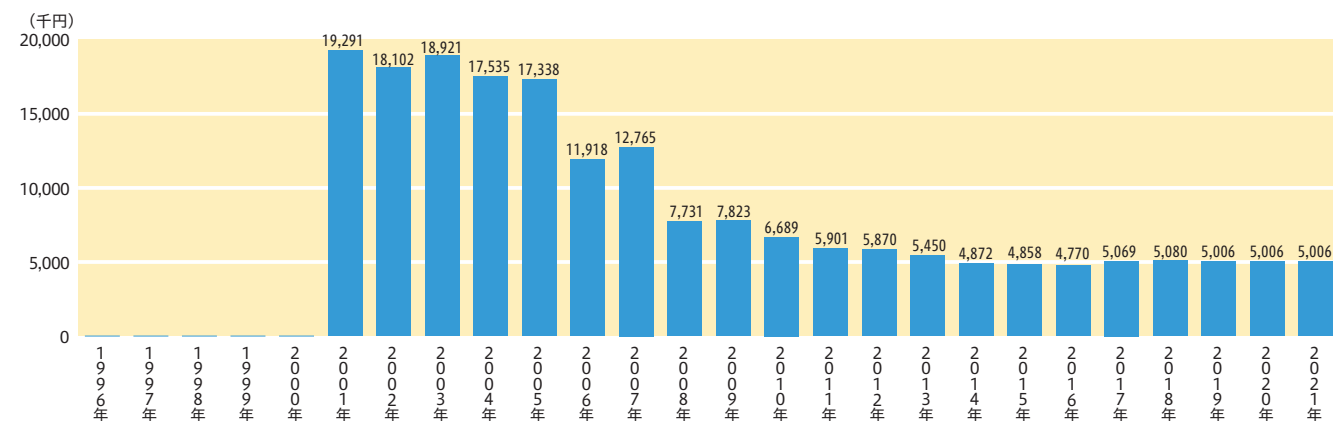


図5-3 常設展示維持費（屋外植栽維持費含）

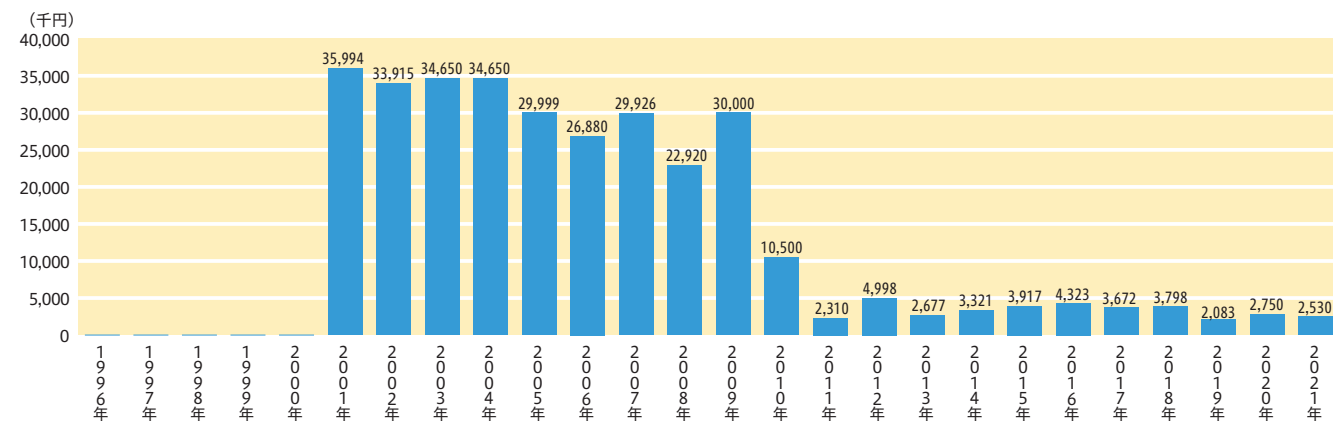


図5-4 企画展示費

企画調整

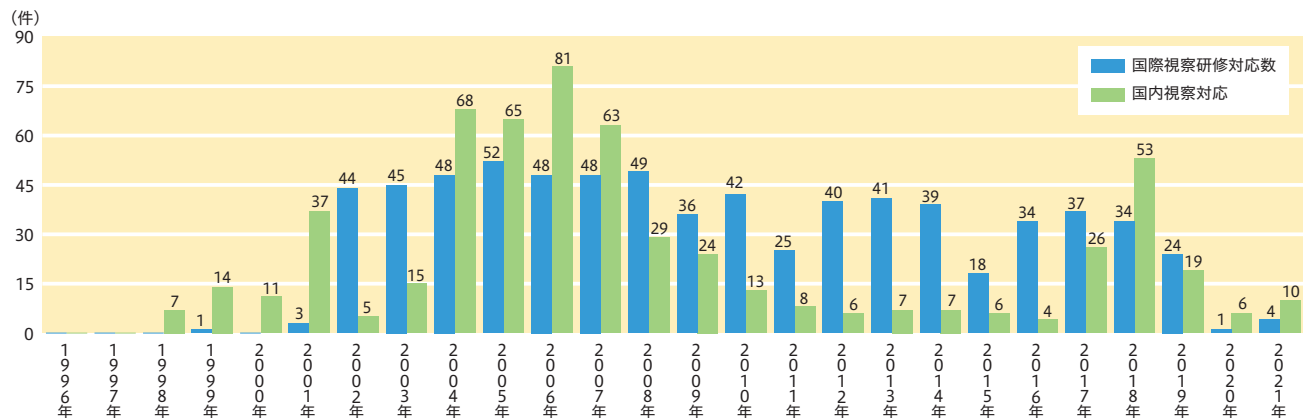


図6-1 国際視察研修対応数／国内視察対応数

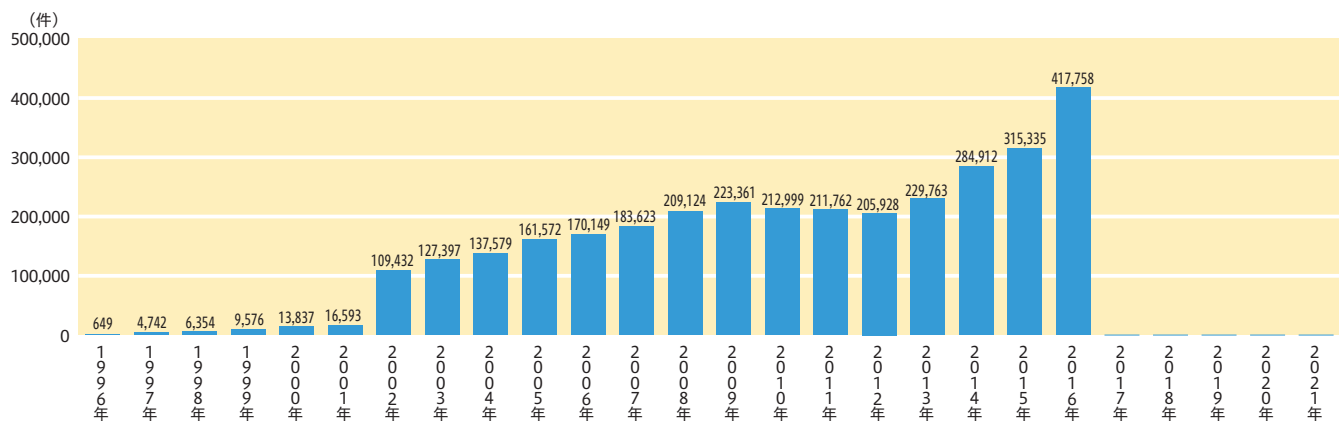


図6-2 HPTP開始アクセス件数（静的）

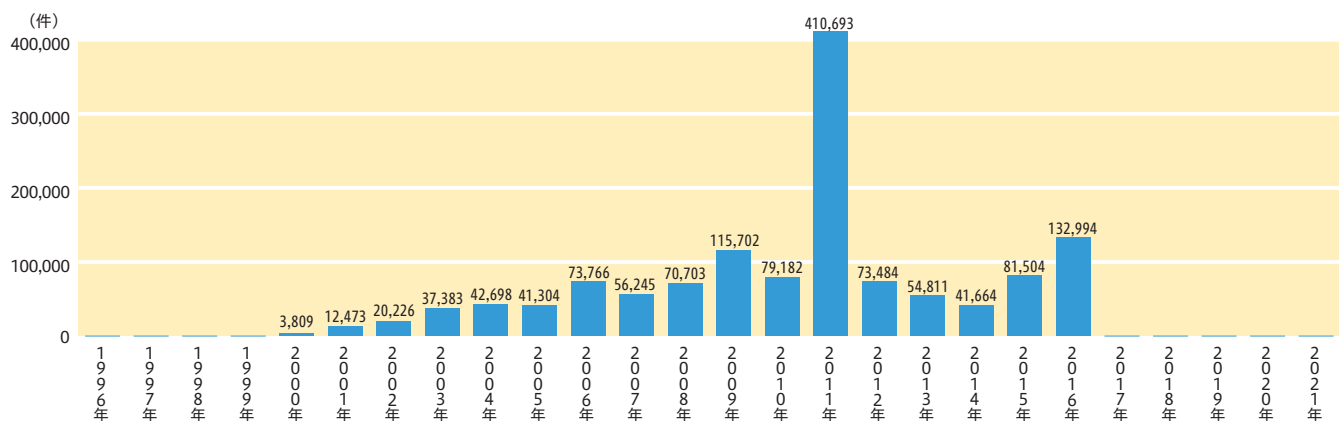


図6-3 HPデータ閲覧件数（動的）

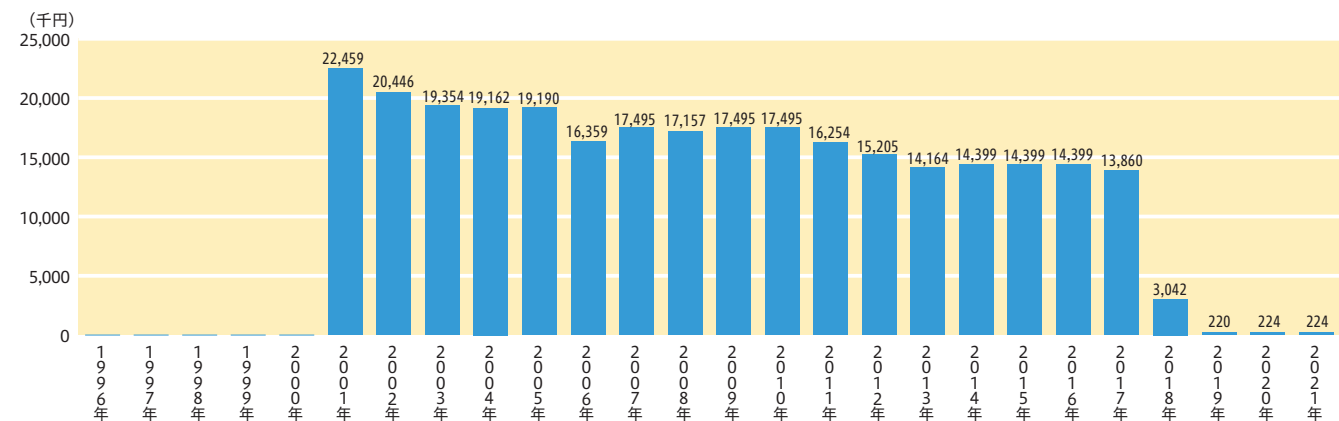


図6-4 情報システム管理費（2019～HPのみ）

広報営業

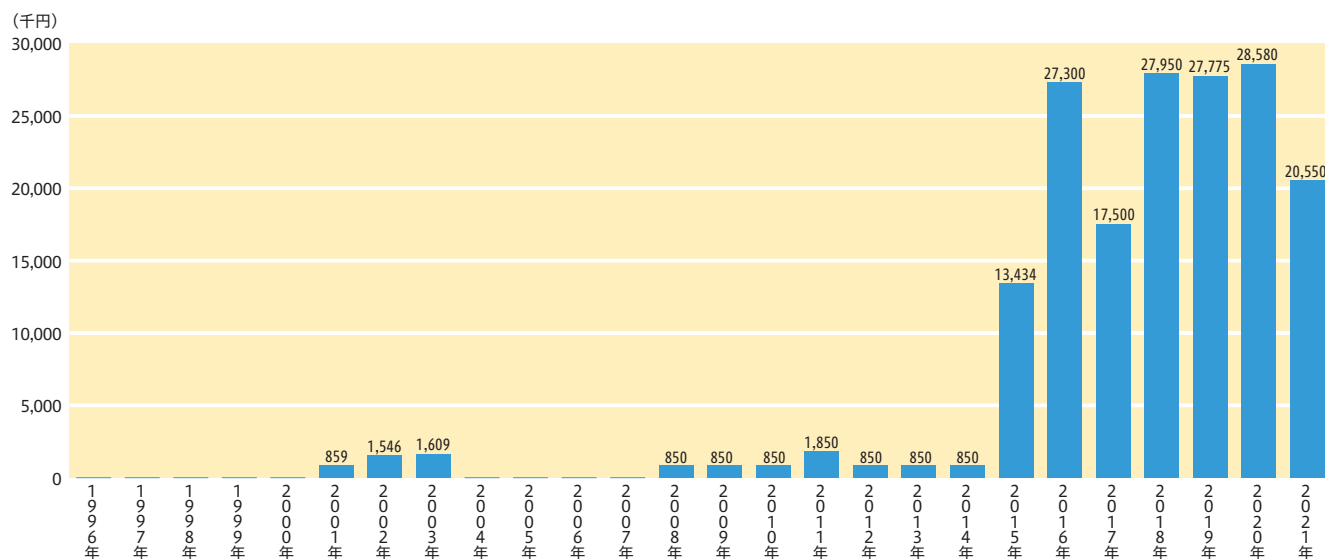


図7-1 広報広告費

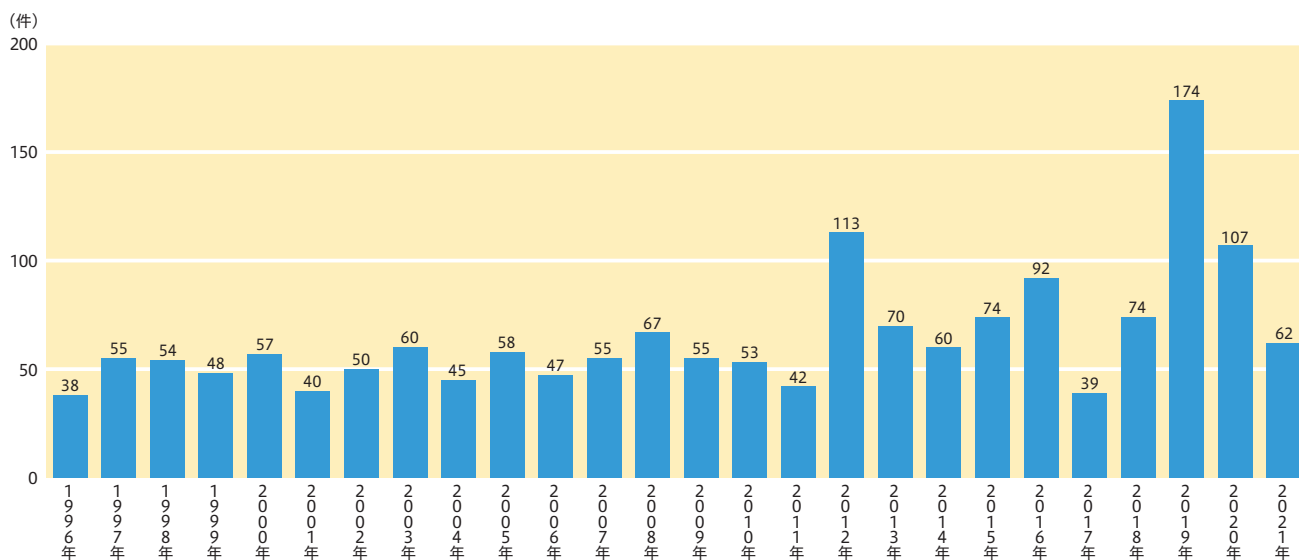


図7-2 メディア件数(テレビ・ラジオ)

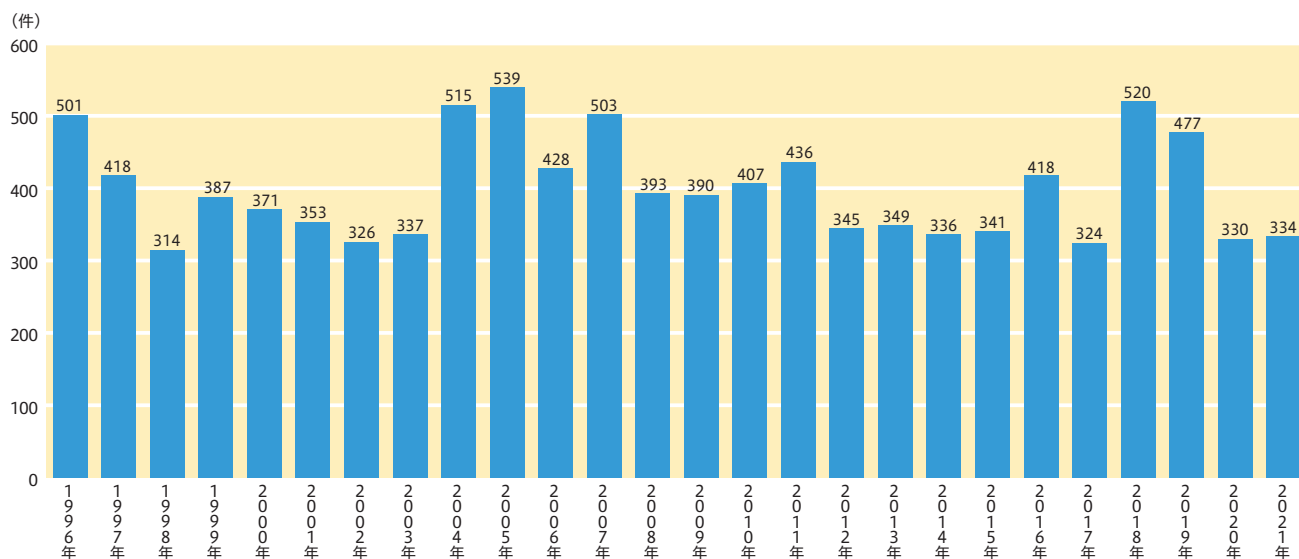


図7-3 メディア件数(新聞・雑誌)

区 分	年 度																										
	1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和2	2021 令和3	
総務事務職員数	8	9	9	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
小・中学生入館料金	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高校・大学生入館料金	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	450	
一般入館料金	500	500	500	500	500	500	500	600	600	600	600	600	600	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	800	800	
年間観覧券料金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
開館日数	130	298	297	297	303	305	309	310	310	309	308	308	308	304	309	310	311	310	310	3,000	3,000	3,000	1,500	1,500	1,500	1,600	600

年 度 区 分	平成17年度												
	開館 1996 平成 8	1 1997 平成 9	2 1998 平成10	3 1999 平成11	4 2000 平成12	5 2001 平成13	6 2002 平成14	7 2003 平成15	8 2004 平成16	9 2005 平成17	10 2006 平成18	11 2007 平成19	12 2008 平成20
歳入総額	224,021,083	416,614,626	284,300,681	223,234,747	200,271,206	188,704,004	181,366,532	173,323,131	176,902,607	179,703,633	188,624,038	181,018,269	170,389,054
歳出総額	1,579,101,000	1,202,317,000	1,058,916,490	950,149,490	931,404,367	884,376,405	839,676,983	792,868,926	779,907,153	775,742,472	690,562,250	666,270,421	511,125,690
管理運営費	718,404,000	463,811,000	398,813,272	338,449,377	353,933,176	348,799,631	315,150,723	316,884,240	314,615,399	360,029,066	287,415,855	284,235,822	283,042,871
調査資料収集費	322,468,000	344,938,000	269,406,307	275,957,910	273,592,878	256,273,131	234,703,515	219,633,308	227,860,432	188,936,635	182,804,154	180,096,837	103,845,720
展示事業費	247,378,000	257,927,000	256,172,661	228,924,816	209,004,599	193,726,868	193,851,797	190,590,183	175,063,432	171,570,478	168,946,996	146,004,685	91,174,761
情報交流事業費	290,851,000	135,641,000	134,524,250	106,817,387	94,873,714	85,576,775	95,970,948	65,761,195	62,367,890	55,206,293	51,395,245	55,933,077	33,062,338
環境学習推進費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

区 分	年 度		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和2	2021 令和3		
歳入総額	172,378,680	159,905,359	146,611,681	118,068,536	117,999,352	177,893,611	92,805,000	197,882,000	220,175,000	167,621,970	161,351,593	98,692,235	125,752,143		
歳出総額	496,310,764	549,027,507	620,205,256	483,046,457	580,860,215	553,122,318	1,256,944,000	1,349,055,000	598,089,000	879,766,795	950,018,103	1,237,971,901	531,059,358		
管理運営費	262,548,668	302,386,253	384,162,165	265,442,071	355,195,687	296,519,841	352,087,000	337,244,000	327,730,000	344,575,529	523,413,982	553,316,120	286,993,131		
調査資料収集費	123,244,672	123,228,904	121,652,139	102,402,354	105,645,260	100,410,327	100,793,000	128,483,000	130,516,000	113,762,774	115,721,672	105,052,741	120,460,116		
展示事業費	80,283,400	88,303,027	75,758,759	76,356,370	88,763,545	125,425,689	774,218,000	853,883,000	110,551,000	403,090,047	295,246,818	569,034,113	107,475,123		
情報交流事業費	30,234,024	29,984,140	35,488,307	35,566,764	30,304,262	29,773,090	26,811,000	26,495,000	26,347,000	15,629,195	12,855,770	9,744,456	9,880,279		
環境学習推進費	—	5,125,183	3,143,886	3,278,898	951,461	993,371	3,035,000	2,950,000	2,945,000	2,709,250	2,779,861	824,471	6,250,709		

区 分	年 度																										
		開館	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
来館者総数	1996 平成 8	493,599	972,890	643,986	517,810	503,080	492,190	479,257	472,044	441,186	450,552	476,563	443,931	408,682	388,040	360,736	371,505	363,053	368,210	358,871	341,599	461,493	415,897	473,014	462,162	253,750	278,961
		・	・	・	287,703	291,198	286,607	302,286	306,449	270,654	292,490	318,708	294,255	274,836	264,597	244,510	255,500	251,813	255,060	244,471	252,749	351,050	315,398	359,595	358,150	214,964	229,267
団体人数	・	・	・	230,107	211,882	205,583	176,971	165,595	170,532	158,062	157,855	149,676	133,846	123,443	116,226	116,005	111,240	113,150	114,400	88,850	110,443	100,499	113,419	104,012	38,786	49,694	
	・	・	・	・	48,101	51,264	56,523	59,197	60,545	58,325	64,943	63,738	56,213	53,203	51,016	56,744	59,775	62,695	64,111	52,253	84,122	77,330	89,789	89,335	47,405	52,124	
小・中学生数	・	・	・	122,839	116,847	114,774	118,336	121,628	115,229	116,597	114,391	109,384	103,064	105,380	100,035	103,088	102,094	106,001	102,078	88,312	112,578	106,010	115,487	111,259	62,254	73,171	
	・	・	・	27,140	23,537	19,980	21,008	18,887	17,462	14,038	15,663	16,770	14,991	14,172	12,491	11,057	9,521	9,939	11,010	11,958	13,236	12,181	14,646	13,631	9,532	12,615	
一般人数	・	・	・	367,831	314,595	306,172	283,390	272,332	247,950	261,592	281,566	254,039	234,414	215,285	197,194	200,166	191,663	189,575	181,672	189,076	251,557	220,376	253,092	247,937	134,559	141,051	
	493,599	1,466,489	2,110,475	2,628,285	3,131,365	3,623,555	4,102,812	4,574,856	5,016,042	5,466,594	5,943,157	6,387,088	6,795,770	7,183,810	7,544,546	7,916,051	8,279,104	8,647,314	9,006,185	9,347,784	9,809,277	10,225,174	10,698,188	11,160,350	11,414,100	11,555,151	
来館小学校数(県内)	121	272	246	218	274	242	228	255	244	239	213	207	181	171	188	183	170	170	170	181	108	164	167	168	164	187	179
	43	255	283	311	382	369	400	429	466	450	387	383	359	319	280	266	253	242	221	127	166	165	174	162	88	159	
来館中学校数(県内)	26	41	43	45	48	45	67	73	70	47	44	45	36	26	31	23	26	22	19	20	18	19	15	18	14	21	
	19	101	96	91	136	129	182	178	168	263	152	127	117	108	109	112	110	109	69	66	39	60	60	67	35	50	
来館高等学校(県内)	16	44	43	42	44	39	28	22	21	23	22	32	26	26	25	27	21	15	30	17	13	20	13	14	6	9	
	10	68	74	80	65	33	58	46	52	48	40	34	42	40	31	24	26	25	32	36	32	23	33	36	9	20	
特別養護学校(県内)	24	20	16	12	20	15	21	8	20	14	20	16	29	20	23	16	13	13	15	13	7	23	14	21	13	19	
	8	9	9	8	13	11	13	17	15	20	12	13	14	26	25	26	17	10	13	7	10	13	14	17	5	12	
大学・専門学校数	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	38	34	4	54	37	53	54	46	52	47	18	18	
	451,570	894,130	595,909	475,019	408,017	390,233	374,512	359,431	322,366	321,393	344,995	315,854	291,493	200,383	178,881	157,579	138,938	145,411	132,164	139,142	183,161	161,420	169,959	174,559	105,116	108,150	
無料入館人数	42,029	78,760	48,077	42,791	95,063	101,957	104,745	112,613	118,820	129,159	131,568	128,077	117,189	187,657	181,855	213,926	224,115	222,799	226,707	202,457	278,332	254,477	303,055	287,603	148,634	170,811	

区 分	年 度																											
		開館 1996 平成 8	1 平成 9	2 平成10	3 平成11	4 平成12	5 平成13	6 平成14	7 平成15	8 平成16	9 平成17	10 平成18	11 平成19	12 平成20	13 平成21	14 平成22	15 平成23	16 平成24	17 平成25	18 平成26	19 平成27	20 平成28	21 平成29	22 平成30	23 令和元	24 令和 2	25 令和 3	
研究部学芸職員数		30	33	32	34	35	34	34	36	36	34	34	32	34	34	34	32	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31	30
		27	29	27	27	29	29	29	28	28	28	26	26	29	28	27	27	28	31	31	30	30	30	30	29	29	29	29
研究職員数		1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	3	2	0	1	1	1	1
		4	4	4	3	3	3	3	3	2	1	3	2	2	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1
総合研究数		12	16	19	16	21	18	17	15	11	11	9	9	8	5	4	10	11	11	10	5	5	9	10	11	12	12	12
		29	31	31	33	35	32	34	34	32	34	35	31	34	33	32	32	33	33	34	33	33	31	29	30	30	30	
専門研究数		14	32	21	31	26	36	26	33	30	35	33	44	42	21	19	28	25	21	34	24	24	18	27	15	14	32	
		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
業績論文数		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
専門記述数		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
一般記述数		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
一般記述数		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	
		36	240	75	58	80	62	68	66	53	48	82	46	36	28	44	57	77	57	56	33	25	43	27	52	23	32	

区 分	年 度																									
	開館 1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
学会・研究会発表数	40	45	107	109	116	170	91	11	178	79	119	132	83	40	61	71	60	53	64	48	39	126	54	40	32	51
研究報告・シンポジウム等	5	2	7	5	5	51	11	16	12	5	15	6	6	12	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	2
研究セミナー・講座数	2	8	37	47	39	38	34	34	45	48	41	43	76	56	51	49	49	42	41	41	42	42	46	40	35	42
研究報告書件数	1	0	4	4	1	2	0	3	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	0	1	2	1	2	0
研究費（果費）	・	・	・	98,112,000	87,041,000	91,320,000	87,533,000	82,889,000	82,824,000	65,610,000	58,436,000	58,609,000	26,564,000	26,564,000	26,564,000	24,711,000	23,568,000	23,309,000	22,820,000	25,202,000	22,833,000	24,147,000	20,293,000	22,189,000	22,138,000	221,380,000
研究備品費（果費）	・	・	・	13,760,000	8,707,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	430,000	458,000	450,000	360,000	1,012,000	360,000	336,000	973,000	0	734,000	737,000	452,000	2,793,000	886,000
科研 代表数	0	0	0	0	1	0	3	4	4	7	5	7	6	8	16	17	11	13	13	14	11	6	9	10	13	14
科研 外部分担数	2	6	5	1	2	2	3	3	7	9	14	8	7	1	3	4	6	9	9	12	9	5	1	8	13	16
科研費金額	・	・	・	・	・	・	3,000,000	4,100,000	4,800,000	9,500,000	6,200,000	8,370,000	7,020,000	12,220,000	31,680,000	29,120,000	17,810,000	22,750,000	22,660,000	29,250,000	18,980,000	11,830,000	16,929,000	15,080,000	16,900,000	19,240,000
その他（研究受託費）	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	8,563,000	2,460,000	2,862,000	4,312,000	3,728,000	3,228,000	3,539,000	0	200,000	100,000	100,000
特別研究員数	0	7	5	3	3	3	4	7	5	6	5	9	12	15	17	17	16	17	23	26	26	27	27	27	26	24
研究審査委員数	－	－	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	9	10	10	10	10	11	11	11	11	11	10	9	10

交流・環境学習①

区 分	年 度																									
	開館 1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
観察会・見学会件数	17	17	15	16	18	19	25	15	15	15	17	14	21	13	12	10	14	20	19	15	13	15	10	18	3	12
講座件数	2	9	7	3	2	1	1	4	4	5	5	6	5	5	5	4	4	4	4	3	2	2	2	2	2	2
講座回数	15	55	45	35	25	15	6	15	25	27	18	18	10	27	24	11	10	11	10	11	9	6	6	4	3	6
体験学習の日・わくわく探検件数	・	19	19	17	18	22	21	21	19	23	21	18	14	19	19	19	19	19	14	11	7	11	10	8	0	2
体験学習・小学校件数	・	83	52	95	134	64	72	94	67	71	70	94	68	55	69	61	76	111	95	75	80	82	70	59	43	45
体験学習・小学生受講者数	・	5,383	3,521	5,612	9,792	4,067	4,602	6,749	5,960	5,934	5,880	5,800	4,866	4,446	4,249	4,420	5,872	7,714	6,553	5,205	5,652	5,697	4,854	3,676	3,227	3,129
体験学習・中学校件数	・	11	7	43	34	27	59	55	47	44	51	36	32	31	32	23	30	29	24	24	23	24	21	20	8	6
体験学習・中学生受講者数	・	1,957	1,210	1,763	4,202	2,682	5,081	4,559	5,623	4,350	4,616	3,722	3,080	3,843	4,291	3,156	3,370	2,887	2,898	3,245	3,358	3,252	3,240	2,839	1,461	875
体験学習・高等学校件数	・	6	12	25	20	25	21	17	19	19	17	28	24	23	25	17	18	10	20	16	14	11	8	8	1	2
体験学習・高校生受講者数	・	508	607	1,661	2,355	1,368	147	983	1,982	1,325	836	1,207	1,398	1,170	1,115	319	282	505	889	1,113	612	354	271	493	78	107
体験学習・特別支援学校件数	・	・	・	・	・	2	1	3	2	2	4	1	3	2	4	3	6	3	3	2	9	3	5	2	3	0
体験学習・生徒受講者数	・	・	・	・	・	16	13	23	36	21	49	40	43	12	60	80	155	39	20	56	99	20	64	11	30	0
体験学習・大学件数	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	19	6	1	2	1	5	4	1	0	0
体験学習・大学生受講者数	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	564	348	31	76	31	505	521	8	0	0
体験学習・一般団体件数	・	・	・	・	・	・	・	30	32	33	32	32	31	18	10	16	14	23	8	3	6	3	1	0	0	0
体験学習・一般団体受講者数	・	・	・	・	・	・	・	747	1,285	2,176	1,250	1,250	1,703	880	439	370	736	1,023	483	69	231	53	22	0	0	0

区 分	年 度																											
	開館 1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3		
教職員等研修件数	44	68	45	77	48	73	84	36	17	25	33	15	34	17	22	24	14	13	22	20	16	23	18	12	11	87		
教職員等研修受講生数	1,834	2,028	2,138	2,659	1,554	1,586	1,306	842	318	489	936	669	1,096	786	786	760	520	539	626	691	528	658	550	441	400	347		
フィールドレポーター人数	－	105	143	125	105	123	136	139	146	169	172	122	157	137	95	95	99	111	114	204	222	204	218	195	175	184		
はしかけグループ数	－	－	－	－	0	6	9	11	11	14	13	15	15	16	15	15	15	16	16	19	22	22	25	26	25	25		
はしかけ登録人数	－	－	－	－	89	104	120	204	294	361	381	347	374	371	300	340	356	367	344	321	329	352	387	403	372	393		
地域連携・支援 館内件数	・	・	・	・	・	・	・	28	30	97	122	55	64	40	84	72	60	41	48	80	59	44	58	60	19	17		
地域連携・支援 館内参加人数	・	・	・	・	・	・	・	1209	1473	3646	5973	3336	4360	1857	2862	2417	1716	1611	1883	3133	2245	1743	2269	2218	910	446		
地域連携・支援 館外件数	・	・	・	・	・	・	・	28	45	70	57	32	41	78	110	71	82	47	64	57	30	45	57	72	18	39		
地域連携・支援 館外参加人数	・	・	・	・	・	・	・	1,601	3,826	4,602	6,600	1,982	2,659	4,321	8,500	5,080	4,656	2,617	3,240	3,143	1,722	2,754	3,588	4,757	6,151	2,021		
質問コーナー対応件数	613	842	801	760	936	826	840	701	818	632	632	899	579	696	916	836	871	945	799	554	717	659	832	854	373	805		
Query 件数	89	62	89	137	364	365	322	358	260	175	189	177	165	152	136	106	103	－	45	132	227	162	117	119	276	329		

区 分	年 度																									
	開館 1996 平成 8	1 1997 平成 9	2 1998 平成10	3 1999 平成11	4 2000 平成12	5 2001 平成13	6 2002 平成14	7 2003 平成15	8 2004 平成16	9 2005 平成17	10 2006 平成18	11 2007 平成19	12 2008 平成20	13 2009 平成21	14 2010 平成22	15 2011 平成23	16 2012 平成24	17 2013 平成25	18 2014 平成26	19 2015 平成27	20 2016 平成28	21 2017 平成29	22 2018 平成30	23 2019 令和元	24 2020 令和 2	25 2021 令和 3
相談件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	179	220	249	249	270	209	195	180	192	285	134	153
教材貸出件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	193	133	124	80	75	129	110	121	131	62	18	30

年度 区分	年 度																									
	開館 1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
収蔵概数	206,900	222,000	222,000	332,660	349,050	367,198	593,336	442,690	704,736	659,308	715,954	740,241	752,393	769,598	782,148	846,642	855,931	900,909	891,681	911,649	963,057	968,775	1,345,977	1,377,130	1,434,691	1,460,723
年間登録数	・	・	・	・	・	・	・	81,322	32,381	23,525	25,289	41,884	29,333	23,562	34,216	30,010	37,761	37,750	51,383	18,873	34,440	42,755	37,097	32,318	55,889	25,477
登録累計数	・	・	・	75,763	122,030	155,066	106,638	187,960	365,034	379,805	388,901	415,164	416,106	423,244	431,167	451,286	466,810	469,713	505,626	512,049	530,949	554,559	611,450	645,349	675,189	687,834
購入資料件数	5	3	4	3	4	9	6	4	3	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
寄贈・提供件数	8	10	7	10	10	92	55	173	119	162	110	117	100	96	93	78	69	81	78	75	67	67	49	66	71	76
水族繁殖生物件数	15	14	22	25	30	28	35	36	35	37	47	48	39	39	39	36	41	28	37	28	27	33	27	23	23	28
資料貸出件数	3	10	8	21	12	11	36	22	62	4	21	23	24	24	18	26	17	19	11	16	19	15	4	8	14	13
資料譲与件数	・	・	・	・	0	9	12	30	12	8	32	16	22	11	5	12	9	6	4	21	5	6	4	4	3	10
特別閲覧件数	・	・	・	2	4	1	9	4	11	53	95	90	56	71	66	78	68	52	56	34	43	35	45	37	44	35
研究利用成果件数	・	1	4	8	2	3	7	5	0	1	3	7	2	1	3	0	1	2	0	2	1	1	6	4	6	15

区 分	年 度	開 館																									
		1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
資料整理費	・	・	・	・	・	・	29,820,000	29,820,000	25,200,000	25,179,000	24,990,000	24,990,000	6,368,250	7,425,000	7,282,905	7,317,450	7,140,000	7,035,000	7,560,000	7,560,000	7,560,000	7,560,000	7,560,000	7,020,000	7,085,000	7,450,000	7,450,000
緊急雇用事業	－	－	－	－	－	－	32,025,000	19,680,234	16,949,990	18,800,000	－	－	－	－	1,071,000	17,707,095	17,612,000	－	－	－	－	－	－	－	－	－	12,900,000
資料整理員等人数	・	・	・	・	・	・	28	11	10	10	14	11	6	・	・	12	5	8	5	5	6	6	6	5	8	6 (+11)	
水族飼育管理費	・	・	・	・	・	・	76,933,500	74,497,550	73,741,550	73,500,000	73,500,000	73,500,000	61,220,000	61,220,000	61,110,000	61,110,000	59,850,000	59,850,000	61,597,800	61,657,200	79,596,000	79,650,000	76,334,400	72,219,476	72,882,040	67,793,000	
水族飼育員人数	・	14	13	・	・	・	14	14	16	14	19	19	17	18	12	13	14	13	13	13	11	15	15	14	11	17	11
燗蒸・IPM 費	・	・	・	・	・	・	9,271,500	8,452,500	8,410,500	8,550,000	7,051,800	6,494,250	6,787,200	2,509,500	3,158,400	2,721,421	2,982,420	2,241,120	2,719,290	2,573,856	1,272,240	1,822,500	1,787,680	2,104,920	2,541,000	3,886,000	2,666,000

展示

区 分	年 度	開館																									
		1996 平成 8	1997 平成 9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
常設展示更新件数		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
展示交流（トーク等）回数		130	298	297	297	303	305	692	643	734	664	730	883	348	352	363	360	355	246	326	190	344	344	344	0	0	0
ディスカバリー・ルームイベント数		0	0	0	1	2	3	4	0	1	11	14	9	2	9	11	9	4	6	15	12	13	13	11	10	4	4
企画展示入場者数(1)		39,015	29,856	36,961	33,398	58,955	46,995	53,760	59,549	50,914	80,171	22,700	54,636	55,039	70,530	54,013	29,256	46,998	67,347	37,227	73,956	38,664	49,128	42,918	42,478	49,695	26,475
企画展示入場者数(2)		9,717	25,061	31,392	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
水族企画展示回数		2	2	1	2	2	2	3	1	1	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0
ギャラリー展示件数		0	0	1	2	6	4	5	4	2	1	4	3	2	2	6	3	2	3	1	4	2	4	4	5	1	4
トピック展示件数		0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	2	2	3	4	3	5	2	5	3	8	4	12	8	7
水族トピック展示件数		0	0	8	7	11	12	13	12	8	11	12	13	16	11	11	14	19	19	23	5	0	1	1	1	1	0
新空間展示件数		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	9	16	11	14	11	8	14	13	13	12	9	7	－	－	－	－
オープンラボ利用件数		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	54	46	102	178
展示交流員人数		・	・	・	・	・	・	54	59	58	56	54	51	36	・	・	36	31	33	25	37	34	38	38	46	44	47
展示運営管理費		・	95,814,600	96,253,920	91,567,392	77,617,000	81,305,000	80,955,000	81,873,750	81,322,000	80,136,000	79,774,800	79,700,000	48,360,900	57,180,000	53,445,000	47,832,750	46,200,000	47,952,000	46,116,000	50,518,546	57,564,000	55,080,000	55,459,200	58,300,000	88,330,000	※
常設展示維持費 （屋外植栽維持費含）		・	・	・	・	・	19,291,000	18,102,000	18,921,000	17,535,000	17,337,600	11,917,500	12,764,850	7,731,150	7,822,500	6,688,500	5,901,000	5,869,500	5,449,500	4,871,880	4,857,732	4,770,360	5,060,880	5,080,000	5,006,200	5,006,200	5,006,200
企画展示費		・	・	・	・	・	35,994,000	33,915,000	34,650,000	34,650,000	29,998,500	26,880,000	29,925,500	22,919,925	2,999,850	10,500,000	2,310,000	4,998,000	2,676,925	3,321,000	3,917,380	4,323,240	3,672,000	2,082,800	2,750,000	2,530,000	※

(※感染症対策：23,050,743)

区 分	年 度																									
	開館 1996 平成8	1 平成9	2 平成10	3 平成11	4 平成12	5 平成13	6 平成14	7 平成15	8 平成16	9 平成17	10 平成18	11 平成19	12 平成20	13 平成21	14 平成22	15 平成23	16 平成24	17 平成25	18 平成26	19 平成27	20 平成28	21 平成29	22 平成30	23 令和元	24 令和2	25 令和3
博物館協議会委員数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	17
MOU数	1	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	4	5	6	7	7	7	7
国際視察研修対応数	・	・	・	1	・	3	44	45	48	52	48	48	49	36	42	25	40	41	39	18	34	37	34	24	1	4
国内視察対応	・	・	7	14	11	37	5	15	68	65	81	63	29	24	13	8	6	7	7	6	4	26	53	19	6	10
企業連携事業	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1	・	・	・	4	3	3	5	4	19	4	2
移動博物館対応件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	11	17	23	32	17	7	10	8	1	1
博物館実習人数	—	28	26	29	25	24	29	30	29	28	27	20	28	15	19	14	17	19	20	18	15	15	15	14	15	14
印刷物件数	4	13	13	38	34	38	36	47	36	41	44	35	11	10	9	20	23	21	18	22	24	13	21	26	15	13
ポスターチラシ発送先数	・	・	・	・	2,266	2,684	2,280	2,230	2,293	2,185	2,164	3,345	1,447	1,733	1,154	1,197	1,249	1,175	1,160	1,598	1,524	1,778	1,772	1,995	2,062	1,724
来館者アンケート収集数	1,380	1,872	1,969	3,375	1,679	1,202	484	822	780	595	934	907	1,100	696	509	431	497	393	286	505	384	395	219	125	91	256
ファックス情報提供	・	・	423	344	223	139	126	81	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
HPTP 開始アクセス件数(静的)	649	4,742	6,354	9,576	13,837	16,593	109,432	127,397	137,579	161,572	170,149	183,623	209,124	223,361	212,999	211,762	205,928	229,763	284,912	315,335	417,758	・	・	・	・	・
HPデータ閲覧件数(動的)	・	・	・	・	3,809	12,473	20,226	37,383	42,698	41,304	73,766	56,245	70,703	115,702	79,182	410,693	73,484	54,811	41,664	81,504	132,994	・	・	・	・	・
情報システム管理費 (2019～HPのみ)	・	・	・	・	・	22,458,840	20,445,516	19,353,600	19,162,143	19,189,611	16,388,580	17,495,100	17,157,042	17,495,100	17,495,100	16,254,000	15,205,050	14,163,660	14,398,560	14,398,560	14,398,560	13,859,370	3,042,360	220,320	224,400	224,400

区 分	年 度																										
	開館 1996 平成8	1997 平成9	1998 平成10	1999 平成11	2000 平成12	2001 平成13	2002 平成14	2003 平成15	2004 平成16	2005 平成17	2006 平成18	2007 平成19	2008 平成20	2009 平成21	2010 平成22	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 令和元	2020 令和2	2021 令和3	
広報広告費	・	・	・	・	・	858,890	1,545,800	1,609,000	・	・	・	・	850,000	850,000	850,000	1,850,000	850,000	850,000	850,000	13,434,000	27,300,000	17,500,000	27,950,000	27,775,000	28,580,000	20,550,000	
有料広告件数	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10	14	12	12	12	14	9	10	3	13	10	3	7
資料提供件数	・	・	・	・	・	・	・	・	・	42	44	49	93	76	70	51	50	43	51	54	54	62	71	71	25	38	
メディア件数(テレビ・ラジオ)	38	55	54	48	57	40	50	60	45	58	47	55	67	55	53	42	113	70	60	74	92	39	74	174	107	62	
メディア件数(新聞・雑誌)	501	418	314	387	371	353	326	337	515	539	428	503	393	390	407	436	345	349	336	341	418	324	520	477	330	334	
メディア件数(インターネット)	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	42	・	・	・	・	・	・	・	256	262	262	262	847	1254	
企業訪問数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	・	157	146	129	104	44	3	40	
寄付件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	53	77	115	312	126	20	91	
寄付金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	71	36,436,000	16,730,000	27,573,000	29,886,000	29,582,000	4,020,000	18,042,000	

* 以上をまとめるにあたって、山川千代美・亀田佳代子・中山法子が担当しました。

**滋賀県立琵琶湖博物館
25周年記念資料集**

令和4年(2022)3月

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館
〒525-0001 草津市下物町1091

電 話 077-568-4811

制 作 サンライズ出版株式会社